

Church-Building Elderships

Edited by
Al Baird and Wyndham Shaw

1章 教会を建てる長老の任務

ウィンダム・ショー

私はクリスチャン人生の中で、多くの素晴らしい長老たちを見て来ました。誰一人完璧な人はいませんが、彼ら全員が示してきた心と信仰、そして受け入れてきたリーダーシップの任務に心を動かされます。私たちはより多くの羊飼いを必要としています。ただ名前や地位だけではなく、心、信仰、そして神の前での高潔さを備えた羊飼いを。

若いクリスチャンの時に初めて会った長老は、後に私の義理の父となりました。彼、リチャード・ホワイトヘッドの印象は、私のミニストリーリーダーに対する見方とは違っていました。彼は名声と評判に満ちた、年老いた男性でした。彼は大学生に聖書のクラスを教え、私がノートを取るのについていけないほど多くの聖句を用いました。彼は親しみを込めて「歩くコンコルダンス」というあだ名で呼ばれました。しかも、私たち何人かを教会の後でランチに連れて行ってくれ、ご馳走してくれました！私は彼の、勇敢で、ビジョンを持ち、聖書を土台とした弟子としての人格に惹かれました。ポジティブな活力を示し、「ホワイトヘッド兄弟の腎臓チョップ（原文：kidney chopper）」と呼ばれたハグをしてくれました。私にとって、彼は世界と教会において急速に変わる文化景観の真っ只中にそびえる信頼と成熟の塔でした。

彼はビジョンの人でした。新婚の時に彼の花嫁の父が、長老として大学の近くで新しい教会を始めようとしていた時に、彼はかつての教会を去りました。彼は教会の成長、多くの大学生がいる教会を建てることを熱望していました。私の妻は、彼がホールに掲げた「5年間で500人」という文字を覚えていました。それは、当時の小さな教会には馬鹿げた目標でした。そして、教会をどのように建てるかをより良く学べるように、彼はバスを手配して当時急成長していた教会にメンバーを連れて行きました。彼と同僚の長老は、教会の成長を助けられる適切なリーダーを見つけようとし、問題があった時には勇敢に対処しました。私が卒業して引っ越した時には、教会は1200人以上に成長していました。

牧会と神の教会を建てることは、弱々しい人や臆病な人ではなく、勇敢な心を持った人によって成されます。ダビデのような羊飼いは柔らかい心を持ちながら、不屈の愛と神への誠実な信仰を示した信仰の勇者でありました。

収穫の時

私たちは 21 世紀のエキサイティングで困難な時に生きています。世界経済の危機、テロリストの攻撃、そして政治のリーダーたちが解決しない困難を経験してきました。しかし、霊的な世界における危機もそれに劣りません。あまり公表されないだけです。ただし、危機には勇気、信仰、そしてリーダーシップの機会が伴います。

私たちの共同体では、懲らしめと過去の過ちに対する反動的な感情や神学の時期を乗り越えてきました。私たちは決定的な瞬間に立ち会い、リーダーシップの模範と決断力を選択する分岐点に立っています。私たちの選択肢は、教会を建て続けるか、または記念碑として回想するか、です。サタンは常に、回心についての健全な教義、コミットメント、互いの責任、そして伝道への情熱に関して、教会の中に脅威を送って来ます。教会が繁栄するためには、教会を建てる長老は立ち上がり、対抗しなければなりません。

世の中は世界中で感じられる恐れ（個人、関係、そして経済における）のゆえに、収穫を待っています。神はこれらの危機という鋤によって、新たな安全を求める、幻滅した人々の収穫のために畑を耕しておられます。収穫の畑で種を蒔き、刈り取りをする働き手を切実に必要としています。教会のリーダーたちは、イエスが弟子たちに意図された通りの世の光、地の塩と教会になるよう明確に呼びかけるために、混乱、恐れ、そして自己満足を断ち切って行かねばなりません。

使徒言行録 20 章において、そしてまた 1 テモテへの手紙 5 章において、使徒パウロは長老たちを、教会の務めを監督し、導くように呼んでいます。長老がいるところはどこでも、また彼らが育つところはどこでも、監督と牧会者は確信と信仰と勇気を持って世の中と教会の危機に対処し、神の栄光を現すリーダーシップを取るよう準備されていなければなりません。世の中の危機は、人が神から離れ、罪が増殖することに起因しています。教会は、より多くの人たちがイエスの救いの恵みを見られるように助け、闇の世を照らす輝く灯台の光となり、信頼と愛、御言葉への従順を持って反応しなければなりません。

困難？それとも機会？

危機は常に大きな困難と機会をもたらします。旧約聖書、新約聖書を通して、長老たちは神の民が信仰によって前進するように呼びかけ続けてきまし

た。

歴史上、世のリーダーたちは撤退する誘惑にあった時、勇敢になるように呼びかけてきました。彼らの言葉はこのような時代にあって、羊飼いとリーダーに必要とされる精神について語っています。

ウィリアム・ウォレス卿「男は肩書きに従うのではなく、勇気に従うのだ！」（高貴な立場にありながら、危機に際して国を奮い立たせる信仰と勇気にかける人々に向けて語られた。）

ウィンストン・チャーチル「地獄を通っている時、進み続けなさい。」（ロンドンの爆撃を耐え忍ぶと決意したイギリスが弱まってきた時に語られた。）長老の務めは、聖書的な確信を支持することに痛みを伴う時も、そしてリーダーやメンバーを失う危険がある時でも、聖書的な確信を妥協しないことです。

フランクリン・ルーズベルト「唯一恐るべきことは、恐れそのものである。」（第二次世界大戦に個人的に関わり、危険を冒すことに怖気付くアメリカの人々を前進させるために語られた。）ほとんどの長老志願者にとって最も大きな困難は、聖書的な弟子の人生に個人的に関わるように弟子たちに呼びかける務めです。特に現在の特定の妥協に導く、過去の具体的な行き過ぎを経験した後で。

フィクションでありながら、しかし現実直結した会話が映画「アメリカン・プレジデント」の中に見られます。補佐官が大統領を戒めます。「本物のリーダーシップが不在の時、人々はマイクを持って語る人には誰にでも聞き従ってしまいます。彼らはリーダーシップを求めています。あまりにも飢え渴いているため、蜃気楼に向かって砂漠の中を這いながら進み、水がないことがわかると、砂を飲みます。」大統領は応えます。「人々は喉が渴いているから砂を飲むのではない。彼らは違いがわからないから飲むのだ！」

ポストモダニズムの哲学に訓練された宗教的な世の中では、聖書的な生きた水と人間的な砂の違いを知るとはとてもリアルな問題です。その違いを知り、健全で聖書的な教えと説教が説教壇からもクラスでも守られ、支えられるように確かめる羊飼いと長老が不可欠です。

羊飼いと教会のリーダーシップチームが取る決断と、今日取る態度は未来を決めます。繁栄する共同体の夢か、教会の減少と失望の悪夢か。

使徒 20 章は、このような時代における生き生きとした教会と長老の務めに対するパウロの夢を描写しています。

エルサレムに向かいながら、パウロはエフェソの教会の長老たちを呼びました。彼はこれがミニストリーと牧会についてのビジョンを示す最後の機会だと知っていました。テモテの手紙の中のパウロの言葉は、若い伝道者であるテモテを通して教会に影響を与え続けるパウロの継続的な努力を示しています。両方の手紙の中のリーダーシップのメッセージはとても似ています。健全な教会を建てる聖書的なミニストリーは、イエスによって示された模範であり、長老、伝道者、教師の集団リーダーシップを通して明らかに示されます。これは第一テモテと第二テモテ、テトス（牧会書簡）と使徒 20 章で示された長老のミニストリーのビジョンを学べば明白です。

私は最近、過去に御言葉を力強く説教していたかつての牧師と話し合いをしました。彼はパウロのミニストリーのモデルに従うべきか、イエスのモデルに従うべきかを議論していました。私の確信は、パウロのミニストリーは、イエスのミニストリーのモデルの進歩し続けている啓示であるということです。イエスは、新しい契約の教会やライフスタイルが存在した時には、この地上に肉体をもってはおられませんでした。使徒たちこそ、彼らの自分を奮い立たせる生活と文書を通して、教会生活とリーダーシップのモデルを示すイエスの計画でした。

ビジョンの重要性

牧会の聖書的で実践的な詳細を伝える前に述べるべきことは、長老の育成に着手したい若い教会にとって、長老のビジョンを持つことは不可欠である、ということです。長老は聖霊によって任命されますが、長老の務めは聖霊によって個人的にも集団としても変えられ形作られた人々によっても作られ、育成されます。私はチームリーダーシップの支持者であり、基礎的な説明として 2002 年にゴードン・ファーガソンと共著で「リーダーシップの黄金律」を書いて以来、自身の生活とリーダーシップでも実践しようと努めてきました。しかしながら、合意的なリーダーシップスタイルを奨励しながら、チームの意思決定プロセスを定義づけることに失敗しました。経験はしばしば章の追加や編集に導きます。それらはゴードンの続編である「ダイナミックなリーダーシップ」に見つけることができます。

私自身の経験と多くの人たちとの会話から明らかなことは、チームリーダーシップの要素を説明することは、それらを効果的に実践することに比べれば、

はるかに簡単ということです！チームリーダーシップは、概念を正しく掴むことと、実践により身につけたスキルの両方を必要とする芸術です。健康的で効果的な教会成長を監督するリーダーシップチーム（若い教会にとって長老の務めに最も近いもの）は、熟考されたビジョン、訓練のプロセス、そして学ぶ精神を通して建てられ、育成され、成長しなければなりません。

マタイの福音書 16 : 18 において、イエスはペトロにこの岩（イエスはキリスト、生ける神の子であるというペトロの告白）の上に彼の教会を建てると言われました。この聖句は新約聖書において教会を建てることについての最初の概念であり、長老の役割についてのビジョンと、教会を建てる土台となるビジョンを提供しています。

同じ概念がより明確に、エフェソ 4 : 11-16 で定義されています。教会を建てる熟練者として、パウロは使徒、預言者、伝道者、牧者、そして教師が教会を建てるためにイエスが与えた賜物であると伝えます。それぞれの賜物を持ったリーダーシップの役割が聖徒を整え、教会を成熟させるために不可欠です。

（使徒たちはイエスを実際に目撃した人たちであったため、この務めが彼らの死後も継続されていると考える根拠はありません。）

長老と伝道者の役割はしばしば互いに対立するものと見られてきましたが、それらは互いに教会を建てるためのチームの 2 つの要素として意図されたものであると信じています。またチームを助け支える賢い女性からの助言も含まれる必要があります、しばしばリーダーシップの一員となると信じています。

使徒 20 章、第一テモテ、第二テモテ、そしてテトスは長老たちのグループと長老の任命を任された若い伝道者に対するパウロの指示の例です。多くの同じリーダーシップの性質がどちらの役割にも求められています。

保護、つながり、矯正、方向性、愛情

最初の教会リーダーたちは類似したビジョンを持っていたことに気づくことは重要です。使徒 20 章では、長老たちはパウロのミニストリーに従うように命じられました。このミニストリーは 5 つの言葉で定義されます。保護、つながり、矯正、方向性、愛情です。

保護：パウロが長老たちに与えた命令は、教会内外からの偽の教えに対して警戒することです。教会を攻撃する者はどう猛な狼として描かれています。パウロからの手紙の中で、テトスは家中を混乱させている者たちを黙らせる長老

たちを任命するように言われます。ここで長老と伝道者が教会を守るために共に働いている姿を見ることができます。

つながり：真の羊飼いとして、イエスはご自分の羊の名前を知っており、羊は羊飼いを知っていると言います。彼らは羊飼いの声を聞き分けます（ヨハネ 10:2-5）。長老の務めは「仕事」ではありません。リードするためには、人々が本当の心の中にあることを打ち明けられるように、会話やケアすること、安心を作り出すことによって教会とのつながりを勝ち取らなければなりません。

矯正：使徒 20 章で、長老たちは公にも、家々においても、躊躇することなく神の御心の全てを宣べ伝えるというパウロの生活に倣うように命じられました。これが暗示していることは、御言葉と調和しない生活を矯正することが彼らの務めの一部であったということです。長老と伝道者の両方がパウロの模範に倣うよう求められました。リーダーは教会の中における罪深い生活と対決する覚悟を持たねばなりません。

方向性：使徒 20 章の長老たちは教会を建て上げるために恵みの御言葉を委ねられました。パウロが教会に向けて書いた内容は、神の民が人生のすべての面でどのように生活すべきか教えるためのものでした。言い換えると、彼らの人生の方向性は聖書的であるように意図されています。結婚から子育てまで、関係、社会的、法律的に互いをどう扱うか、死と現実死ぬことまで。教会を建てる中核となる聖書的価値観についての確信は、長老たちの間のみで共有されるものではなく、メンバーにも分かち合われ、期待されなければなりません。それは、以下のような教えを守ることです。マタイ 28:18-20（世界ミッションとディサイプリングのミニストリー）、エフェソ 4:11-12（ミニストリーの働きのために聖徒を整えるために賜物を与えられたリーダーシップの役割）、1テモテ 3:14-15（神の家におけるメンバーシップの期待）、使徒 2:42（基本的なことへの献身）、そしてガラテヤ 2:10（貧しい人たちを覚える）。伝道と祈りは教会の生活と方向性における基礎的な部分です。

愛情：使徒 20 章で、パウロは長老たちに対する指示を別れの涙で締めくくります。このシーンが明らかにしていることは、彼らの間に深い愛情があったということです。そして、その愛情は長老たちや他のリーダー、そして監督しているメンバーたちとの間に見られるべきです。長老たちがメンバーの人生の喜びや痛みを見る時に、愛情は示される必要があります。長老たちは地位によって平然と分離されるのではなく、彼らの愛のゆえに情緒的につながり、寄り

添う者であるべきです。このパウロの模範は、彼の全ての手紙で表現されている愛情に見ることができます。それは、愛の表現です。羊に寄り添うことのない長老は、教会を建てる上で必須の要素に欠けています。涙と愛の表現は公にも、家々にまでも見られるべきです。

使徒 20 章は、使徒パウロの模範に習い、彼が任命することを望んだ長老たちによって具現化されてきた、教会を建てる長老の務めのビジョンを示しています。「威厳をもった愛」を実践する聖書的な羊飼いになるには時間がかかります。最後までこの道に留まり続ける忍耐と粘り強さが必要です。告白し、悔い改め、間違いや誤った判断を改める謙虚さが必要です。立ち上がって、確信を持って、躊躇することなく再びリードする勇気が必要です。このような謙虚で、勇敢で、忍耐する長老となることができ、神の教会を建てるために用いられるように願います。

2章 歴史の中の長老

アル・ベアード

長老は古くから存在しています。この発言はいろんな捉え方ができますが、この章では歴史上の長老を詳しく探っていきたいと思います。「長老（原語：elder）」という言葉、またはそれに相当する他の言語は記録された歴史の中で、様々な国や文化において尊敬、名誉、権威ある地位を示すものとして使われてきました。この慣習は通常、どのグループにおいても最も年長の者が最も賢く、ゆえに何か他の方法でグループを治め、助言を与え、また仕える上で最も適任であるという考えに由来しています。

「長老」という言葉の歴史

「長老」という言葉は旧約聖書の年老いた男性を指すヘブライ語 *zaqen* から最も頻繁に訳されていますが、ほとんどの場合はより具体的な役割を指します。旧約聖書において、長老は権威を行使する、または裁判官を務める年配の男性でした。ヘブライ人の長老が最初に登場したのは、古代の族長の家族の教えからでした。モーセの時代には彼らの務めはしっかりと確立され、実際のところ、旧約聖書全ての時代を通して、地域のリーダーとして仕え続けていたことがわかります。社会的な制度として、様々な種類の長老が挙げられています。民の長老（イスラエル：出エジプト記 3:16、モアブとミディアン：民数記 22:7）、地域の長老（ギレアド：士師記 11:5）、部族の長老（申命記 31:28）、捕囚の長老（エレミヤ 29:1）、街の長老（2列王記 23:1）。最も有名なものは民、国、または街の長老です。神の民における最初の長老の集団についての言及は、出エジプト記 3:16 と 18 節に見られます。神が燃える柴の中からモーセに語り、エジプトに行ってファラオに語り、イスラエルを解放するように命じた時のことです。神はモーセに対して、神がモーセと長老たちをこの働きのために呼び出されたことを長老たちに知らせるように告げました。私たちはいつ、どのようにこの長老たちの集団が生まれたのかわかりませんが、シナイ山でイスラエルが国民として公に組織される前に、彼らが存在していたことは重大なことです。出エジプト記 24 章では、モーセのリーダーシップの下でイスラエルの集団を治めるために、70人の長老のチームが選ばれました。燃える柴の呼びかけ以降、モーセは長老たちと密接に働いて来ました。モーセは彼らに

どのように過越祭を祝うかを教え（出エジプト記 12:21）、岩から水が流れ出る奇跡を目撃させ（出エジプト記 17:5-6）、そしてシナイ山に伴って登り、そこで彼らは「イスラエルの神」を見ました（出エジプト記 24:9-11）。モーセが神の裁きを告げるためにダタンとアビラムの元に向かった時、長老たちも一緒でした（民数記 16:25）。モーセが神に一人で民を導く重荷を負えませんかと話した時、神は長老たちを集め、モーセがリードすることを助けるために任務と権限を与えるようモーセに告げました（民数記 11:16-17）。長老たちは地域の判事の資格を持って仕え、部族の統治者として以下のようなケースにおいて律法を適用する具体的な指示を受けていました。意図的に人を殺して逃れの町に逃げ込んだ者（申命記 19:11-13）、未解決の殺人（申命記 21:1-9）、両親に懲らしめられても聞き従わないわがままで反抗的な子供（申命記 21:18-21）、結婚した時に妻が処女でなかったと主張する夫（申命記 22:13-21）、亡くなった兄弟のために子供を残すため、兄弟の未亡人と結婚することを拒む者（申命記 25:5-10、ルツ記 4:1-12）、その他にも多くの状況がありました。

旧約聖書における長老の役割と影響力

士師記、統一王朝と南北王朝、バビロン捕囚、そして約束の地への帰還の時代を通じて、長老の役割と影響力は続きました。神の前に正しい長老は、国が神に忠実であり続けるために非常に重要でした。ヨシュア記 24:31 と士師記 2:7 によると、イスラエルはヨシュア（そして神の奇跡を目撃し、ヨシュアよりも長く生きた長老）が生きている間は神に仕えました。長老たちはアンモン人との戦いにおいて民を率いる士師になるようにエフタを呼びました（士師記 11:4-11）。

罪により王位を剥奪されたサウル王は、解任される前に長老たちの前で体裁を保てるように願いました（1サムエル記 15:30）。サウルの地位を引き継ぐイスラエルを治める王として、長老たちはダビデに油を注ぎました（2サムエル記 5:3）。新しいレハブアム王は愚かにも長老たちの助言を退け（1列王記 12:8）、王朝を分裂させ、イスラエルのほとんどの国を失いました。強力なアハブ王でさえ、戦争を宣言する前に長老たちに相談しなければなりませんでした（1列王記 20:1-8）。ユダヤ人が捕囚から帰還した時、エズラ記で長老の役職の力を再び見ることができます。ユダヤの長老たちが神殿の再建を先導していました（エズラ記 6:14）。

しかしながら、彼らの影響力と行動はいつも神に喜ばれるものであった訳ではありません。彼らは神の預言者に導かれるよりもイスラエルを導く王を求めてサムエルに挑みました（1サムエル記 8:4-5）。2サムエル記 17:1-4 では、彼らはダビデに反旗を翻すアブサロムの側につきました。バビロン捕囚の時には、エゼキエル 8:12 において預言者は容赦無く長老たちを戒めました。

バビロン捕囚からキリストの誕生の間、イスラエルはもはや国家ではなくなり、長老が何の民間の権限も持たなくなった時に、ユダヤ社会は会堂において機能し始めました。旧約聖書でははっきりとわかりませんが、イエスの誕生までに会堂制は確立されていました。会堂の統治者として当時の長老たちは、現在の教会の長老たちと同じく、礼拝や人々の霊的生活を監督しました。興味深いことに、どの会堂でも常に複数の長老が存在していました。会堂に加えて、最も強力なユダヤの支配組織は 71 名の男性（長老、元大祭司、律法学者、ファリサイ派、そしてサドカイ派）から成るサンヘドリン（最高法院）でした（ユダヤ人はローマ帝国の支配下にいたために、そこまで強力ではありませんでしたが）。これがイエスと初代教会に反対したグループです。西暦 70 年にエルサレムが滅ぼされた時にサンヘドリンは廃止されました。

新約聖書における長老

旧約聖書の長老の役割を理解すると、新約聖書の教会における長老の役割をより完全に理解することができます。最初のクリスチャンはユダヤ人であり、役職もユダヤ人のものに似ていました。当然、ルカは使徒 11:30 において初めてクリスチャンの長老に言及する時に説明を要しませんでした。長老の責務を尊重し、旧約聖書における長老の基本的な務めが継続されました。全ての長老が群れを監督し訓練する責任を持ち（使徒 20:28）、全ての長老が神に喜ばれる方法で御言葉によって神の民を治め、導かねばなりません（使徒 20:29-31）。ヤコブのような長老はエルサレム教会とエルサレムの議会で重大な役割を持ちました（使徒 11:30、15:2-6、22-23、16:4、21:18）。パウロとバルナバは新しい教会を組織する重要なステップとして長老を任命しました（使徒 14:23、アンティオキア、ピシディア、イコニオン、リストラ、デルベの教会）。それからパウロはテトスに他の長老を任命するように指示しました（テトス 1:5）。パウロは長老たちと直接話し、警告しました（使徒 20:17）。「どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御

自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。」(使徒 20:28)

ヨハネの黙示録において、神の御座を囲む 24 の王座に 24 人の長老が座っている姿が描かれています。これが旧約聖書の長老のことか、新約聖書の長老、または黙示録の多くにあるような象徴だとしても、このことは神の計画全体において長老の役割の重要性を示しています。

新約聖書で長老に言及される時には、どの教会においてもただ一人の長老が導いていると推測されるものは一切見当たりません。それらは互いに同じ意味で *presbuteros* (長老の複数形) そして *episkopos* (司教の複数形) と言及されています。これは 1 世紀の後半においても同じでした。使徒教父 (1 クレメント、ディダケーのような、訳注: 1 世紀末から 2 世紀前半にかけて、新約聖書に収められた文書以外の主要な文書を執筆した者達の総称) の書物も、教会の統治者として司教たち/長老たちの使徒的権威を主張し続けました。この 2 つの用語は全く区別せずに使われました。しかし、2 世紀の初めになると、別の使徒教父であるアンティオキアのイグナシオは、多くの教会で一人の司教による統治を記録しており、これが 2 世紀の中頃には規範となりました。イグナシオは長老の集団とは別に、一人の司教の実践に言及し、司教と長老を区別しました。2 世紀とそれ以降のほとんど全てのクリスチャンの著者が、かつて教会に複数の監督者たちがいた時代があったことさえ忘れてしまったかのようです。

教会が成長するにつれて、小さな町の教会では独自の司教がいまませんでした。代わりに、最も近くの大都市の司教が全域の監督者として仕えました。西暦 325 年のニケーア公会議の時までには、強力な司教が多数の教会をリードしていました。5 世紀になると、5 人の司教が権力の座につき、当時のキリスト教世界のほとんどを監督しました。それらの 5 つの地域は現在もあります。アレクサンドリア、アンティオキア、コンスタンティノープル、ロシア、そしてローマです。初めの 4 つの地域とローマとの違いは 1054 年の「大分裂」に至り、ローマカトリック教会と東方正教会の公な成立を生みました。カトリック教会の司教は教皇という称号を受け、正教会の司教は主教 (原語: *Patriarches*) と呼ばれました。同義語であった *presbuteros* (長老) と *episkopos* (司教) が新しくかつ異なる意味を帯びるようになっただけではな

く、6世紀になると *presbuteros* は祭司として、今日の私たちが思い浮かべるのと同じように、完全に機能していました。

聖書の言葉からそれていく

聖書の言葉が教会の導き、構造、そして実践としての役割を失っていくとともに、教会統治は激しく墮落していきました。95か条の論題を貼り出したマルチン・ルターにより1517年に宗教改革が始まり、聖書の権威に立ち返る重大な試みがなされました。フルドリッヒ・ツヴィングリやジャン・カルバンのような宗教改革者たちは新約聖書の教会統治を調べ、長老制を回復する上で大きな一歩を踏みました。カルバンは機能的な長老制を確立し、初期の教会のように、複数の長老によって長老制が構成されるべきであると教えました。

1568年に書かれた「長老に関して」と題された論文において、こう述べられています。「全ての長老は勤勉に自分の教区、地区を監督し、最低週に一回は家から家へと彼らの保護下にいるメンバーを訪問し、教え、霊的な監督を実行せねばならず、病人を訪問することも同様である。」「長老制 (*presbyterian*)」のモデルを採用した教会は司教の役職を廃止し、地域集会のリーダーは「祭司」の代わりに「牧師 (*minister*)」という名前を使い始めました。この合意の中で牧師のリーダーシップは長老と共有されるようになりました。イングランドの教会はローマの教会統治の形式を保ち続けましたが(階級制)、カントベリー大司教を教皇の代わりに教会の長として任命しました。英国国教会や米国聖公会のような他のグループもこのモデルに従っています。いくつかの会衆的また単立の教会(多くのバプテスト教会を含む)は教会統治の聖書的形式の実施に近づいており、全ての会衆に長老のような役割を持った人がいます。しかし、このような教会では長老の役職は通常、牧師 (*pastor*) だけに見られ、執事の役員会が長老の集団がすべき働きの多くを担っています。

長老と回復運動

次の重大な一連の出来事は1800年代初頭に、主にアイルランドからアメリカへの移民であったアレクサンダー・キャンベルの主導によって起こりました。1500年代に起こった宗教改革はカトリック教会の「改革」を試みましたが、多くの異なる信条や教派を生みました。キャンベルは断固として、このような分裂は全て不信心であり、唯一の解決は導きと権威である聖書に完全に立

ち返ることであると主張しました。様々な見方や実践の中で、キャンベルが擁護したことはそれぞれの地域会衆の独立、ミニストリーを損なわず聖職者の全ての特権を拒絶すること、教会をリードすることに参加する信徒の権利と務め、信仰を伴う回心、悔い改め、罪の赦しのための浸礼、聖餐式を毎週守ること、そして複数による長老制でした。

残念ながら、キャンベルやその他の人たちが擁護し、私たちが宗教的遺産を受け継いで来た回復運動と今日呼ばれるものは、宗教改革から派生した全ての教派を一つにする考えの下に始まったにも関わらず、多くの別々のグループに分断されています。ヨハネ 17 章のイエスの死の前の祈りは信者の一致のためであり、サタンの最も強力な武器の一つは（もし「最も強力」でなければ）分裂を生み出すことです。ゆえに、今日の長老の主な役割の一つは、一致を築き、維持することです。私たちが長老として神の教会に仕え監督する時、（他の役割とともに）この役割を全うするためにビジョン、知恵、そして固い決意を持つように神が助けてくださることを願います。

3章 長老に対する聖書における見解

ラリー・クレイグ

長老とはどのような者であり、教会に対する神の計画において、なぜ重要な存在なのでしょう。長老の役割と機能について、聖書にはどのように書かれているのでしょうか。この章において、誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、を問うことで、これらの質問への聖書的な答えを探していきましょう。

1. 神の教会における長老とは、誰か？

これまでの章で述べたように、神がイスラエル人を救うためにモーセを遣わした時には、神の民を導く責任がある年配の男性という概念が既に存在します。燃え上がる柴の中で神がモーセに現れた時、神はモーセにエジプトに戻り、「イスラエルの長老たちを集め」るように言いました（出エジプト記 3:16, 4:29）。出エジプト、荒れ野でのさまよい、カナンへの占領の語の至るところで、イスラエルの長老たちという言及がなされています。長老の資質や選出のやり方についてのさらなる言及はありません。イスラエルの国となったその一帯の民族もまた、長老と呼ばれる集団によって導かれていました。例えば、ギデオンの時代のスコトの町（士師記 8:14）や、エフタの時代のギレアド（士師記 11:4-5）には長老がいました。

旧約聖書においてユダヤ人の歴史が続いていく中で、士師や王朝の時代、捕囚期、パレスチナへの帰還の時代を通して、いつも長老と呼ばれるリーダーのグループが出てきます。イエスがミニストリーを始める時にも、長老に対して一貫して言及されています。繰り返しになりますが、長老の具体的な役割やどのように任命されるかについての説明や注釈はありません。しかし、明らかに彼らは神の民に対して大きな影響と権威を持っていました。

初代教会が設立されたとき、何百年間もユダヤ人が既に受け入れてきたやり方を神が設定されたのは、論理的で適切であると言えるでしょう。新約聖書の中で長老について最初に言及されたのは、使徒 11:30 であり、アンティオキアの教会が飢饉に対する援助の品をエルサレムの教会の「長老たちに」送った、と書かれています。

新約聖書では長老の資格と役割についてさらに明らかにされており、「どのような者」であるかがよりはっきりと示されています。旧約聖書のいかなる場合も

そうであるように、新約聖書においても、長老という単語はいつも複数形の「長老たち (elders)」となっています (使徒 14:23 でパウロが長老たちを任命した時、使徒 20 : 17 でパウロがエフェソの教会の長老たちと会った時)。この役割を担う男性は、既婚者であり、信者となった子供を持つほど成熟しており、教会の内外で尊敬されるほど品位のある人でした (1 テモテ 3:1-7、テトス 1:3-9)。パウロは「監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる」(1 テモテ 3:1) とすら言うっており、長老が尊敬に値する役割であることを示しています (「監督」のような他の言葉の使用については、長老の役割について述べる時にさらに説明します)。

2. 長老の役割とは、何ですか？

クリスチャンの集会における長老とは、羊飼いであり、監督でもあります。

さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。 (1 ペトロ 5:1-2)

どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。 (使徒 20:28)

パウロはまた、よく指導している長老たちへの報酬について話しています (1 テモテ 5 : 17)。新約聖書で、古期英語において「長老 (presbyters)」と「司教 (bishop)」と翻訳されるいくつかの単語を、原語であるギリシャ語においては同じ意味で使っています。ほとんどの近代英語の訳では「長老 (elders)」や「監督 (overseers)」を採用しています。パウロはエフェソ 4 : 11 では「牧者 (pastors)」と言っていますが、この箇所を除いては「羊飼 (shepherds)」と訳される言葉をいつも使っています。パウロは長老を羊飼いと言っていると一般的には言われています。このような単語は全て、聖書における長老の責任と役割について示しています。聖書の時代における羊飼いの生活の働きから、羊を

導き守る羊飼いの役割を人々は認識していました。教会の長老は、教会とそのメンバーが霊的に満たされることだけでなく、教会の管理の面をも監督してきたようです。長老がどのようにその責任を果たしてきたかのより具体的なことは書かれていません。

長老に与えられたもう一つの大切な責任は、教会を偽の教義から守ることでした。教会が始まったばかりの時代でさえ、偽の教義によって信仰が弱まり、神の計画と目的を失う恐れがありました。パウロはテトスに信仰が安定している男性たちを長老に任命するように指示しました。

教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る人でなければなりません。

そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできないでしょう。（テトス 1:9）

長老が教会に対して権威を持っていたことは明らかですが、ペトロは長老たちに「ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい」（1ペトロ 5:3）と忠告しています。

3. 長老が任命され、認められたのは、いつか？

既に述べたように、旧約聖書ではどのように長老が任命されたかについて、はっきりとはしていません。より明確な例は、新約聖書の教会に見ることができます。パウロは教会を建てた後に、教会ごとに長老たちを任命するために再び訪れることを決めました（使徒 14:23）。後にパウロは長老がどのような人であるべきかについてテモテに手紙を書き、それからテトスに長老を任命するように命じました（1テモテ 3:1、テトス 1:5）。

任命する際にどのようなプロセスを経たのかは一切書かれていません。性質と成熟さについてパウロが与えたガイドラインに基づき、教会が長老になる人を推薦した、もしくは選んだのでしょうか。それとも伝道者が長老になる人を選ぶことが一般的だったのでしょうか。教会で長老を選ぶ投票をしたというような記録は一切ありませんが、教会ごとに何らかの方法で十分に吟味されました。明確なやり方は書かれていません。しかし、確かなことは、必要な時に、聖霊がより具体的な指示を与えた、ということです。例えば、レビ記では様々な状況に対してとても具体的な指示を与えることで、神の御心が示されています。具体的

な指示がなければ、教会と伝道者が最も良い選出プロセスを決めることができたでしょう。パウロがエフェソの長老たちに、聖霊が監督者たちを任命したと伝えたことから、教会は、既に羊飼いの心がある人として知られる人を正式に長老として認めたと考えられます。

長老たちが教会に支持されていたとことについての聖書的な根拠もあります。

よく指導している長老たち、特に御言葉と教えのために労苦している長老たちは二倍の報酬を受けるにふさわしい、と考えるべきです。聖書には、「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」と、また「働く者が報酬を受けるのは当然である」と書かれています。(1テモテ 5:17-18)

長老たちには信者である子供がいることが求められたので、教会によっては、長老になる資格を持つ人を有するためにしばらく時間がかかるかもしれません。教会が成熟するにつれて、教会がどのような方法で長老を認めるにせよ、より多くの人が羊飼いとして仕えられるようになります。

4. 長老が仕えるのは、どこですか？

パウロは説教した場所に戻って、「教会ごとに長老たちを任命し」ました(使徒 14:23)。後に、パウロはエフェソの教会の長老たちと感情的かつ深く心に残る集まりを持ちました(使徒 20:17-38)。次第に一人の長老が周りにいる他の長老たちをリードするようになり、ついにはいくつかの教会をリードする役割を持ち始めたことが、教会の歴史から分かります。このやり方は、新約聖書には書かれていません。確かに、人によって賜物、バックグラウンド、機会は異なりますが、聖書的な長老たちは、その地域の教会の羊飼い、監督として、謙虚に一致を持って仕えていたようです。ユダヤの教会のために、飢饉の援助の品を集めたというような、諸教会が地理的な地域によって一致して働いた例が書かれていますが、自分が住んでいた場所以外の教会を監督したような長老のグループはなかったようです。使徒たちや使徒以外の教会の設立者たちが、自分たちが始めた若い教会を成長させるために、そこを訪れることはありました。教会が若いうちは、支援してくれる教会からの指導が必要なこともあるかもしれませんが、教会がそれぞれに成熟すると、その地方の長老たちによって指導されます。自分の地域の教会をリードすることが長老たちの主な役割ですが、使徒 15 章のエルサ

レム会議の例で分かるように、より経験がある長老たちは、さらに広い範囲まで関わるように要請されました。

5. 長老が重要なのは、なぜですか？

新約聖書には、イエスが羊の大牧者であると書かれていますが（ヨハネ 10:10-18、ヘブライ 13:20-21、1 ペトロ 5:4）、歴史を通して、神の民は常に生きた人のリーダーシップを求めてきました。士師記では残念な繰り返しについて詳しく書かれています。士師の霊的なリーダーシップがある時には、民は喜んで神に仕え、従いました。士師が亡くなると、民は不従順と偶像礼拝に逆戻りしてしまうことがほとんどでした。王朝時代も、イスラエルの国（分裂後は分裂した二つの国）の霊的な度合いは、一般的には統治する王の霊的な度合いを反映していました。良いリーダーシップは必要不可欠です。一人一人が神様に対する申し開きをしなければならないとはいえ、霊的なリーダーシップがなければ、多くの場合、神の民全体として神様から離れて行ってしまいます。神様の教会に対する神様の計画は、長老たちがこの霊的なリーダーシップを発揮して、神の民が忠実かつ従順でいるように助けることです。

このような理由から、長老たちは良い性質の持ち主で、成熟しており、試練を通り抜けている人であるべきであり、また、神の民と神の教会の世話ができるように、自分の家庭をよく治めている人であるべきです（1 テモテ 3:5）。長老たちは成熟さと安定性を教会にもたらすので、教会の問題は、正しく、慎重に、忠実に対処されます。長老たちは偽の教義に異議を唱えます。彼らは献身的なクリスチャンの生き方の模範であり、成熟した教会になるように助けます。

そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。キリストにより、体全体は、あらゆる

る節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。 (エフェソ 4:11-16)

まとめ

長老とは誰ですか：長老は霊的に成熟しており、品位のある人で、首位の人々から尊敬される人です。

長老の役割は何ですか：長老は羊飼いかつ監督であり、教会の問題を指導します。

長老はいつ仕えますか：長老はテトスとテモテにパウロが伝えた資質とガイドラインを満たした時に、任命されます。

長老はどこで仕えますか：新約聖書では、長老は自分の地域の教会に仕えていますが、必要な時にはさらに広い範囲で仕えています。

長老はなぜ必要とされていますか：長老は教会に成熟さをもたらし、霊的に安定することや成長を促し、教会が健全な信仰をもてるようにします。

より多くの人々が長老の役割を担うことを切望し、神の民に仕える準備をすることによって、教会がキリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する助けとなりますように。

4章 長老の資質と資格

ジョン・ブラッシュ

長老の役割はしばしば多面的です。羊飼い、監督として、長老は人格と靈的に成熟している面で卓越していないといけません。クリスチャンとしての時間と経験からしか得られない知恵は、長老の役割を果たすために必要不可欠であり、その人が持っている本質的な賜物そのものよりもずっと重要です。靈的であることと、成熟していることは、神が長老を用いて神の民を導き、守るために必要不可欠です。神が新約聖書において、教会のリーダーシップのためのモデルを与えてくださっているのです。誰がこの役割として任命されるべきか、と問いかけるのは自然で極めて重要なことです。

長老としての基本的な資格

私たちが問いかけるべき最初の質問はこれです。どのような人が教会の長老の職にふさわしいと考えるべきでしょうか。

パウロとペトロは当時の教会に、1テモテ 3:1-7、テトス 1:5-9、1ペトロ 5:1-4に挙げられる資質を満たす人を長老として立てるように指示しました。興味深いことに、同じ概念を表現するために異なる言葉が用いられているので、そのリストが若干異なります。パウロは、クレタを含め様々な教会に仕えていたテトスに長老の資質のリストを送りましたが、それはテモテがリードしていたエフェソの教会に送ったリストと全く同じではありませんでした。ペトロは、迫害によって散らされた教会に対して書かれた手紙にいくつかの資質しか挙げませんでした。パウロとペトロは教会に書き送る「チェックリスト」を持っていたわけではなかったのです。三つの聖句のリストを全て組み合わせると、より明確な長老の全体像が見えてきます。聖句は全て若干異なる見解がありますが、それによりさらに全体的なイメージを私たちに与えてくれます。次の表で、これらの聖句に書かれている資質を比較してみました。

1テモテ 3:1-7	テトス 1:5-9
非のうちどころがない；教会以外の人々からも良い評判を得ている	非難される点がない
一人の妻の夫である	一人の妻の夫である

1 テモテ 3:1-7	テトス 1:5-9
節制がある	すぐに怒らない
分別がある	分別がある；自分を節する
礼儀正しい	正しく
客を親切にもてなす	客を親切にもてなす
よく教えることができる	教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る；健全な教えの反対者の主張を論破する
酒におぼれない	酒におぼれない
乱暴でない；寛容である	乱暴でない
争いを好まない	わがままでない
金銭に執着しない	恥ずべき利益をむさぼらない
自分の家庭をよく治める；子供たちを従順な者に育てている	子供たちも信者であって、放蕩を責められたり、不従順であったりしてはならない
	善を愛する
	清い
信仰に入って間もない人ではない	

(1 ペトロ 5:1-3 では、長老は自ら進んで世話をし、卑しい利得のためにではなく、権威を振り回さず、むしろ、群れの模範になりなさい、と加えています。)

これらの資格を単なるチェックリストとみなす傾向があるかもしれません。私たちには、心の性質を学ぶことよりルールを好むという誘惑があるので、とてもこのようになりやすいです。聖霊が私たちにここで伝えているであろうことは、同じ人の人格を見る時に二つの若干異なる見方があるということです。

教会で長老を選ぶときに、長老の務めを果たす人を探して任命する方法について、(主にキリストの教会から) 私たちに引き継がれている影響を認識することは助けになります。私たちは伝統的に、文字通りの解釈や「保守的な」取り組み方をしてきました。それはつまり、各々のリストにあるそれぞれの資質は満たされなければならないというものです。この一つの例はテトス 1:6 に書いてある資質があります。1 テモテ 3:4 では「常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません」とだけ言っているにもかかわらず、テトスは子供たちが「信者」でなければならない、と言っています。テトスの聖句によ

ると、長老の選出は、自分の子供が救われて忠実な弟子となっている人に制限されてしまいます。長老の職にとどまるためには、その子供たちは生涯を通して忠実な弟子でなければならない、と多くの人を感じています。その一方で、長老の子供は品位を保っていなければならないが、子供が大人になり親元を離れたら、子供の個人的な人生は親である長老の資格に影響しない、という人もいます。人が長老として任命される時には、どのような方法を取るかについて各々の教会がよく議論と研究を重ねるべきです。

長老の資格についてのもう一つの議論があります。1テモテ 3、テトス 1 と 1ペトロ 5 にあるリストは、長老の資格そのものなのか、それとも長老の役割にふさわしいと思われる人の資質についてなのか、というものです。長老にふさわしいとされる人の全体的な性質についてのガイドラインなのでしょうか。それとも「合格不合格」のリストなのでしょうか。この「合格不合格」のリストにする方法の問題点は、私たちがいくつかの資格をそれ以外の資格よりも重要視してしまうことです。私たちの教会の中では、子供たちが弟子であることばかりに多くの強調がいつてしまいがちであり、客をもてなすことで知られることをそれほど強調することはありません。長老の候補者を考える時には、ペテロとパウロの指示に対して、バランスの取れたやり方が必要です。

長老の資質

パウロとペテロが、テモテと迫害の最中にある教会に対する手紙で述べている最初の資質は、長老の職を求める（1テモテ 3:1）、もしくは自ら進んで長老になる意欲のある（1ペテロ 5:2）人を探すことです。パウロは「この言葉は真実です」という言い回しを用いて、長老に任命されるいかなる人にとっても、どれほどこの資質が重要であることを強調しています。人が長老に任命される理由は、キリストが教会を愛したように、その人が熱心かつ真剣に教会を愛し仕えたいからです。パウロはこれを「良い仕事（noble task：高貴な仕事）」と表現しています。長老が良い仕事なのは、キリストがご自身の血によって教会を買い取られたからです。

これが良い仕事、素晴らしい仕事であるという認識と確信を持つことは、長老の資質として不可欠です。なぜなら、監督、羊飼いとしての役割を果たす時、長老は多くの問題と試練に直面することになるからです。様々な形で人生の犠牲を伴うので、長老になることがその人の心からの願いでなければなりません。

使徒パウロはどんな人を長老に任命するかについてエフェソとクレタの教会に手紙を書きました。この二つの教会には、異なる状況とニーズがありました。エフェソは数年間長老がいる、より成熟した教会でした。エフェソの教会は、分裂を引き起こす偽の教師と異教徒の世界からの多くの攻撃にあっていましたが、長い長老を変えるニーズがあったのか、もしくは教会が成長するにつれて新たに長老を任命するニーズがあったのか、聖書はこのことを明らかにしていません。

クレタは多くの集落が集まる島でした。パウロは自分が終わらせることができなかったことを成し遂げるために、テトスをそこに残しました。クレタは長老のいない若い教会なだけだったのか、人が長老になれるように霊的に準備されるのに長い時間がかかったのか、私たちには分かりません。ペテロは厳しい迫害の最中にある散らされた教会に手紙を書きました。長老の資質のそれぞれのリストは、特定の状況にある教会のニーズに対応していました。

聖書は、長老の資格が一般的に三つの性質のカテゴリーに分類されることを教えています。それは、公的かつ霊的な生活、家庭生活、個人的な人生です。

公的かつ霊的な生活

長老の公的かつ霊的な生活についての資格を組み合わせると、長老は以下のようなべきです。

- ・ 礼儀正しい (1 テモテ 3:2)
- ・ 非の打ちどころがない (1 テモテ 3:2)
- ・ 非難される点がない (テトス 1:6-7)
- ・ 教会以外の人々からも良い評判を得ている (1 テモテ 3:7)
- ・ 正直で、恥ずべき利益をむさぼらない (テトス 1:7)
- ・ 客を親切にもてなす (1 テモテ 3:2、テトス 1:8)
- ・ 酒におぼれない (1 テモテ 3:3)
- ・ 乱暴でなく、寛容である (1 テモテ 3:3)
- ・ 争いを好まない (1 テモテ 3:3)
- ・ わがままでない (テトス 1:7、1 ペテロ 5:3 権威を振り回さず)
- ・ すぐに怒らない (テトス 1:7)
- ・ 信仰に入って、間もない人でない (1 テモテ 3:6)

- ・教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る (テトス 1:9)
- ・よく教えることができる (1 テモテ 3:2)

長老は教会の内外で尊敬されるので、その人格を誰も非難することはできないでしょう。長老は寛容と忍耐を持って人とつながることができなければなりません。苦難、個人的困難、教会での難しいこと、迫害がある時、教会ではこのような資質を備えている人が必要です。

長老は御言葉をよく知っており、弟子たちに真理を教えることができなければなりません。教会の内外から偽の教義を通して、聖句に対するサタンからの攻撃があるでしょう。長老はそのような攻撃から弟子たちを守るために存在します。

家庭生活

長老は問題に対処する人とみなされる前に、自分の家庭をよく治めることができなければならない、と聖書が言っているので、私たちは聖書が家庭生活についてどのように教えているかを理解する必要があります。長老の家庭生活についていくつかの資質が書かれています。

- ・一人の妻の夫である (1 テモテ 3:2、テトス 1:6)
- ・子供たちも信者である (テトス 1:6)
- ・子供たちが放蕩を責められたり、不従順であつたりしない (テトス 1:6)
- ・子供たちが従順な者である (1 テモテ 3:4)
- ・自分の家庭をよく治め、常に品位を保つ (1 テモテ 3:4)

「一人の妻の夫である」とはどういう意味でしょうか。ギリシャ語では、長老は「一人の女性の男性 (one-woman man)」であるべき、と書かれています。翻訳されてもその意味は完全には明確ではありません。福音が世界中に述べ伝えられ、教会のメンバーの年齢が上がっていくにつれて、クリスチャンになる前に離婚した男性がクリスチャンになってから再婚したり、配偶者が亡くなった男性が再婚したりする状況が、より頻繁になっています。長老にふさわしい人を考える時、それぞれの教会はどのようにこのような質問に対処するかを決める必要があるでしょう。

奉仕者の妻について述べられている資質があり、長老の妻にそれらと同じ資質を当てはめると、いくつかの性質が言及されていることが分かります。(聖句では、1 テモテ 3:11 では、「婦人 (the women)」という単語が使われています。この単語が、婦人の奉仕者たち (deaconesses)、奉仕者の妻たち、長老の婦人たち、のどれを指しているのか、学者の間で見解が異なります。しかし、いずれにせよ、書かれている資質は品位のある女性に対応しています。) 女性は以下のようであるべきです。

- ・ 品位のある (1 テモテ 3:11)
- ・ 中傷しない (1 テモテ 3:11)
- ・ 節制がある (1 テモテ 3:11)
- ・ あらゆる点で忠実である (1 テモテ 3:11)

以前に取り上げているように、候補者の子供たちの行いが最初に吟味される資格とされることがしばしばあります。このテーマについて、多くの本や研究で様々な解釈が成されています。長老にふさわしい人を検討するとき、このトピックは十分に議論され、研究されるべきです。

個人的な生活

誰も見ていない時の私的な生活で何をしているか、によってその人の性質の高潔さが明らかになります。長老は以下のものであるべきです。

- ・ 分別がある (テトス 1:8)
- ・ 正しい (テトス 1:8)
- ・ 清い (テトス 1:8)
- ・ 自分を制する (テトス 1:8)
- ・ 節制する (1 テモテ 3:3)
- ・ 金銭に執着しない、卑しい利得を求めない (1 テモテ 3:3、1 ペテロ 5:2)

これらは長老が備えるべき資質であり、近い人にはこれらの資質の持ち主として知られているべきです。個人的な生活は、神の御前でのどのような者であるかを表し、内なる望みを映し出します。純潔、財務管理、何かに対する中毒、

怒り、向上心、嘘のない言葉、というようなことについて明らかであることは、長老の役割を望む人にとって間違いなく極めて重要です。

まとめ

長老に選出される人は、キリストの体の一部として監督、羊飼いの役割を引き受ける意欲と準備がなされているべきです。長老が示すべきことは、愛と心理の中での神との歩みにおいて、家庭をよく治め、教会内外の人からの尊敬を得、自分の生活で節制していることです。完璧な人は一人もいませんが、パウロとペテロは長老の役割を担う人の姿を示してくれています。長老には弟子を導き、指導し、守るという高貴な仕事があります。キリストのように成長し続けていく中で、長老に選出される人は個人的にも公にも卓越した資質の持ち主であるべきです。

5章「羊飼いの心」

ビル・フーパー&ダン・リュウ

聖書（旧約・新約）には羊飼いについて多くのことが語られています。時には実際に羊や山羊の面倒を見ている羊飼いのことが語られています。時には家畜ではなく、神の群である、神の民の面倒を見ている羊飼いのことが書かれています。多くの聖句の中で神御自身が「羊飼いである」と教えています。

まず聖書から羊飼いの心について神が伝えたいことから学びます。この章の前半では聖書で「羊飼い」という言葉が使われている場面から学びます。後半では、羊飼いが何を「する」べきか、そして現代の神の国において羊飼いはどのような存在で「ある」べきか、を考えていきます。

羊飼いである神

ダビデは詩篇 23 編で単に「主は私の羊飼い」とであると語りました。預言者イザヤはこのような神を表しています。

主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。イザヤ 40:11

それによって神がこのように断言するような言葉の今が理解できます。「お前たちはわたしの群れ、わたしの牧草地の群れである。お前たちは人間であり、わたしはお前たちの神である」と主なる神は言われる。」（エゼキエル 34:31）

羊飼いである預言者、祭司と王

神が預言者、祭司や王様をそれぞれ任命した時に、彼らが愛を持って民を養う力強い羊飼いになることを想定していました。例えば、サムエルを通して神は羊を飼っている少年ダビデをイスラエルの王として選びました。第一サムエル 17 章では父の羊を飼っていたダビデの品性と勇気が語られています。聖書はダビデのことを「神の心に適う者」と賞賛しています（第一サムエル 13:14、使徒 13:22）。アサフはこのように書いています。

僕ダビデを選び、羊のおりから彼を取り

乳を飲ませている羊の後ろから取って御自分の民ヤコブを御自分の嗣業
イスラエルを養う者とされた。

彼は無垢な心をもって彼らを養い英知に満ちた手をもって導いた。

(詩篇 78:70-72)

神は祭司や預言者たちも同じように民をよく牧会することを期待していましたが、多くの場合、完全に失敗で終わりました。神は預言者エレミヤを通して悪い羊飼いを叱り、民の情けない状態を悲しむ言葉を語りました。

わが民は迷える羊の群れ。羊飼いたちが彼らを迷わせ山の中を行き巡らせた。彼らは山から丘へと歩き回り自分の憩う場所を忘れた。(エレミヤ 50:6)

主は再びエゼキエル 34:2-3 において悪いイスラエルの羊飼いを叱りました。

「人の子よ、イスラエルの牧者たちに対して預言し、牧者である彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。災いだ、自分自身を養うイスラエルの牧者たちは。牧者は群れを養うべきではないか。お前たちは乳を飲み、羊毛を身にまとい、肥えた動物を屠るが、群れを養おうとはしない。

神はこの羊飼いの自己中心を遺憾に思い、彼らの羊飼いとしての欠点を事細かく戒めます。

お前たちは弱いものを強めず、病めるものをいやさず、傷ついたものを包んでやらなかった。また、追われたものを連れ戻さず、失われたものを探し求めず、かえって力づくで、苛酷に群れを支配した。彼らは飼う者がいないので散らされ、あらゆる野の獣の餌食となり、ちりぢりになった。(エゼキエル 34:4-5)

旧約聖書を読むと何度も神は羊飼いの心に対しての期待を教え続けます。多くの預言者は自己中心な羊飼いを戒めることもありました。それと対照的に、ダビデがいかにか自分を捨てた羊飼いであったかも分かります。旧約聖書において、神ご自身が最高の羊飼いである模範であることが伝わります。

羊飼いであるイエス

新約聖書では、神の羊飼いの心の模範となるのは御子であるイエス・キリストです。ヨハネ10:3-16にはイエスの羊への愛情と充実な心が語られています。ここで霊的なリーダーシップの中核的なことが教えられます。羊が羊飼についていく理由は、羊飼いが羊のことを知っており、羊飼いを信頼しているからです。羊飼いは一人一人の羊の名前を呼びます。彼は羊のことを愛し、養い、守り、導きます。良い羊飼いは喜んで羊のために命を捨てます。雇い人はお金のために羊の面倒を見、危険になると羊を見捨てます。しかし、良い羊飼いは危険な時でも必ず羊を守ります。イエスは群衆を見た時、このように思いました。「また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。」(マタイ9:36)イエスが失われた羊のたとえ話で教えたように(ルカ15:1-7)、良い羊飼いは失われた羊を探し、見つけた時に心から喜びます。もう一つの新約聖書の手紙においてはその著者はイエスが「永遠の契約の血による羊の大牧者」(ヘブライ13:20)であると語っています。

使徒たちの羊飼いの模範と彼らの教え

イエスが羊飼いの姿について模範を示し、教えただけでなく、特に使徒ペテロにその模範に倣うことを呼びかけました。復活した後、イエスは三度もペテロに羊を飼うように命じました(ヨハネ21:15-19)。ペテロは自分が教わったことを他の長老にも同じように教え、キリストの模範に倣いました。

あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしぼむことのない栄冠を受けることになります。(第一ペテロ5:2-4)

違う場面において、使徒パウロはエフェソの長老達にこのような言葉を語りました。

どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。（使徒20:28-29）

清い心を持って羊を狼から守るように促し、イエスが自身の血の代価によって買い取られた民であることを思い起こさせました。

現代における羊飼い

神の民を牧会することについて聖書が教えることを、時間をかけて丁寧に読みながら考えた時、その責任がいかに大きいものであるかが分かります。旧約聖書から始まった牧者の心についての聖句は、イエス・キリストの教えと模範と使徒の教えによって全うされます。羊飼いである指導者のイメージを考えた時に、そのような者になるために必要な勇気と忍耐を考えます。神の言葉が繰り返して教えることとは、羊飼いは常に自分を捨てて、一人一人の羊を心から愛する姿勢が必要であるということです。神の民の羊飼いは教会、キリストの体である一人一人の羊に対して無条件な愛を持つべきです。

これらの教えを考えた時に、現代の羊飼いはどのような姿勢で群を監督するべきですか。現代の羊飼いの心にはどのような特徴がありますか。

長老は何をすることを求められているか

すでに読んだエゼキエル34章を振り返ると昔も今も、神は羊飼いに対して高い期待をしていることが分かります。この聖句を読むとどのようにしたら教会に対して無条件な愛を持てるかが教えてくれます。つまり、正しい心を持った羊飼いはどのように見え、どのような行いをするか。ここに描かれている、自己中心的な羊飼いの像をひっくり返して、自己犠牲的で愛に満ちた羊飼いが以下の責任を果たすでしょう。弱いものを強める。病めるものをいやす。傷ついたものを包んでやり、追われたものを連れ戻し、失われたものを探し求め、柔和で親切に監督する。

この責任一つ一つをより細かく考えていきましょう。

弱いものを強める

思慮分別のある長老は群れの状態を知っているでしょう（箴言27:23）。どの群れにおいても、弱いものが最も助けが必要です。弱いものは自分で食べることさえできない場合があるので、神の言葉によって霊的な栄養を与えていくことに注意を払うことが欠かせません。弱いものを強める長老は、忍耐しながら継続的に助け続けるでしょう。それは、会って一対一で話す時でも、小グループで集まる時でも、公の場で説教したり、教えたりする時でも。パウロがエフェソの長老に向けてこのような言葉を語りました。「受けるよりは与える方が幸いである。」（使徒20:35）。

病めるものをいやす

神にとっても弟子にとっても、信仰に満ちたお祈りは大切なことです。長老は祈りが必要な人のために特別な祈りの時間を作る必要があります。弟子と交わりしながらでも、祈りを求める弟子のためにその場でお祈りしてあげることもできます。ヤコブ5:14にはこのように書いてあります。「あなたがたの中で病気の人、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。」この聖句は祈りの結果として行われるいやしについても教えています。「だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。」（ヤコブ5:16）

傷ついたものを包んでやる

傷ついている弟子は信仰が傷ついているか、ダメージを受けてしまっています。例えば、親しい人が亡くなってしまうことは、霊的に強い人にとっても、信仰が試されます。このような時には、周りの人がどのような言葉をかけてあげるかではなく、その人の側にいてあげることが一番大事です。

追われたものを連れ戻す

過去数年間は、救われた弟子の中教会から離れてしまう人の人数が多すぎました。その問題は現在も続いています。一度離れた人が再献身し、交わりに戻ることは時間がかかるだけでなく、その人に丁寧に関わる必要があります。

迷った羊を連れ戻すための長老の役割は非常に大きいです。それだけではなく、弱いものを強めることによって人が離れることを阻止します。

失われたものを探し求める

全ての弟子と同様に、長老も全ての国の人を弟子にすることを期待されています。つまり、失われた人を探して、救うことです。神から与えられた尊い使命は私たちの生きた模範で示されるべきです。

柔和で親切に監督する

エゼキエル34章では神は利己的な羊飼いが力づくによってまたは苛酷に群れを支配したことを叱っています。羊飼いの心を持った長老は僕として指導します。力を持ってリードしながら、愛を持ってリードします。真理を妥協せずに伝えますが、弱いものを励まし、力がないものを励まします。何よりも長老が優しく群れを守っている姿が一番力強い模範です。

長老はどのように生きることを期待されているか

長老が果たすべき責任を一つ一つ考えていく中で、長老のやるべき行動がある程度方向付けられます。しかし、人は最終的に何をやるのではなく、神の前でまたは人の前でどのような人間として生きるかが最も大切なことです。どのような人間であるかはその人の心にどのような思いがあるかによって決まります。

何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。 (箴言4:23)

神は聖書を通して、羊飼いの心がどのようなものであるべきかを十分に教えられました。聖書を読みながら、または長老の責任を考えながら最後の部分では羊飼いとしてどのような心を持つべきかに注目します。

神を愛する心

その人の神との個人的な関係の模範が少数に対しても大衆に対しても一番大きな影響力があります。羊飼いの心はダビデ王の心のように、何度も詩編を通して神と個人的な関係を持てることだけに深く感謝していました。ダビデは若

い時に実際に羊の面倒を見ていた時に神との関係を深めていたでしょう。主の前に祈り、歌い、詩を書き、瞑想していました。神と強い関係を持ったことによって、のちにゴリアテやサウルなどとの難しい関係に立ち向かう力が与えられました。神の御心にかなった羊飼いは、心の中の最も深い部分まで神と共有し、どんな時でも神から完全な安心感をいただきます。自分の神との歩みをダビデ王と比較してみたらいかがでしょうか。神はあなたのことを「御心にかなう者」と言ってくださいますか。

誠実さと正直さであふれた心

全て私たちが語る言葉は測られ、評価されます。ダビデは「誠実な心」で民を監督した者として知られています。使徒パウロはコリントの教会に人の前でも神の前でも正しいことを行うことの大切さを教えました（第二コリント 8:21）。イエスは敵からでも「真実な方」だと言われました（マタイ 22:16）。神の御心にかなった長老は誠実で正直な人であるべきです。鉄の意志を持ちながらベルベットのような柔らかさを持つべきです。思うことを語り、語ったことを実行するべきです。愛深さと力強さを同時に持つこととは、神の言葉から知恵を頂き、愛に根付いて真理を語ります。誠実で正直な長老にとっては時には難しい選択せざるを得ない場面が訪れます。その時こそ祈りと断食をし、深い確信を持ちながら神と親しく歩む関係が必要です。

謙虚かつ力強い心

第一ペテロ 5:5-6には使徒ペテロがこのように語っています。「同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。」その前の3節ではこのように語っています。「ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。」

神の聖霊に導かれるために謙虚さと知恵が与えられるように祈りましょう。使徒パウロがフィリピ 2:3-4でこのように戒めます。「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。」

羊飼いとして生きるためには謙虚さが必要です。難しい問題に対して正しい判断したり、それぞれ異なる見解を理解したりする時も、教会と家族の時間の配分のバランスを取ろうとする時も、謙虚な心が大事です。

「They Smell Like Sheep」という本に記されていますが、著者のリン・アンダーセン博士はこのように語ります。

現代の霊的な羊飼いは批判を正しい見解で見分ける必要性があります。人の話をよく聞き、冷静に考えながら聞く必要があります。何よりも、長期に渡る人からの批判に耐えられるようになることが重要です。批判されても苦々しくなったり、頑なになったり、怒ったり、無関心になったり、自分を正当化するようにはなってはいけません。このような難しさは高潔な資質が要求され、神からくる平和による情緒的な安定感が必要です。

「ダイナミックなリーダーシップ」の本では、著者ゴードン・ファーガソン氏は以下のように語っています。

謙虚さを正しく理解することは、自信を奪うことではなく、自信をさらに持たせることである。なぜでしょうか。高慢な時こそ、自分の力に頼っており、謙虚な時こそ神の力により頼んでいるからです。

羊飼いの心を持った人は熱心に学び、人の真似をします。もし羊飼いになるための訓練されるグループに招かれたら、ぜひ謙虚に心を開き、できるだけ多くのことを学んでください。自分の人生の最も暗い部分も分かち合ってください。私たちの人生は誰でも覗くことのできる透明なものであるはずです。神はあなたのことを愛してくださっているのです、心から神を信頼してください。

愛と憐れみに満ちた心

夫婦関係の情熱を燃やし続けましょう。神の次の優先順位は妻であり、その次が子供です。結婚関係や親子関係において示す模範こそ羊飼いの心の表れになります。まず妻を愛し、キリストの前で輝く花嫁として妻を立たせ、愛と確信を持って自分の家族を養ってください。自分の家庭をよく治めることができ

なければ、どのようにして神の家族を治めることができるでしょうか。(1テモテ3:4)

自分の家を開放して、神によって救われた人として溢れる愛と憐れみを持って隣人を愛しましょう。神の家族の強い者から弱い者まで全員に触れましょう。人に情緒的にも、霊的にも触れていきましょう。長老は任命されてから羊を飼うようになるのではなく、長年羊を養ってきた結果が任命されることによって認められます。人生経験が豊富な成熟な人から学び、彼らの成功体験と失敗を聞きましょう。同じ過ちを繰り返さないように。多くの人から学ぶことによって羊飼いとして何をすべきか、またはどのような模範を示すべきかが分かるようになります。神の教えに従い、知恵ある者から学び、神を信じながら羊飼いの心を目指して生きていきましょう。

6章 リーダーシップの仲間たち 妻たちの知恵

編集者からのメッセージ：

妻がいなければ、誰も長老になる資格はありません。私たちは、妻がこの役割の重要な部分を担っていると信じています。妻の霊的な洞察力、知恵、誠実さは私たちを強め、完全なものにしてくれます。妻は付属品ではなく、私たちと心も魂も一体となって教会に奉仕しています。私たちがこの役割を果たすことができるのは、妻の犠牲と知恵、つまり現在の貢献とその遺産があつてこそです。

このセクションでは、私たちの妻がそれぞれ、長老の妻である人や長老になることを検討している夫を持つ人たちに伝えたい、長老の妻としての一面を紹介しています。これらの寄稿文を読めば、なぜ私たちが妻をこれほどまでに大切にしているのかがよくわかるでしょう。兄弟の皆さん、これらの貴重な洞察を読み飛ばさないでください。私たちは一緒にいることを忘れないでください。

召命を受け入れる

シャロン・ゴティエ (Sharon Gauthier) シカゴ、イリノイ州

「長老の妻」や「執事の妻」という言葉は、私たちの多くに不安感を抱かせます。「私の夫は偉大な神の人だけど、私は彼と結婚しているからこの役割を担っているだけだ」と考えてしまうかもしれません。このような自信を喪失させる内的対話は、神様が、私たちを通して行おうとしている偉大な働きを妨害することになります。

数年前、夫と私がミニストリースタッフになるように頼まれた時、こう思ったことを覚えています。「でも、私には欠点がたくさんあるわ。私が信仰を宣べ伝えることをどれほど恐れているか、彼らは知らないのかしら。夫に対してどれほど無礼な態度をしてしまうか、彼らは知っているのかしら。時々、私が日々のクワイエットタイムを取れない時があることを知っているのかしら」私は自分の能力と、私に対する神様の召命を疑っていました。

ある姉妹に自分の葛藤を打ち明けた後、彼女は私の考えを完全に变える聖句

を示してくれました。それは出エジプト記 3 章でした。神様はモーセに呼びかけた時、その召命はモーセのためではないことを明らかにしました。神様がモーセを呼んだのは、ご自分の民の叫びを聞いたからなのです。同じように、神様が私を呼ばれる時、それは私があまりにも素晴らしいからではありません。むしろ、神様を求める人々の叫びのためなのです。理由はどうあれ、神様はご自身の完璧な使命を果たすために、不完全な人々を用いられるのです。

もしあなたが「長老の妻」や「執事の妻」、あるいはシンプルに他の女性を霊的に助ける女性になるようにという召命と葛藤しているのなら、その召命はあなたのためではないと心に留めておいてください。神様はモーセのことを知っておられたように、あなたの弱さを知っておられます。もしあなたの夫が長老になることを考えるように頼まれたのなら、あなたが彼の妻であることは偶然ではありません。神様はあなたの夫が誰と結婚しているか知っています。出エジプト記 3 章 12 節のモーセに対する神の言葉を思い出してください。「わたしは必ずあなたと共にいる」神はご自分の仕事を完璧にこなすことができます。神が求めておられるのは、私たちが神様に全幅の信頼を置き、その呼びかけに答えることだけです。

聞きながら学ぶ

アーリン・シュガーマン (Erlyn Sugarman) ロサンゼルス、カリフォルニア州

私は、自分はコミュニケーション能力に長けていると思っていた時期がありました。何しろ、長々としゃべりまくり、言われたら言い返すことができるのですから。この考えは、聖書を読み始めて、ヤコブの手紙 1 章 19 節の「だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く」という言葉に出会って変わりました。

コミュニケーションは、話すことばかりではなく、聞くことの方がはるかに重要です。私はこの貴重な教訓を、教会の友人との交流を通して学びました。毎週日曜日に彼女に会うと、彼女と子供たちがどうしているか聞いていました。彼女の返事は決まって「ああ、頑張っているよ」でした。ある週の半ばの集会で、何かのきっかけで週末に何をしていたのかを聞いてみました。意外なことに、彼女は子供たちと過ごした素晴らしい一日を語って顔を輝かせました。彼女たちはハイキングをして、話して、笑って、ビーチでピクニックをしました。翌日、彼女

から電話があり「聞いてくれてありがとう」と感謝されました。

人の話に耳を傾けると、どれほど多くのことを学ぶことができるか、私は驚いています。彼らの痛み、悲しみ、孤独、そしてニーズが聞こえます。また同時に彼らの喜び、勝利、夢が聞こえます。彼らの才能も聞こえてきます。女性の方が男性よりもよくしゃべるというのは周知の事実です。私たちは話すことはできますが、聞くことも必要です。女性は非凡で、マルチタスクをこなす事ができます。

聞くことには力があります。私たちは、心と心で繋がり、目と目を見て、お互いの声を聞くことで、お互いを「理解」することができます。人の話を聞いていると、心と心で繋がることができます。相手を感じていることを感じ、相手を理解し、その人が経験していることに共感します。それによって全体像を見ることができ、点と点を結び、行動を起こすことができます。

私たちは、ある人から聞くことを常に選ばなければなりません。列王記上 19 章 11-12 節にはこうあります。

主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火後に、静かにささやく声が聞こえた。(列王記上 19:11-12)

それは、まだささやく様な声かもしれませんが、絶え間無く語られる声なのです。聖霊が私たちに語りかけるのは、私たちを導き、方向を示し、リードするためです。私たちが聖霊に耳を傾ける時、神の心を聞くのです。

神の恵みは十分である

エリカ・キム デンバー、コロラド州

この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十

分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。(2 コリント 12:8-9)

もしあなたが魔法の杖を振ることができるとしたら、あなたはイエスに何を取り除いてもらいたいですか。経済的な重荷、病気、配偶者の病気、誘惑、関係の衝突、子供の葛藤、仕事のプレッシャーなどでしょうか。

私は 25 歳の時から、SLE (全身性エリテマトーデス) という病気と戦ってきました。そして、20 代、30 代、40 代、そして今は 50 代と、この間まるで 85 歳のような気分で過ごしてきました。これまでの人生のほとんどで、元気で強く、健康であると感じたことはありませんでした。私は 26 歳の時にこの病気で死にかけましたが、多くの人の祈りと名医の治療により、30 代の時に 7 年間という短い一時的な回復を得ることができ、その間に御国でより積極的に奉仕することができました。

「(わたしの) 力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」とイエスは上記の聖句で語っています。長年、私はこの真の意味を理解することができませんでした。どうしてイエスの力が弱さの中で「完全」なものとなるのでしょうか。力とは、強さ、活力、エネルギーのことのはずです。私にはそのようなものはありませんでした。さらに、私はこの「完全」という一語に対し、本当にお手上げでした。

イエスでさえ、苦しみと死の時から自分を救ってくれるように、神様にお願いしたいという誘惑にかられました。イエスが生き、苦しみ、死んだのは、神様が栄光を得るためだったのです。(ヨハネ 12:23-24) キリストが最も弱く、おそらく最大の誘惑にさらされた十字架の時にこそ、神様の力と栄光が最も輝いていたのです。神様の力は弱さの中で完全なものとなりました。たとえイエスの弱さにおいても。

私の人生を振り返ると、神様の恵みと、私に対する神様の計画がいかに完璧であるかがわかります。実際、病気のおかげで、私は家族と過ごす時間を大切にし、慢性的に苦しんでいる人々をより深く思いやることができるようになりました。それは、より良い妻、ミニストリーのリーダー、母親、そして友人になることを教えてくれます。そして何よりも、私をキリストに似た者へと造り変えてくれま

す。

もし、25年前ではなく、今、魔法の杖を持っていたとしても、私は再度、病気と共に生きることを選ぶでしょう。主の恵みが私にとって本当に十分なものであることがわかるからです。この恵みがなければ、今の私はなかったでしょう。今では、毎日が私にとって宝物のような贈り物です。

それと同じように、今のあなたの人生から「消えてほしい」と思っているものは、キリストにある恵みの人生を生きるために不可欠なものかもしれません。

率先して主導権を握る

ジーニー・ショー ポストン、マサチューセッツ州

聖書に登場する信仰の女性たちは、困難な状況に直面した時、どうすればいいのかわからないことが多かったようです。アビガイルやエステルを考えてみましょう。彼女たちは、困難な状況下で何をすべきか正確にはわかりませんでした。しかし、祈り、何かを実行したのです。自分の行動がどのように受け止められるかわからないまま、行動を始めました。ミリアムを考えてみましょう。彼女は神様への純粋な感謝と畏れる思いから、イスラエルの女性たちを率いて歌と賛美を捧げ、大きな信仰を呼び起こしました。これらの女性たち（そしてもっと多くの女性たち）は、自分の快適な場所（コンフォートゾーン）から出て、信仰によって踏み出しました。彼女たちは主導権を握りました。

私は、恐れて躊躇したこともあれば、信仰を持って踏み出したこともあります。後者のほうが良い選択です。私は第一子を妊娠していた時、妊婦向けのエクササイズクラスに参加したいと思いました。しかし、そのようなクラスをしているジムはありませんでした。そこで私は、近所のジムに「教えるのでお金を払ってもらえますか」と聞いてみました。すると、意外にも彼らは了承してくれました。私は紫のジャージに身を包み（まるでイースターエッグのように）、ジェーン・フォンダのVHSエクササイズテープを持って、お金をもらいながら妊婦向けのエクササイズクラスを教えたのです。もし私がジムのオーナーに声をかけなかったら、この機会を逃していたでしょう。そのクラスは霊的な意味を持ちませんでしたが、このおかしな例は、私に主導権の大切さを思い出させてくれます。私たちが思っている以上に、私たちの主導権（あるいはその欠如）は永遠

の結果をもたらすことがあります。

私たちは障害が見えていても、それに対応できないことがよくあります。女性には、女性同士、教会内、リーダーシップ、若者、そして無数の人間関係の中にある様々なニーズや弱点を見ることができるユニークな視点があります。私たちは、批判的な目で見守ることも、解決策を講じて前進することもできます。神に知恵を求め、コミュニティとして協力し、ニーズを満たすよう自分の賜物を差し出すために「部隊を結集」するのです。

私たちは、自分がまだ十分な年齢、知恵、資格を持っていないと感じているかもしれませんし、他の誰かがもっと上手にできると思っているかもしれません。何か失敗するのではないか、ネガティブな反応が返ってくるのではないかとという不安があるかもしれません。しかし、神はアビガイル、エステル、ミリアムと共にいてくださったように、私たちの信仰と共にいてくださることを忘れないでください。

姉妹の皆さん、もしあなたの夫が長老になろうとしている(なっている)なら、その理由の一つは、霊的な妻、あなたを持っているからです。長年、聖書を読み、神の働きを見て、勝利や失敗を経験することで、ヘブル 5:14 で語られているような成熟した教師になることができます。「固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。」

好むと好まざるとにかかわらず、私たちは「年老いた女性」であり、他の人を教え、訓練するように、つまり主導権を握るように神から呼ばれています(テトス 2:3-4)。私たちがしなければ、誰がするのでしょうか。

私たちが祈り、そして大胆に踏み出す信仰を持つことができますように。

平安で目的のある家庭

サリー・フーパー ダラス、テキサス州

ビルの大好きな福音のパートナー、また彼の妻として、私は自分の役割をとっても真剣に考えています。神は私を長老にしたのではなく、長老の妻にしました。そして、その特権とともに、私には多くの責任と、彼の奉仕の効果的さに違いをもたらすことができる分野があります。

平安な家庭：箴言 31:12 には「彼女は生涯の日々、夫に幸いはもたらずが、災いはもたらさない」とあります。ビルに、長老の妻として私がおもたらした最も助けになる資質は何かと尋ねたところ、家の中が散らかっていたり、混沌としていたりすることなく、彼が目前の問題について考えることができる場所として家を大切にしていること、と話してくれました。ビルは家事をものすごく良く手伝ってくれますが、家の中がきちんと整理整頓されているかどうかは、いつも私の頭の中であり、気にかけていることです。残念ながら、これまではいつも家の中が片付いていたわけではありませんでしたが、書類やその他のアイテムの山を適切な場所に片付けることを学びました（そして今も学んでいます）。

また、彼と話し合うべき問題がある時は、タイミングがすべてだということも学びました。彼が空腹の時、疲れている時、大変な会議から帰ってきたばかりの時は、緊張するような難しい会話を始めるべきではありません。タイミングを見計らい、お互いに思いやりを持って接することで、平和的な解決がもたらされるのです。夫婦は、お互いに「タイムリーさ（適時性）」を実践することで成長していくのです。

用いられる家：1ペトロ 1:13 には「だから、いつでも心を引き締め、身を慎んで」とあります。私たちの家が「行動」に移せるように、心の準備をしなければなりません。神様は私たちに家を与え、私たちが神様のために使うことを期待しておられます。20年以上前にこの家を購入した時、私たちはこの家について祈り、常に神様のために使うことができるように、神様にお願いしました。それ以来、何百人もの人々が、食事会、ミーティング、聖書勉強、クラス、そして友情を深める時間のために我が家にきてくれました。時にレストランで人と会うこともありますが、家に招く代わりにはなりません。彼らが我が家を去る時、何を食べたかは覚えていないかもしれません。しかし祈りを込めて、彼らがどれほど特別な気持ちになったかをいつも覚えていてくれるでしょう。

神様こそが“解決者”

グロリア・ベアード 旧フェニックス、現在は楽園に（訳注：2018年召天）

私の人生における最大の祝福のひとつは、アル・ベアードの妻になれたことです。その役割に伴うもう一つの祝福は、神様の教会の長老の妻になったことです。私は長老の妻であることが大好きです。それは素晴らしい特権であると同時に、困難な挑戦でもあります。大きな責任があることはわかっていたのですが、当初自分に、その任務を果たすだけの資質があるかどうか自信がありませんでした。

アルの資質は見ることができても、自分に対する不安が目の前にそびえ立ちました。もちろん、この数年間を振り返ってみると、一つの経験から次の経験へと、神様の手によって私たちは変えられ、形作られ、教えられてきたことがわかります。

神様の民と共に働くということは、さまざまな状況や問題に対処するということです。私たちがすべてを見聞きしたと思った頃には、まったく新しい状況が現れ、解決策や助けを求めてやって来ます。それはつまり、私たちが解決するための答えを持っていることを期待されているのだと、私は思っていました。それは、周りの人たちが私たちに答えを求めているということであり、それがさらなるプレッシャーを与えていました。確かに、人々の変化を助けることができず、自分の力不足や失敗を感じたこともありました。

私にとって人生の大きな教訓となったのは、誰かのために悔い改めたり、変わったりすることはできず、自分の行動や考え、感情に責任を持つのは、その人自身だということです。それまでの私は、誰かを「治す (fix)」のが仕事だと思っていたし、それができないと、失敗したと思って落ち込むこともありました。このような経験を認めたくないほど何度もしてきた結果、ついに私は誰も治すことができないことを理解しました。神が解決者 (the Fixer) なのです。

この真実が私の肩にのしかかっていた、もの凄い重荷を取り除いてくれたのです。人がそれぞれの道を歩むために、私たちができる限りのことをし、寄り添っていく上で、とても役に立ちました。私たちが自分自身ではなく、神様に頼ることができるように、この学びをできるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。私たちが必要なものを、必要な時に神が与えてくださることを知って

いることは、とても平安があります。私たちの知識や経験ではなく、すべては神様によるのです。

私たちの力、助け、知恵をいつも神様に求めることができますように。

真理の力

リンダ・ブラムリー サンディエゴ、カリフォルニア州

以前、エフェソ 4:15 について真剣に考えていた時、私は、真理を厳しく、もしくは、不満を持って話す傾向があることに直面しました。それはイエスのようではありません。私はこの傾向を変える（つまり悔い改める）努力をしましたが、実際にやるのは難しいことでした。意図的に注意を払わなければなりません。私はまだこの確信から逃げ出すこともできてしまいます。

私は「愛に根ざして」の部分に適切に焦点を当てました。「愛に根ざして」やる時、私の態度、口調、そして何よりも私の心が必要とされました。

最近のある観察結果から、私は次のことを認識しました。それは、愛こそが最も重要な掟である一方で、真理には真理そのものの霊的な力があることです。何しろ、私たちの主は真理です（ヨハネ 14:6）。真理とは、シンプルで、堂々としていて、時に人に好かれないものです。真理を語るには、勇気が必要です。

私は、言葉の暴力を受けていた妻たちが、神の前で自分自身が誰であるかという真理に確信を持ち、ヒートアップした状況のなかでも夫に向かって「私は神の娘だから、そんな口の利き方をしないでください」と言ったのを見たことがあります。毅然とした態度で冷静に伝えたことで、夫の妻への接し方が変わるという驚くべき結果を得たのです。

嘘をつく子供に、母親が愛情を持って真理に直面させるのを見たことがあります。その時は自分の過ちを認めずに立ち去りましたが、後で戻ってきて告白しました。

私たちは、どれほど真理であるかどうかよりも、どのように言われているかを気にする世界に生きています。神は確かに恵み深く語ることを勧めておられますし、恵みには力があります。しかし、真理にも大きな力があります（コロサイ 4:6）。神は真理を用いて人の心に影響を与えるということを確信すべきです。私たちが真理を語る時、神の力が発揮されます。聖書から語る時、私たちは真実

を語っていると確信することができます。

テトス2章からの助言

パット・ブラッシュ 南フロリダ

同じように、年老いた女には、聖なる務めを果たす者にふさわしくふるまい、中傷せず、大酒のとりこにならず、善いことを教える者となるように勧めなさい。そうすれば、彼女たちは若い女を諭して、夫を愛し、子供を愛し、分別があり、貞潔で、家事にいそしみ、善良で、夫に従うようにさせることができます。これは、神の言葉が汚されないためです。(テトス 2:3-5)

「時々、教会に来ても意味がないと思うことがあるの」泣いている赤ちゃんを抱えたお母さんが泣き出しました。「私は、この子が周りの迷惑になってはいけないと、結局いつも部屋の隅にいることになるの。だから讚美歌を歌うことも、交わることも、説教を聞くこともできません。本当に孤独を感じます。どうして来る必要があるの」

私は返事をする前に一瞬、間を置きました。彼女は私の意見を聞きたかったのだろうか。彼女はアドバイスを求めているのでしょうか。助けを求めているのでしょうか。

私は同志である中年の母親たちのことを考えました。彼女たちは夜泣きする子供に耐え、日曜日に複数の礼拝に子供を連れて行き、キッズクラス前の幼児たちと格闘していました。私の記憶では、私たちは事実上の礼拝の戦士であることが証明されていました。

私が最初に思ったのは「もっとたくましくなりなさい」ということでした。しかし実際に私が伝えたのは「年上の先輩お母さんに、赤ちゃんをどうしていたのか聞いてみたらどう」ということでした。

「そう、何人もの人が『これをやってみたら』と言ってくれました。色々なアドバイスをもらいました。でも、やっぱり誰かに聞いてもらいたいのです。誰かが私と一緒に歩んでくれていると感じたいのです」。

これは意外でした。若い女性は年上の女性に何も求めていないように感じられることが、ますます増えていたからです。

年上の女性： 今、あなたがグーグルで検索している質問について、私が助けになるわよ。遠慮なく聞いて。

年下の女性： ええ、うん。

年齢を重ねるにつれ、自分の人生経験が、いつまで通用するのか気になります。私は常に情報に敏感でありたいと思っています。“今の流行り”の記事を読むと流行りに乗っている気分になります。でも、私は自分の人生を意味あるものにし、変化をもたらし、私にとっては火星のように感じられる文化や環境の中で、若い女性たちがイエスに従うための扉を開く存在でありたいと思っています。

だからこそテトス 2 章では、年上の女性に「何が善いことかを教えなさい」と伝えているのです。私は薬剤師のようにアドバイスを施す方が好きかもしれませんが。しかし偉大な教師である主は、人々に会い、そして彼らと一緒に歩んでくださいました。イエスが教えたことは善いことでした。そして、それは必要なことでした。人間関係は面倒なものです。時間もかかるし、多くの手間もかかります。私はこの歳になって、賢明な洞察力や「私の時代」の話を知ろうと、若い人たちが私のところに簡単に来ることができる権利を得たと思うことがあります。しかし、彼らにとって、何を知らないかを理解していない時があることも分かっています。ですから、「善いこと」とは、彼女たちと一緒に歩むことなのです。若い女性たちに声をかけ、家を開放して集まり、彼女たちの考えを聞き、興味のある質問を投げかけ、その答えを純粋に理解したいと願うのです。私は、私の経験や物語、そして深く信じていることが、彼女たちにとって意味のあることだとわかってきました。私と同じように、彼女たちも「誰も神の言葉を汚さないように」人生を変えることに情熱を持っているのです。

実のところ、私も若い女性たちから「善いこと」を学んでいます。聖書の勉強会やミニストリーのスタッフミーティング、社会的な交流の場など、一緒に過ごす時間の中で、若い友人たちはより思いやりを持って周りの人の特性を認め、会話の中でより慎重に、より繊細に、そして偏見を捨てて誠実に接する努力をする

傾向があります。若い女性たちは、私がより「敬虔な生き方」ができるように助けてくれています。

そして、私が心に留めるように学んでいることは、孤独と不安の中で、友人と耳を傾けてくれる人を必要としている若い母親たちの叫びです。私の最初の直感は、「それを解決しよう」というものかもしれません。しかし、私は祈り、偉大な教師である主に、彼女のそばに歩み寄ることができるように願います。

効果の長い短い会話

ゲリ・レイング マートルビーチ、サウスカロライナ州

若い大学生でクリスチャンになったばかりの頃、教会の年上の女性たちからどれほどのインパクトを受けたか、今でも覚えています。何人かは、教会の外の活動で親しくなった人もいますが、多くの人たちは、短いながらも有意義な交わりの中で絆を感じていました。彼女たちは、私がケアされ、気に留められ、覚えてもらっていると感じさせてくれました。そして私が新しい家族の大切な一員であることを感じさせてくれました。

姉妹の皆さん、私たちは女性として、教会の中に温かさ、愛、家族の感覚を作り出す力を持っていることを分かっています。その力の多くは、人と会う予定を増やすことではなく、礼拝の前後の交わりの時間で、私たち自身が、愛のある存在であることで実現します。それは、温かい挨拶、笑顔、ハグ、短い会話、励ましの言葉、または、その人の名前を覚えていることのような、簡単なことかもしれません。このような一見大したことがないように思える愛や、関心をもった振る舞いがもたらす違いは、いくら強調してもし過ぎることはありません。愛やつながりの感覚を与えるではありません。若いクリスチャンや若い人たちが、年上の弟子たちが長年、神に仕えてきてもなお、愛情や思いやり、笑顔を絶やさずにいるのを見ると、彼らはインスパイアされ、信仰が強められます。そして「自分もできる」と信じるようになるのです。

私はイエスの模範に励まされます。イエスは（何気ない）短い会話でも、人生を変えるような会話をいくつもされたことに注目してください。私たちは、ミーティングや食事、人と会うための時間がないというのが正直なところで、圧倒されてしまうことがよくあります。しかし、交わりの中で、短くても意味のある交

流をする時間はまだあります。それはつまり、姉妹や兄弟と一緒にいる時は、その場にいることを意識して、十分に集中しなければならないということです。そうすれば、彼らも私たちに見られるのと同じ、愛と関心の精神を持ちたいと思うでしょう。その精神が伝染し、家族を作るのです。

*愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。
時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。(エペソ 5:15-16)*

交わりで一緒に過ごす時間は、長老の妻である私たちにとって、教会の中でも最も貴重な時間だと思います。私たちは、一週間のうちで弟子たちが一緒にいるこの数時間を最大限に活用する必要があります。彼らを愛し、触れ、関心を持ち、意味のある質問をしてください。弟子たちが、温かくて愛に満ちた家族の一員であることを感じられるようにしてあげてください。私は、自分の家族と同じように、教会として一緒に過ごす時間は、私たちが暗く墮落した世の中に戻っていく前の、再生とリフレッシュのためのかけがえのない瞬間だと深く信じています。

私たちの全員が力強い説教者や聖書の教師になるわけではありません。しかし、成熟したクリスチャン女性として私たち全員が、笑顔、ハグ、知恵の言葉、励ましによって、兄弟姉妹を愛することができるのです。次に神の家族として集まる時には、ぜひ、自分のすべてを捧げ、心を尽くして愛してください。

互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハネ 13:35)

脆弱さを持って、自分の救いを達成するように努める

エレクサ・リュウ 香港、中国

私はクリスチャンになってから、たくさんの素晴らしい長老の妻たちに出会いました。一人一人が、そのユニークな資質で私を感動させてくれました。ある人は、何事にも動じない人です。別の人は、心の優しい方です。またある人は、寛大で、私利私欲のない人でした。

他にもたくさんありますが、どれも信じられないほど霊的なものばかりです。私はよく、自分に長老の妻としての資格が本当にあるのだろうかと思うことがあります。結局のところ、私は仕方なくここにいるのでしょうか。

真実は、私は仕事でも教会の役割でも、自分に能力があると感じることに苦戦しています。私は自然にしていると批判的になり、自分勝手になります。他人をうらやましく思うことも、認めたくないほど多いのです。

神は恵みにより私たちに、香港の基準では広いアパートを与えてくださいました。過去数ヶ月間、ひとつのキャンパスのグループが伝道のためのバイブルトークを開くため私たちの家を使い始めました。私は最初、このことを快く思っていました。ここは神の家であって、私たちの家ではありません。

しかし、数ヶ月後には、物が壊れたり、食器が元の場所に片付けられなかったり、掃除が行き届いていなかったりと、いろいろなことが起きてきました。私は、その不満が態度に出るようになりました。

「11時に20人の若者を家に呼ばなくても良いですか」(つまり、与えたくない)

「あなたたちは、大学構内でバイブルトークをするべきじゃない」(つまり、私たちの家を使ってほしくない)

「バイブルトークの人数をもっと小さくしてくれない」(つまり、この小さなアパートには人が多すぎる)

私は、あまりにも長老の妻のようではないと感じました。少なくとも私が知っている人たちのようではありませんでした。

私はついに、教会の他の2人の長老夫人に心を開いて、自分の悩みをすべて打ち明けました。私の気持ちについて話し合い、私が快く、喜んで与え続けることができるように実践的なステップを考えてくれました。

このような考えは持ちたくありませんでしたか。もちろん、持ちたくありません。クリスチャンになって30年以上経つのに、いまだにこのような葛藤があるのは恥ずかしいことですか。そうです。同じような自分勝手な感情をまだ持っていますか。時々あります。

しかし、私が天国に行くためには（長老の妻として、あるいは単にクリスチャンの女性として）、私はオープンでなければなりません。私は本物でなければなりません。自分に対してリアルであってこそ、恐れと多くのおののきをもって、真に自分の救いを達成するよう努めることができるのです。脆弱になることは、私の国の文化では簡単なことではありません。ひょっとしたら、どの国でもそうかもしれません。私たちは、失敗することが好きではありません。しかし、私が自分の葛藤を打ち明ける時、私は「自分の救いを達成するために努める」ことができるのです。

だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。（フィリピ 2:12）

私たちが異なる賜物を持つ時

キム・エバンス フィラデルフィア・ペンシルバニア州

私たちは皆、自分が慣れ親しんだ伝統や習慣、文化を持っています。昨今、私たちの教会では、夫と妻と一緒に働くリーダーシップの筋書きが定着しています。プリスキラとアキラがその模範です。そして私は、これがミニストリーと長老の役割に対して最もシンプルな方法だと信じています。これは、安全で直接的なアプローチです。難しいのは、私たちが異なる方向に呼ばれた時です。

バプテスマのヨハネが生まれる前に、ガブリエルはゼカリヤに息子の知らせを伝えましたが、イエスが生まれる時には、天使ガブリエルは、まず母マリアのところに行って知らせました。（天使がヨセフのところにも行って良かったです。マリアがヨセフに、自分は聖霊によって身ごもりました。赤ちゃんが生まれてからでないと一緒になれません、と説明しようとするところは想像できません。この難しい真実を夫に理解させるには、天使が必要だったので）私たちの教会では、夫が特定の方向に呼ばれると安心しますが、しかし神は時に、妻を別の分野のリーダーシップに呼ぶこともあります。箴言 31 章では、有能な妻が考えて、自らの稼ぎで畑を買います。これはチームの努力では

なく、夫が彼女に全幅の信頼を寄せてビジネスを行っているように見えます。彼女は夫に害を与えるのではなく利益をもたらします。しかし、彼女自ら相当大きな決断を下しているのです。

イエスの死の直前、イエスはマリアとマルタの家に行きました。その村を「マリアとマルタの村」と呼んでいることから、イエスにとっては心安らぐ場所だったのでしょう。独身男性が独身女性2人の家に行く、それが聖書に書かれているなんて。夫と妻のチームの例はパワフルで、私の大好きな方法ですが、神は時に「型にはまらない」形で働かれます。

神は、ウォルターと私を全く違う方向に導かれました。彼は関係の衝突の解決において情熱があり、その才能があります。私は彼に、この分野でクラスを取り、成長することはどうかと提案してみました。しかし事實は、私自身がこの分野が得意ではないということです。私は感情ベースで、状況によっては心が折れてしまいます。彼は私の提案に微笑みながら、「いや、結構だよ」と言いました。

しかし、22年前、私たちの教会の多くの子供たちがクリスチャンになりたいと思っていなかったのも、私は心が折れそうになりました。私が教会で育ててもらった初期の頃を振り返ってみると、私が初めてクリスチャンになることを目指したのは、ミシガン・クリスチャン・ユース・キャンプだったことを思い出しました。そして気がついたのは、教会の子供たちは、私が子供の頃に経験したようなことを何も経験していないということでした。私のキャンプでの体験は、私自身を形作る上で大きな影響を与えました。だから、22年前、教会の子供たちのためにキャンプを始めることを夢見ていました。ウォルターには、この試みに参加する情熱や時間はありませんでしたが、彼は私をサポートしてくれました。

神が女性の心にそのような考えを置かれ、夢を実行に移そうとする時は、居心地が悪いものです。夢を持ち、それを兄弟に託す方がよっぽど簡単ですが、神が何かをするようにと呼んでくださったなら、その呼びかけに答えなければなりません。ウォルターと私は、神が私たちに全く異なる召命と強さを与えてくださったことを理解しています。私たちはお互いに支え合っています。ウォルターは長老で、私はそうでないことは明確です。しかし神は、私たち一人ひ

とりを、神が呼ばれたことを行うように選ばれました。私が感謝していることは、夫は私が自分の賜物をベストに発揮できない分野で機能することを期待せず、それでも、教会で若者を助けるといふ、神が私の心に置かれたことを成し遂げるためにサポートしてくれていることです。

私たち一人ひとりが、神から与えられた賜物を用いて相手をサポートすることで、私たちは共に強くなり、共に神の国を築き上げることができるのです。

神との関係

マリー・ルー・クレイグ ブーントン、ニュージャージー州

主の最も尊い約束の一つは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)です。私は、長老の妻という役割を含め、人生のどのステージにおいても、この約束の確信を必要としてきました。毎日の聖書の学び、聖句の黙想、そして祈りによって支えられてきた神との親密な関係が、良い時も悪い時も進み続ける支えとなっています。聖書は日々、私が必要とするすべてのものの源が神であることを思い出させてくれるので、私は、人生において神を愛し、忠実に従うことを根気強く続けることができます。そして、他の人が自分の道を見つけるのを手助けできるようになりました。

箴言 31 章に書かれている妻は、主を恐れています。このような神との関係が、彼女が高貴な人として生きる動機となりました。彼女の口には知恵と慈しみの教えがありました。彼女は生涯を通じて、夫に幸いをもたらし、災いはもたらしませんでした。そして、彼女は未来にほほえみかけることができます。これらの資質はすべて、長老の妻の役割として貴重なものです。神との関係は、困難な状況で助けを求められた時に、忠実で、希望に満ち、賢くあることを助けてくれます。神と神の言葉を身近に感じることは、自分の意見に頼ったり、社会の強い影響力に振り回されたりしないための安全装置となります。私たちが聖書の健全な教義を実践し、他の女性に教える時、夫に多くの利益をもたらします。私たちの不完全な、しかし神との親密な関係から来る成長し続ける強さ、忠実さ、平安は、自分たちの子供を含め、後に続く人々にとってのインスピレーションと希望の源になることができます。いつも私たちと共にいるという、神の力強く、素晴らしい約束に感謝します。

シンプルで基本的なことのよう聞こえますが、この約束（主に近づく努力を伴います）こそが、主の教会のリーダーとして直面する喜びや困難を乗り越える唯一のものなのです。

7章：リーダーシップの共有 長老とその他の賜物がある人の役割

フランク・キム

歴史上、建物の建設から国家の建設に至るまで、最もダイナミックで才能のあるリーダーであっても、他の人々の才能の結集がなければ、効果的ではありませんでした。スポーツ、ビジネス、そして社会の変革においても、チームワークの成果は疑いようがありません。実際には、目標が大きければ大きいほど、それを実現するためには、強いチームワークが必要になります。

リーダーシップの共有は神のもの

そもそも関係という概念さえ、神様の本質とキリストの模範に由来しているのですから、チームワークの力は理にかなっていません。天地創造の記述の中で、神様は自らを複数形で語ります。「我々に似せて人を造ろう」ご自分に似せて人間を造る際に、男と女の両方を造られました。人類に対する神様のビジョンは、地を満たし従わせるという偉大なものであり、そのためにはチームが必要でした。

同様に、キリストのビジョンは、すべての国の人々を救い、弟子にするという、偉大で永遠に重要なものでした。そのため、彼は地上での数年間のミニストリーを、チームの育成に集中して過ごしました。やがて歴史が証明するように、イエスのチームは並外れた存在であり、リーダーシップを共有することで奇跡的なインパクトを経験しました。

神様の教会の長老として、神様の心を持ち、キリストに倣いたいと願う私たちは、リーダーシップの共有という概念を受け入れざるを得ません。神様の民に対する神様のビジョンと希望は、どんなに霊的で才能があったとしても、個人で成し遂げるにはあまりにも大きすぎるのです。

教会の成熟にはリーダーシップの共有が不可欠

個人がチームを必要とするように、教会の効果的なリーダーシップには、さまざまな役割のバランスのとれた力が必要です。エフェソ 4:1-16 は、地域の教会であれ、国際的な交わりであれ、教会の中で共有されるリーダーシップについて

て、簡潔で、明確で、奮い立たされるビジョンを提供しています。パウロは、教会のリーダーシップを構成するさまざまな役割をキリストご自身が提供してくださったと書いています。具体的には伝道者、牧会者（長老）、教師の役割が含まれています（11 節）。これらの役割は、それぞれ異なる性質を持っていますが、教会を成熟させるという目的のために完全に一致しています（12-16 節）。このようなパートナーシップを機能させるために必要な謙虚な心は、この箇所の冒頭で述べられています（1-6 節）。

この箇所で最も感銘を受けることは、教会が真に共有されたリーダーシップを持っている時に起こることでしょう。

- ・ 奉仕するために整えられる（12 節）
- ・ キリストに対する信仰と知識において一致する（13 節）
- ・ 成熟し、キリストの満ち満ちた姿を経験し、反映するようになる（13 節）
- ・ 間違った教えや誘惑から守られる（14 節）
- ・ 誠実なコミュニケーションをとる（15 節）
- ・ イエスを教会の頭として掲げる（15 節）
- ・ それぞれが体の成長のために、役割を果たす経験をする（16 節）
- ・ 愛を経験する（16 節）

家族について考えてみてください。私たちの教会には、他の弟子たちの思いやりのあるサポートを受けながら、素晴らしい子育てをしているヒーローのようなひとり親がいます。しかし、子育ての責任を共有する愛情を持った両親に育てられることが、子供にとって非常に有益であることを否定する人はいないでしょう。それと同じように、長老や伝道者、教師がいない教会の家族でも、確かに成長し、繁栄することができます。しかし、キリストから与えられた役割をバランスよく分担してリーダーシップを発揮する時、教会にはさらに深い成熟が反映されるのです。

その逆もまた然りで、未熟なリーダーシップは教会を制限します。不健全な夫婦関係が子供たちに影響するように、教会のリーダーシップがその関係性において未熟であれば、教会はその悪影響を長期に渡って感じることになります。こ

のように多くの問題を抱えているので、長老たちは健全なリーダーシップの共有に絶対にコミットしなければなりません。

違いは良いこと：長老、伝道者、教師

長老、伝道者、教師という神様から任命されたリーダーシップの役割は、確かに多くの分野で重なり合っていますが、同時にそれぞれがユニークな存在でもあります。それぞれの役割は、異なった考え方、異なった教会の見方をしており、教会のリーダーシップに独自の賜物をもたらすように計画されています。これらの違いは健全であり、教会の成熟には欠かせないものです。

2011年、ボストン教会の長老であるウィンダム・ショー氏は、コロラド州エステスパークで開催された米国西部長老会議（Western United States Elders' Conference）でのレッスンで、これらの主な役割について示唆に富んだ説明を行いました。ここではその要約を紹介します。⁴

伝道者：

- 優先順位の設定と個人的な模範を通して、教会の伝道的使命の先頭に立つ
- 預言的な鋭さ（edge）で教え、説教する
- 他の伝道者を訓練し、責任を負わせる
- 管理と組織化のリーダーシップの賜物を持っている
- 計画を実行する

長老：

- 牧会の先頭に立ち、教会コミュニティの健全性を監督する
 - ・「教会の雰囲気はどうか。健全か」問いかけ評価する
- 教会を監督する：成果に責任を持つ。機能は委譲できるが、責任は委譲できない。
 - ・「私たちはどこへ行きたいのか。リーダーはそこへ導いているか」問う

⁴ Wyndham Shaw, "God's Appointed Leaders," (Estes park, CO: Western US Elders Retreat, 2011).

- ・「私たちの教えは私たちを健康にしているか」を問う
- 一致を維持するために関係の衝突を解決する
- 教会を安全に守るために規律を与える
- 教会のニーズを満たすためにリーダーシップを任命する。シニアスタッフの雇用や新しい長老の育成を含む。

教師：

- 神の言葉の名誉を守る
- 教会を御言葉に基づかせる
- リーダーやメンバーに聖書を教えるための体系的なプロセスを構築する
- 他の教師を育てる。

もちろん実際には、これらの役割ははるかに複雑で、しばしば互いに重なり合っています。しかし、先に述べたように、この違いは現実的であり、重要なものです。私たちは、これらの違いを矛盾するものではなく、互いに補い合うものとして捉えなければなりません。残念ながら、サタンは教会のリーダーシップチームの中に不一致をもたらすために、相反する視点を利用しようとします。一致を保つためには、コミュニケーションと謙虚さと信頼への絶対的なコミットメントが必要です。リーダーシップを共有するチームでは、単にお互いの話を聞くだけでなく、お互いの視点や強みを大切にし、尊重し、賞賛しなければなりません。お互いの視点の相互作用によって、教会の健全性をより深く理解し、ミニストリーをどのように成熟させていくかのバランスのとれたビジョンを描くことができます。

伝道者も羊である

長老たちは、フルタイムのミニストリースタッフも自分の監督下にある群れの一員であるという事実を見落としてしまうことがあります。言い換えれば、牧師たちは私たちのサポート、保護、指導、そして愛を必要としているのです。伝道者、女性ミニストリーリーダー、教師が過労や批判によって燃え尽きてしまうことがよくあります。個人的な生活とミニストリーの際限の無いニーズとの間

に健全な境界線が欠けることにより、彼らの夫婦関係や家族が苦しむこととなります。真に共有されたリーダーシップにおいて、長老たちはリーダーシップチームの他のメンバーの面倒を見て、彼らの霊的、感情的、肉体的な健康に気を配らなければなりません。

長老たちは、フルタイムの働きをしている人たちの親友であり、相談相手となり、彼らがストレス、困難、誘惑、罪などについて打ち明けることができる安全な場所としての役割を果たすことができます。長老は、牧師には個人的な境界線が必要であることを公にも私的にも明確にすることによって、教会メンバーがミニストリースタッフに対して、合理的で持続可能な期待を持つことができるように助けることができます。時には、理不尽な要求をする教会員からミニストリースタッフを守るための緩衝材となることも必要かもしれません。

また、熱心な牧師に対して、配偶者との関係にもっと時間を割くように愛をもって働きかける必要があるかもしれません。牧師の子供たちが人々の目にさらされて育つ（原文“growing up in a fishbowl”直訳すると「水槽の中で育つ」）、ユニークな課題に直面していることを考えると、長老たちは牧師の家族に特別な注意を払わなければなりません。体の全てのメンバーが霊的に養育される関係を必要とするように、成熟した伝道者であっても霊的な助言や励ましを必要としています。彼らの羊飼いとして、長老はこれらのニーズが満たされるようにすることができます。

長老のチーム

長老の任務には、さまざまな賜物や経験があり、バランスの取れたチームを作ります。もちろん、複数の長老を持つことが最初のステップです。教会の長老職が複数であることを支持する聖句の証拠は数多くあります。年代順に並べられた以下の聖句は、複数の長老に言及しています。⁵

- ・エルサレムの長老たち（使徒 11:30）

⁵ Gene Getz, *Elders and Leaders: God's Plan for Leading the Church* (Moody Publishers, 2003), 209-210).

- ・「教会の長老 (NIV; the elders) を招いて」 (ヤコブ 5:14)
- ・「弟子たちのために教会ごとに長老たちを任命し」 (使徒 14:23)
- ・エルサレムの使徒と長老たち (使徒 15:2,4,6,22,23)
- ・「パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた」 (使徒 20:17)
- ・「どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、・・・あなたがたをこの群れの監督者 (NIV; overseers) に任命なされたのです」 (使徒 20:28)
- ・「神の教会の世話をさせるために (NIV; Be shepherds)」 (使徒 20:28)
- ・「そこには長老 (NIV; the elders) が皆集まっていた」 (使徒 21:18)
- ・「よく指導している長老たち」 (1 テモテ 5:17)
- ・「町ごとに長老たちを立ててもらおうためです」 (テトス 1:5-6)

アレクサンダー・ストラウク氏は、長老に関する著書の中で次のように述べています。「地域教会のレベルでは、新約聖書は牧会のリーダーシップを共有するという一貫したパターンを、明確に証言しています。したがって、複数の長老たちによるリーダーシップは健全な聖書実践です」⁶

長老のリーダーシップを共有することの利点

効果的な長老のチームを作るには、単に複数の長老を任命するだけでは不十分です。チームを作るには、意図的さと努力と謙虚さが必要です。自然には生まれません。時間を犠牲にし、プライドを十字架につけ、誠実なお互いへの愛を身につけなければなりません。高度に機能している長老職には多くの祝福があるので、努力する価値は十分にあります。ストラウク氏は、このようなチームを作ることによって得られる3つの主な利点を挙げています。⁷

弱さのバランスをとる: 長老たちは、自分に弱さがあることを最初に認めるべ

⁶ Alexander Strauch, *Biblical Eldership: An Urgent Call to Restore Biblical Church Leadership* (Colorado Springs, CO: Lewis and Roth, 2010), 37.

⁷ Strauch, 40-43.

きです。ある人は律法主義的になる傾向があり、ある人は感傷的になりやすく、ある人は対決することが弱く、ある人は人を励ます賜物がありません。健全な長老のチームは、そのような弱さを他の人の自然な強さによって補い、個人の弱さが教会に与える潜在的な悪影響を軽減します。

重荷を分かち合う: 長老は群れに関わり、守り、養育するように神に召されています。これは大変な仕事です。兄弟姉妹は、最も困難な時には慰めを、最も暗い状況では希望を与えることをしばしば私たちに期待します。個人的にも教会としても、人生に大きな影響を与えるような難しい決断が求められます。私たち自身も人間であるので、長老たちは互いに寄り添うことが不可欠です。私たちはお互いの知恵、洞察力、そして励ましを必要としています。重荷を分かち合うということは、長老たちが長期休暇 (sabbatical rest) を取り、リフレッシュすることができるということでもあります。教会には常にニーズがありますが、他の人に頼ることができることを知っていれば、人生の節目にそのような必要性が生じた時に、長老は一步離れることができます。

説明責任を果たす: 長老たちも罪人です。高慢、怒り、恨みなどの誘惑にかられることがあります。私たちの人生には、奮い立たせる模範を示し、私たちの心を守るために丁寧なケアをしてくれる兄弟が必要です。

このような利点は、長老たちが深い本物の関係を築くことにコミットしている時にのみ得られます。長老のチームは、諮問委員会やビジネス委員会以上のものであるべきです。長老は、お互いの脆弱さとオープンさの先頭を切るべきです。誰かが言ったように、私たちの霊的さが教会の限界です。

異なる賜物、同じ価値

長老のチームは、さまざまな賜物や経験を持ったクリスチャンの集まりになっていて、またそうあるべきです。有名な箇所であるローマ 12:3-8 には、キリストの体がさまざまな賜物を持つメンバーで構成されているかが示されています。長老職についても同じです。ある人は教えることに、ある人は仕えることに、

ある人は憐れみに、ある人はリーダーシップを発揮することに賜物があります。全てが等しく重要であるため、自分の賜物を認識し、他の人の賜物を認める謙虚さが大切です（3節）。たとえ長老のチームの中でも、リーダーシップを共有することの落とし穴の一つは、このような違いを認めないことです。

優れたチームの最初のステップは、適切な人材をバスに乗せることだと言われています。しかし、ステップ2も同様に重要です。それは、チームメンバーが正しい席に座ることです。自分の賜物について正直に話したくないという気持ちが、曖昧さや明確な責任の欠如につながる可能性があります。これでは、良くても効果が上がらず、最悪の場合、不満や不一致につながります。繰り返しになりますが、どの賜物も他のものより優れているわけではありません。神は、チームとして私たちが神の民のために最高の奉仕者、そして羊飼いになれるように能力を提供してくださるのです。

いくつかの意見を述べます：

- すべての長老が、奉仕する基本的な分野について話し合うとよいでしょう。エゼキエル 34 章には、羊飼いとしての役割に固有の牧会的なケアが明確に描かれています。弱い者を強くし、病める人を癒し、傷ついた者を介抱し、迷った人を探し求めることは、すべての長老の人生に反映されるべき活動です。現実的に、長老のチームは、弱っている人や病気の人のために祈ったり、入院している人を訪問したり、霊的に葛藤している人と会ったりする必要がある場合、どのように対処するかを話し合うことができます。これらは、すべての長老が祈りと行動を通して役割を果たす分野です。

- 長老たちは、チーム内のさまざまな賜物やスキルセットを認め、尊重する謙虚さを持つべきです。例えば、ある長老は管理の賜物（1コリント 12:28 NASB）を持っていて、教会の計画や組織作りを助けることができます。別の長老は、励ましの賜物を持っていて、リーダーシップチームや教会の中での人間関係が深くなるように助けることができます。教える賜物を持つ長老は、計画や意思決定を御言葉に基づかせることができます。これらの賜物を認識することは、長老を特定の役割だけに限定するものではありませんが、リーダーシップ

チームに「穴」があることを認識し、説明責任を果たすために役立つことは確かです。

・ローマ 12 章は、リーダーシップの賜物について述べています。長老職は対等なチームであり、それぞれが必要とされる信仰、経験、スキルを教会にもたらしめています。しかし、どんなチームでもそうですが、効果を発揮するにはリーダーシップが重要な要素となります。長老たちの間での「選挙」であれ、率直な話し合いを通してであれ、特定の長老（または長老たち）が「リーダーたちの中のリーダー」または「対等な人の中の第一人者」として認められることが常に重要です。リーダーシップの賜物を持つ人が何人かいる場合は、燃え尽きや視野の狭い考えを避けるために、この役割をローテーションとして構成することができます。謙虚で才能のあるリーダーシップは計画、意思決定、戦略の確実な進展を助け、長老職、教会のリーダーシップ、そして教会全体の利益となります。

最終的に、すべての長老は、自分の好みよりも教会のニーズを満たすことに尽力しなければなりません。教会は何を必要としているのか。私はどのように用いられるのがベストか。誰がこの役割に最適なのか。私はどのようにこのチームをサポートできるのか。これらは、長老が祈り、自分をよく知っている人と相談しながら謙虚に取り組まなければならない質問です。

リーダーシップを共有する上での柔軟性

私たちの多くは、組織的なスポーツのスリルと情熱を楽しんでいます。しかし、成功しているコーチングスタッフは、その時々チームにいるさまざまな才能を最適化するために、戦略を調整することができます。計画を遂行する才能がないにもかかわらず、特定のゲームプランに固執するコーチの例は枚挙にいとまがありません。コーチングスタッフは、チームの現実と戦略的原則を融合させることができれば、勝利のシーズンを迎えることができるのです。

教会の監督者として、長老は同じように、教会のリーダーシップの共有がどのように運営されるかについて柔軟性を示すべきです。前述のように、長老は結果

に責任を負います。教会は成長していますか。教会は健全ですか。私たちはキリストの体に対する神のビジョンを果たしているでしょうか。同時に、すべての状況に最適な一つのリーダーシップの「構造」はありません。

例えば、ある教会では、フルタイムのミニストリースタッフが人生においても、ミニストリーにおいても非常に成熟しています。長老たちは、ほとんどのミニストリーの計画、戦略、実行をスタッフに委ね、主に一般的な牧会的ケアと、ファミリーミニストリーやカウンセリングなどの特定の活動に集中しています。他の教会では、リーダーに才能があっても、経験が少ない場合があります。ここでは、長老たちが計画や戦略の策定、あるいは教える手助けなど、より大きな役割を担うこととなります。リーダーシップを共有するチームが発展し成熟していくにつれ、このバランスは、スキルセットと経験の増加、および新しいメンバーの追加を反映して、時とともに変化していくべきです。

聖書的には、長老の任務は教会の方向性と成長について常に神に責任を負う立場にあります。そのためには、キリストへの絶対的な服従、聖書的原則の尊重、相互の愛と尊敬を必要とする、リーダーシップを共有するチーム間の継続的な会話が必要です。

8章 神の教会における家族を建てる者としての長老 パート1

サム・レイング

事実、人を聖なる者となさる方も、聖なる者とされる人たちも、すべて一つの源から出ているのです。それで、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、(ヘブライ 2:11)

自分の家庭をよく治め、常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません。自分の家庭を治めることを知らない者に、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。(1 テモテ 3:4-5)

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハネ 13:34-35)

神様は、私たちが神の教会として、神の家族になることを意図されています。神様は私たちを救うためにイエスを送ったのに、孤立したままにさせたのでしょうか。違います。神様は、私たちが新しく生まれ変わり、神の子供となり、神様のそばにいることを願っています。私たちは、他の神の子供たちと一緒に家族に生まれ、兄弟姉妹としてお互いに愛し合うことを学びます。

人類はこの計画を変えるために何をしたのでしょうか。世の中はどのようにして神の明確な教えから離れてしまったのでしょうか。周りを見渡して、これらの質問に対する答えを観察してみましょう。「教会」という名がついたグループの大半は、温かく、親しい家族とは程遠いです。それどころか、日曜日の朝、人々が訪れては去っていくだけのイベントに過ぎず、キリストを中心とした、霊的で人生を変えるような、親密で愛に満ちた関係を、お互いに築くことができていません。

キリストに従う者として、また、私たちの人生と神の教会で、聖書の教えを回復しようとする者として、父なる神様を真に愛し、生まれ変わった兄弟姉妹であ

る神の家族と愛し合う教会をどのように築くのかを見極め、学ぼうではありませんか。

これはどうやって起こるのでしょうか。神様はどのようにしてこれを実現するのでしょうか。

これが神の計画です。神様は、自分の家族を築くことに長けていると証明されている長老たちに、教会で同じような親密で霊的な家族の文化を築く重要な役割を担ってほしいと願っておられます。だからこそ、聖書に示されている長老の資質の中心に、親密で聖なる家庭を築くことができる、という能力があるのです。

このことは、人が神様の忠実な子供であること、つまり天の父を愛し、父の近くにいて、イエスの主権の下に生きる従順で忠実な弟子であること、から始まります。しかし、その時それは、この素晴らしい土台を超えて、偉大な家族を築くというもう一つの素晴らしいステージに導かれます。

そのためには、男性は良き夫であり、良き父でなければなりません。ここでは、そのために御言葉に示されている必要なことを見ていきましょう。そうすることで、神の愛する教会、キリストの体において、神がどのようにしてこのような男性たちに家族を築く者として仕えてほしいと願っておられるのかがわかるでしょう。

夫としての長老たち

キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。

夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。

(エフェソ 5:23、25-27)

上記の聖句では、イエスとその教会との関係がどのように描かれていますか。教会はイエスの妻であり、イエスはその夫です。(黙示録 19:6-8 も参照) ですか

ら、長老になるためには、男性が妻を持つだけでなく、神様が命じられた妻との一致した関係を持たなければならないのは当然のことです。夫婦で力を合わせれば、神様を敬い、霊的で、愛に満ちた家庭を築くことができるでしょう。

神様に召された夫になるために、男性は何をするように言われているのでしょうか。神様は、上記に引用した箇所、2つの重要な項目を明らかにしています。それは、夫は愛すること、そして導くことです。

長老：愛のある夫、そして神の教会を愛する者

夫がどのように妻を愛するべきかについてのパウロの霊的な教えを見てみましょう。そして、長老である私たちが、キリストの花嫁である教会をどのように愛するべきかを、より良く知る助けになることを考えてみましょう。

まず始めに愛する者

イエスは、私たちが救うために、まず始めに愛し、私たちがイエスに従うように呼びかけてくださいました。そして、私たちが彼の花嫁である教会の一員となった今も、彼はそのようにし続けています。

では、長老である私たちが教会に愛を示すために、このことは何を意味するのでしょうか。

それは、私たちがイエスの僕、イエスに倣う者として、自分の妻にしているように、イエスの花嫁である教会に愛を始めに与えなければならないということです。兄弟たち、神の家族における愛の表現のインスピレーション溢れる発信者になりましょう。手を差し伸べて最初に愛する人、一貫して愛する人、そして神の家族の中で最も多くの愛を示す人になろうではありませんか。そのためには、人々と時間を過ごし、彼らの話に耳を傾け、彼らと一緒に感じ、彼らの人生を励ます必要があります。そうすれば、神の教会は、まず始めに愛を与える血の通った生きた模範を見ることができます。その模範によって、彼らは父なる神と教会の夫であるイエスの愛を生き生きとした姿で見ることができるようになります。

この世はキリストから離れているので、ほとんどの人は家族の中で、神が願っておられるような愛を経験していません。ですから、兄弟たちよ「神がまず私たちに愛してくださったから」（第1ヨハネ 4:19）、教会の家族に愛の種を蒔かな

ければなりません。妻や子供にするように、メンバーにも始めに愛を与えなければなりません。私たちが神の愛を言葉、行動、関わり、そして温かい愛情をもって始めれば、その愛はやがて教会員の人生に根付き、家族全体に広がっていくでしょう。

献身的に愛する者

夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。(エフェソ 5:25)

私たちは、イエスが私たちや教会を愛してくださったように、妻を献身的に愛するように召されています。イエスのご自分の愛を示すために大きな代価を払われました。この献身的な愛の表現の結果は何でしょうか。イエスの愛は私たちの人生を変え、イエスとの素晴らしい関係を与えてくれます。私たちも同じように無私の犠牲の精神で、イエスの教会のメンバーを愛することができますし、そうすべきです。

罪のない神の子であるイエスだけが、教会を贖うために十字架上で死ぬことができたのです。では、長老である私たちは、その教会を建てるために何ができるのでしょうか。私たちは、イエスの献身的な精神を真似して、自分の妻に対するのと同じような無私の愛を教会にもたらすことができます。その結果、神の教会は聖さにおいて成長し、輝きを増していくのです。(エフェソ 5:25-27 参照)

兄弟たち、私たちは愛によって妻たちの心を掴み、これからも掴み続けるでしょう。イエスは、これまでに見たこともないような献身的で力強い方法で、私たちに同じことをしてくださいました。私たちが妻たちの人生にもたらしたのと同じ愛の精神を神の家族にもたらす時、教会は、長老である私たちの愛を経験し、イエスの愛を直接、温かく、個人的な形で感じるようになるでしょう。

繊細に愛する者

そのように夫も、自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になされたように、わが身を養い、いたわるものです。(エフェ

ソ 5:28-29 斜体は強調)

夫は、自分を愛するように、つまり自分の体を愛するように、妻を愛さなければなりません。これはどういうことでしょうか。体が空腹であれば、食事を与えます。体が疲れている時には休ませ、体が痛い時には和らげようとします。夫として私たちは、妻と「一つの肉」であり、このような繊細な方法で妻を愛するべきなのです。もちろん、私たちは教会のメンバーと「一つの肉」になることはできません。そのようなユニークな関係は、私たちと妻だけのものです。しかし、私たちにできることは、メンバーのニーズを深い繊細さを持って感じながら、そのような愛を教会にもたらすことです。この愛を教会に示すには、どのような方法があるのでしょうか。

誰か傷ついている人はいますか。彼らは疲れ切っていませんか。霊的に弱く、栄養不足になっていませんか。取り残されて、孤独を感じていませんか。そうであるなら、彼らのニーズを察知し、自分から手を差し伸べ、彼らの継続的な友人や助け手となってくれる思いやりのある他の弟子たちと関係を築けるように手助けして、彼らを愛しましょう。

霊的に良くやっている人はいますか。愛深く、思いやりがあり、謙虚で柔和で、知恵をもって人を教え諭して助けていますか。(コロサイ 3:12-16) そうであるなら、彼らを称賛し、励まし、教会の中で彼らと与えるものを必要としている人々を助け続けることができるように助けましょう。

長老：模範と教えによる愛のあるリーダーシップ

キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。(エフェソ 5:23)

この聖句では、イエスが教会の頭であると同時に、その救い主であることが語られています。つまり、イエスは教会のリーダーであると同時に、教会を愛する人(Lover)でもあるということです。(エペソ 5:25)

夫である私たちは、妻を愛するリーダーであることを証明してきました。神様との歩みにおいて妻の模範となることで、霊的に妻を導いてきました。妻は、私

たちが神様に飢え渴き、神様を信頼し、従順であり、祈りと継続的な聖書の学びによって神様に近づこうと努力しているのを見てきました。私たちは、神様を敬う模範を示して彼女たちを助けてきただけでなく、神様の言葉を教え、分かち合うことで、彼女たちの人格や日々の生活の中で御言葉を具体的に、現実的な方法で適用できるようにしてきました。同じように、彼女たちは私たちが聖書を人生に適用するのを助けてくれました。

私たちが、キリストの花嫁である教会のために同じことをすることができますように。人生の模範を示し、グループでも個人的な場でも、教会を教え、訓練することによって指導していきましょう。このようにして、私たちは、同じように模範を示して導いたイエスの愛に満ちたリーダーシップに倣うのです。この二つの方法で導くことは、個人を助けるだけでなく、家族を築くことにもつながります。

何のために、どのような方向に導くのでしょうか。私たちが導くのは、キリストの花嫁が聖なる者となり、神様に近づき、霊的にも知識にも成長し、信仰を保って天国に行くことができるようになるためです。私たち長老が、導くことによって愛し、愛することによって導くことができますように。そうです、兄弟たちよ、私たちが自分の妻を導こうとしたように、キリストの花嫁である教会を導けますように。愛と犠牲に満ちた方法で。

愛に満ちたリーダーシップ：尊敬と配慮 (Considerate)

同じように、夫たちよ、妻を自分よりも弱いものだとかわきまえて (*be considerate*) 生活を共にし、命の恵みを共に受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りが妨げられることはありません。(第1ペトロ 3:7 斜体は強調)

リーダーシップは、多くの場合、無礼で横柄な態度や、配慮や人間味のない関わりといった含意をもたらす可能性があります。神様は私たちにこのような関わり方をされませんし、私たちも他者にこのような関わり方をしてはいけません。夫である私たちは妻の「頭」ですが、それは神の目から見て私たちが妻よりも優れているということでも、偉そうに辛辣に接して良いということでもありません。むしろ、配慮し、思いやり、親切に、そして謙虚に接するべきです。

妻に対するのと同じように、愛と配慮と尊敬をもって、親切で神様を敬う方法で教会をリードしていきましょう。妻に配慮するとは、妻のニーズを探り、妻の気持ちに寄り添うことです。教会に配慮するということは、リーダーである私たちが、イエスの愛に満ちたリーダーシップに倣うことを意味します。イエスは確かに私たちのリーダーですが、私たちの気持ちを知っておられ、私たちに対して深い憐れみを持っておられます。(ヘブライ 2:10-18、4:14-5:2 参照)

ペトロは、冒頭に引用した聖句で、私たちは妻に敬意を払うべきだとも語っています。私たちは妻の頭ですが(エフェソ 5:23)、それは教会の頭である主イエスと同じ地位ということではありません。神様は夫である私たちをリーダーシップの役割に置いておられますが、イエスと違って、私たちは本質的に優れているわけではなく、私たちと妻は神様の前に平等です。私たちは、自分が同等の価値を持ち、自分自身が神の権威の下にあることを知りながら、彼らを導くのです。それと同じように、メンバーを自分よりも劣っていると、神の前で価値が低いなどと思わずに、尊敬しながら、積極的に教会をリードしていきましょう。

要約すると、愛に満ちたリーダーになろうということです。

- 愛をもって教会が前進するようにリードし、キリストの花嫁として、また神様の子供や家族として、より高く導いていきましょう。
- 自分自身(と自分の体)を愛するように、導く人たちの気持ちや経験に繊細になり、リードしている人たちを愛しましょう。
- 私たちは皆、キリストの主権の下にあることを知っているなので、配慮と尊敬をもって彼らをリードしていきましょう。

父親としての長老たち

長老は、妻にとって神様を敬う良い夫であるだけでなく、子供にとっても神様を敬う良い父親です。兄弟たち、私たち長老は、子供を育てることから何を学ぶことができるでしょうか。父親としての経験からどんな知恵を得て、神の教会に家族の文化を築くことができるでしょうか。

子供たちを愛する

私たちが良い父親であるのは、自分が神様とイエスに愛されたように子供を愛してきたからです。

わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。
(第1ヨハネ 4:19)

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。(ヨハネ 15:12)

私たちは、子供たち一人一人を愛してきました。彼らと時間を過ごし、彼らを、彼らの心、ニーズ、弱さ、そして強さを知ってきました。時には難しいことがあっても、彼らに寄り添えるように努めてきました。これが良い父親になった理由です。

子供を苛立たせてはならない

父親たち、子供を怒らせてはなりません。(do not exasperate your children)
主がしつけ論されるように、育てなさい。(エフェソ 6:4)

自分の子供をどのように苛立たせてしまいますか。子供が苛立ちを感じるのは、このような時です。

- 子供が、私たちの行動や態度によって、彼らに教えてきたことに違反していると感じる時。私たちが間違っただけや不適切なことをしたり言ったりしても、気づかず、認めず、謝り、赦しを求めることをしない時。(このような苛立ちは、他の家族のメンバーに対して同じような態度をとっているのを見た時にも起こります)
- 私たちが激怒し、辛辣で、無礼で、彼らの気持ちに無関心になる時。
- 私たちが彼らを見下したり、彼らの話に真摯に耳を傾けなかったり、あるいは私たちがばかり話していると、彼らを感じる時。
- 子供を導く時に何を言っているのか説明せず、ただ言っただけで、子供がそ

れをすることを期待している時。(これは年を経て、子供がより成熟し、思慮深くなってくると、より問題になります)

- 私たちへの従順を期待しているが、関係的には親密ではなく、一貫した、あるいは温かい愛の表現をしない時。
- 私たちが「外側」に焦点を当て、彼らの行動だけを見て、彼らがどのように感じ、何を考えているのかを感じ取るための心の対話をしない時。
- 彼らが良いことをしていても認めず、称賛せず、彼らが葛藤して苦しんでいても励まさない時。

主にあって養育し、訓練し、指導する

先ほど引用した聖句(エフェソ 6:4)で、神様は使徒パウロを通して、父親に子供の育て方を教えています。「育てなさい (bring up)」と訳されたギリシャ語には、より深い意味があり、それは「養育する (nurture)」ということです。子供を養育する時には、さらに2つのことをするように言われています。「主の訓練 (training) と指導 (instruction)」を与えることです。

この3つのコンセプトは、何を意味して、どのように組み合わせられるのでしょうか？

- 「養育する」とは、子供に神の言葉を心と思いのレベルで分かち合い、幼少期から10代まで教え、御言葉で彼らを養うことです。(申命記 6:4-7 参照)
- 神様は、父親である私たちに、個人的に子供に関わり、感情的、霊的につながるように心と時間を投資することを求めています。私たちが子供を養育し、教え、訓練する際に、一貫した温かさや愛情を与えることを望んでおられます。
- 養育し、教え、訓練することは、神の言葉を資源として活用し、私たち自身の人生にどのように具体的に適用され、彼らの人生にもどのように適用されるかを示すことによって行われます。
- 聖書から養育し、訓練し、教えることで、私たちが教える最も重要な事柄は、個人的な意見ではなく、神の言葉に基づいていることがわかるようになります。

- 子供を教え、訓練する際には、彼らが何を考え、どのように感じているのかを知るために、質問をしたり、注意深く聞いたりして、彼らの心を引き出す必要があります。(箴言 20:5)
- 子供を教え、訓練し、養育する時、私たちは子供自身と彼らの将来についてのビジョンを持ち、彼らが自分の才能や賜物を発見し、それを生かすことができるようにします。(ローマ 12:6-8)
- 子供が弱さと葛藤していても、間違いを犯しても、彼らのベストを信じて励まします。
- どのように母親や兄弟(姉妹)と親密になるかを教え、訓練します。彼らが、どのように関係の衝突を解決し、謝り、傷ついた時や不当な扱いを受けた時に赦すのかを学べるように助けます。
- 彼らと一緒に祈り、家族と一緒に歌い、礼拝します。私たちは彼らに、そして彼らと一緒に微笑みます。

最後に

兄弟たち、上記のリストを見て、地域の教会で家族を築くために適切に適用しましょう。教会のメンバーは、私たちの人生において妻や子供と同じ位置にいるわけではありませんが、彼らを家族のように扱い、お互いにそのように接するように教えなければなりません。私たちは、愛、家族、親密さについて養育し、教え、訓練することによって、教会の成長を助けるために一貫して時間を費やす必要があります。神が私たちにさせようとしているように、夫や父親として学んだ心や原則を教会の文化にもたらすことによって、キリストの体の中に家族を築いていきましょう。

9章 神の教会における家族を建てる者としての長老 パート2

サム・ラング

こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。(エフェソ 3:14-15 新共同訳)

ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。(ガラテヤ 6:10 新共同訳)

私たちが自分の家族の中で育み、建ててきた良い基準を、長老として、他の神様の家族にも与えてほしいと、神様は望んでいます。私たちは自分の家庭で模範を示してきました。教会の中でそれはどのように実現できるでしょうか。実践的な面で、どのように「気をつける」(ヘブライ 12:15) ことができるでしょうか。教会のメンバーシップが多く、私たちが自分の妻や子供に持つ個人的な関心を一人一人には持てないほどである時、近い家族のような文化を、教会の中に長老としてどのように建てることができるでしょうか。

大きな交わりでの親密さ

教会が、愛に溢れ、親密な家族であるために、教会の弟子は少人数のグループになる必要があるのでしょうか。それとも交わりのために弟子は大人数で集まる必要があるのでしょうか。

神様が私たちのために保存してくれた使徒言行録の記録を見ると、大勢の人がキリストに結ばれるバプテスマを受け、同じ教会にいる姿があります。彼らがどのように機能していたかについて正確な詳細は伝えられていませんが、時々彼らは礼拝するために全員で集まっていたこと、そして同時に、お互いの家でも会っていたことが分かります。つまり、彼らは大人数でも集まっていたし、小グループでも集まっていました。(参照:使徒言行録 2:42-47, 6:1-6, 14:26-28, 15:30, 18:7-8, 19:8-10 など)

大きな集まりと小さな集まりには、それぞれ大きな利点があります。大きな集

まりは私たちに特別でユニークな祝福をもたらします。何十、何百、それ以上の弟子の集まりを目にするとき、私たち一人一人にとって、計り知れないインスピレーションを生み出すものとなります。また同時に、力強い説教や壮大な礼拝の大きな機会を与えるものとなります。大勢が共に歌うエネルギーを凌駕するのは他にありません。メンバーであれ訪問者であれ、年齢、人種、育った背景、文化を超えた、大きく、多様性に溢れたコミュニティを目にするとき、愛によって一致させる、神と独り子の力に驚かされ、この世で孤立している人々がインスパイアさせられるでしょう。

礼拝における大勢の集まりは、確かに私たちの教会に祝福をもたらします。

しかし、大きな集まりだけでは、家族を建てることはできません。もし大きな集まりだけが教会が一つになる唯一の手段であれば、私たちは親密で愛のある関係のある教会を建てていくことはできません。教会において家族的な関係を持つためには、交わりにおいて親密で、関係の近さがある、小さなグループを建てていかなければなりません。

もし教会が大人数で、弟子たちがお互い全員を知ったり、知られたりできない時、どのようにして私たちは家族を建てる（家族になる）ことができるでしょうか。

以下に、考慮すべき実践的な提案をします。それによって、自分自身の親密な家族を建ててきた長老として、私たちが神様の教会で、神様の家族が親密になっていくことをつくり上げていくことができるでしょう。

小グループを通して教会に家族を建てる

ほとんどの家族はどのぐらいの大きさですか。あなたの家族は何人家族ですか。

家族の数に決められた数はありませんが、神様は家族というものを必要な大きさにデザインしたことは明らかです。それによって、家族のメンバー全員が、個人的な関心を受け取り、お互いに近くなることができます。

私たちは小グループを作る必要があります。それによって、大きな教会の家族の中で、すべてのメンバーが親密な友人関係を持つことができ、お互いに個人的

な関心、励まし、神様が意図するトレーニングを受け、与えることができます。ですから、大きな神の教会の中に、小さく、親密な家族を建てていきましょう。

どのようにして大きな教会の中に、適切な人数の機能的な小さな家族を建てていくことができるでしょうか。

リーダーを選び、トレーニングする

長老として、私たちは「聖なる者たちを奉仕の業に備えさせる」(エフェソ 4:12 ESV) ように神に言われています。これが意味するのは、意志と能力のあるメンバーが小グループをリードしていけるようにトレーニングすることによって、私たちは親密な家族的な文化を持ちながらも、人数的に大きな教会を建てていくことができるということです。小グループをリードする心と能力のあるメンバーを探し、見つけていきましょう。そして、そうできるようにトレーニングしていきましょう。

リーダーを個人的に牧会する

メンバーが小グループのリーダーとして任命されたら、彼らが群れを牧会し、造り上げられるように、私たちは長老として、彼らを牧会していきましょう。私たちは現場でのトレーニングを体系化する必要があります。それによって、長老のチームの一人から、もしくは長老とつながって、その役割を託されたスキルのある人から、それぞれが継続的で個人的な指示を受け取っていくことができます。

小グループリーダーに対する長老からの個人的な関心は、彼らがグループを建てていく祝福と共にある重荷にも、上手に対処していくことができる助けともなります。小グループをリードしている人たちは、リードする時にかかるエネルギーの量に、よく圧倒されます。長老の皆さん、彼らが重荷を忍耐できるように、彼らと共に歩みましょう。そして彼らに必要な知恵と励ましを与えていきましょう。

私たちが彼らを牧会しながら、知恵を持って彼らに耳を傾ける必要があります。私たちは、彼ら（そして彼らのグループ）が感じ、経験していることを完全

に理解していけるように求めるべきです。ただ私たちのアイディアを彼らに押し付けるのではなく、家族の建て方について、彼らのアイディアに耳を傾ける必要があります。なぜ私たちは彼らに聴く必要があるのでしょうか。それは私たちが、彼らが仕えているクリスチャンたちの特定のニーズを理解すること、そして、彼らがそれらのニーズをどのように満たすことができると考えているかを理解する助けとなるからです。このことは、年配者として、若いリーダーやグループと共に働いていく上で、特に重要なことです。私たちは、彼らのグループが霊的にも福音宣教の面でも実を結ぶものになっていくことに関わる上で、彼らの視点から、チャレンジや実用的なことを掴んでいかなければなりません。私たちは彼らに聴くことによって、変わらない聖書的原則や実践、教義を伝えていくために、たとえそれが新しい（霊的で知恵のある）方法を用いる時でさえも、（彼らの世代の文化において）アドバイスを与えたり、備えさせたりすることに、より効果的になっていくでしょう。

グループを訪問する

小グループリーダーを牧会し、トレーニングする者として、私たちは彼らがどのような状態か十分に知るために、頻繁に彼らのグループを訪問すべきです。そのようにして、私たちは知恵のある必要なインプットをグループリーダーに伝えることができ、教会のメンバーともより近くなることができるでしょう。我々の訪問によって、リーダーもグループのメンバーも、長老と一緒に持つ家族の時間から来る安心、自信、励ましを感じるができるでしょう。

グループ内の賜物を用いること、新しいリーダーを育てることを助ける

私たちは、小グループのリーダーが彼らだけで小グループの全体を背負わなくてよいことを教えていく必要があります。彼らが、他のメンバーを育てていくことを、励まし、支援していきましょう。私たちがまさに自分たちの子供たちにするように、他のメンバーが神の家族をケアし、建てていくための自分の役割を果たしていけるようにすることです。

グループの中で継続的に新しいリーダーが育てられていくことは、とても重要なことです。なぜこのことが重要なのでしょうか。家族というものの現実を考

えてみてください。私たちの子供たちは、彼らが結婚する時に、自分の家族を建てるために私たちを離れます。(創世記 2:22-24) 私たちの小グループも似たようなプロセスを通っていきます。グループの人数(と成熟さ)が成長した時、再び小さな小グループに分かれていく必要があるでしょう。それによって、まとめられる人数になり、お互いの近さを保つことができるでしょう。つまり、新しいリーダーを育て、備えさせることで、グループはより小さく、親密なグループに分けることができるようになります。それらのグループは、人数が増え、個人に目が届かなくなる状況の前に持っていたのと同様の家族的な感覚を保つことができるでしょう。

チームとしてグループを監督する

私たちは長老として、教会全体の家族的な文化が機能的かどうかを見るために、長老同士やミニストリースタッフと近くで働かなければなりません。私たちがグループのリーダーや監督する人たちを備えさせると同様に、すべてのメンバーが成長し、成熟するのを助け続けていくために、私たちには知恵、アドバイス、励ましが必要です。

摩擦の解決を強調し、支援する

私たちは、メンバー間、グループ内で起こる摩擦の解決について、公に教え、個人的にカウンセリングをしていく必要があります。私たちは自分たちの夫婦関係、子供たちとの関係において、平和を実現する者になることを学んできました。ですから、ぜひ私たちが学んできたことを生かして、他の人も同様に助けに行きましょう。

夫婦関係や子育てを教える

家族を建てていく上での最後のアドバイスは、長老として、教会で、たくさん夫婦関係と子育てを教えていきましょう。なぜなら、この分野の良い結果の歴史を私たちにはあるからです。もちろん、私たちも家族も完璧ではありません。しかし、私たちは、どのように建て、その過程でイエスを主としていくかを神様から、そして御言葉から学んできました。私たちが学んできたことを分かち合う

ことは、教会の夫婦や家族が成長し、乗り越え、他のメンバーの励ましとなっていくことの助けとなるでしょう。そして、我々のコミュニティにおいて、神の知恵と力の模範となっていくでしょう。

長老が教会で家族を建てる時、素晴らしい結果が起こる

小グループを建て、教会メンバーに個人的な関心が与えられることを通して、私たちは「弟子を作りなさい... 父と子と聖霊の御名によってバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」（マタイ 28:19-20）という、イエスの命令を実現していくことになることを認識していきましょう。もし私たちがそのようなグループを作り、維持し、養っていくのであれば、私たちのメンバーや教会が霊的に成長するだけでなく、人数の面でも成長することになるでしょう。人が私たちの中で福音が愛によって生きているのを目にするとき、人々はイエスに従うことに惹かれていくでしょう。

私たちがこの素晴らしい命令とイエスの約束にフォーカスし、この目的のために群れを牧会、リードしていくことができますように。

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。（ヨハネ 13:34-35）

兄弟たち、私たちが教会において愛の溢れる家族を建てる時、メンバーは、私たちの周りにはいる世の数えきれない人々も同様に、交わりにおいて神の力と愛を目の当たりにしていくことになるでしょう。そして、彼らの人生は永遠に変えられるでしょう。

10章 長老のリーダーシップ機能

ウィンダム・ショウ

教会の長老グループは一緒に働くことができ、一致すればするほど強いものになります。霊的で効果的なリーダーシップグループは偶然にできるわけではありません。これは意図的に一人一人が作り上げるものであり、維持し続ける必要があります。正直さ、謙虚さ、人の話をよく聞くこと、学ぶ態度や成長することなどが機能的な長老グループを作る上で必要なものです。

第一コリント 5:6 では、「わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。」と言っています。近代的なことわざでは「一個の腐ったリンゴは全体を腐らせる」という言葉もあります。

自分自身がグループの機能を妨げる「腐ったリンゴ」にならないように気をつけましょう。

ビル・ハイベルズ牧師が書いた本「格言、力強いリーダーシップのことわざ」において、リーダーシップに不可欠な3つの「C」から始めることを私も多くの研修会で分かち合っています。この3つは資質(Character)、能力(Competency)、相性(chemistry)です。私は個人的にもう一つを追加しました。確信(Conviction)です。

健全なリーダーシップグループの関係はその集まりの確信、資質、能力と相性に注意を払った時こそ上手く機能します。この章では、グループの相性(chemistry)つまりどのように一緒に働くか、または遊ぶか、その関係の相性に着目します。

多くの場合自分の長所と短所を客観的に見えないので、自分で考えながら人にも聞いてみましょう。自分のグループとの関わり方はどのような影響を与えていますか。害を及ぼす化学反応のようなものを生み出していますか。いい影響がほとんどないですか。または他の個人と合わせて力によって素晴らしいものを作り出していますか。

「私」と一緒に働くことはどうか

ある長老グループにおいて全員でこの質問を考えました。「私と一緒に働くことはどのような経験ですか。」

この質問を考えた時、励まされた部分もあれば心が刺された部分もありまし

た。多くの方が私を励ましてくださったと同時に、私は「しゃべり過ぎ」だと指摘してくださいました。自分が最も長老として年数が長かったため、他の長老は遠慮して意見を言えない人がいました。または自分の意見が聞き入れてもらえないのではと思って、必要以上に強く意見を言った人もいました。このことに気づかされた時にハッとしました。ヤコブ 1 : 19 に書いてあるように、聞くのに早く、語るのに遅くならなければならないことが自分のことだと改めて見せられました。

グループの中での自分の在り方についてはなかなか分かりにくい部分があり、自分で見えていない盲点があります。「語られるべきことが語られない」ことがグループで行われるようになってはいけません。(英語では **Elephant in the room** という表現がある。象が家にいるのに、みんながそれに気がついていないふりをするという意味。つまりみんな分かっているけど言えないということ。) 残念ながら摩擦を恐れることによって多くのことが語られないために、グループ内の人間関係が壊れてしまいます。エフェソ 4 : 15 に書いてあるように愛に根付いて真実を語りましょう。

常識のあるコミュニケーション

コミュニケーション不足によって人間関係が難しくなることは、聖書の中でも繰り返されているテーマの一つです。例えばヨシュア 22 章では、コミュニケーションをしないで、相手の動機を決め付けたことによって戦争になりかけたことがありました。同じようなコミュニケーション不足が生み出す問題は現代においても起こりますが、このような摩擦は話し合いさえすれば避けられるでしょう。コミュニケーションをし過ぎることは滅多にないですが、コミュニケーションが足りないことは簡単に起こります。特に相手の考えを知り尽くしている、または、相手は自分の考え方を理解しているはずだと思ってしまう時に。コミュニケーション不足による摩擦は誰も望みません。

長老のグループが集まる時には、まずコミュニケーションのプロセスをきちんと作成し、そのように話し合うことが大切です。まず誰が何を誰にどの順番で伝えるべきかをはっきりさせます。どの集まりでも事前に話し合う議題を作成します。全員のメンバーの中で話し合う議題を決めることになっています。そしてまとめ役が議題の緊急性、重要性、関連性のあるものから優先順位をつけます。

議題のリストは事前に送られるべきです。これによって、一人一人の長老が集まる前に準備ができて、質問があれば事前に聞くことができます。

長老は誠実にメールなどを迅速に返信し、何が重要なことがあれば自分から議題として提案することが大切です。一人の怠惰さは全体のグループの機能を傷つけることになります。

交わりを楽しみながらできますか

計画性を持たないと、長老の集まりは退屈で長く感じる時間になってしまいます。そうすると集中できなくなります。イエスが弟子たちと会っていた時、多くの場合は食事が用意されていて、その時間で祈りがありました。イエスは食事しながら祈ると心がつながることを知っていました。私の長老グループの会議は必ず食事から始まります。(順番で一カップルが用意します)その後にお祈りの時間とグッドニュースを分かち合います。神様が助けをくださることは重要です。数年前のある長老の提案によって、会議中でも何度も知恵をいただくために短い祈りの時間を持つようにしています。それは非常に知恵深い提案であり、どんなことにおいても神様に頼り続けることを忘れないようにし、神様が必ず知恵をくださることを確認できます。

長老の妻も会議に参加することはとても有益です。食事の時間も祈りの時間も話し合いの時間も共にし、大切な意見やアイデアを貢献してくれます。妻としての謙虚な姿勢を保つように一人一人が責任を取ります。教会の監督責任は長老にあると聖書が命じているので、何か投票することがある時にはそれには参加しません。

決定に至るまでのプロセス

リーダーシップグループが陥りやすい落とし穴の一つは話し合いばかりで何も決断せず、必要なことを実行しないことです。もちろん祈ること、聖書からの学び、聖霊からの導きのために時間をかける必要性がありますが、最終的に行動が必要です。

行動する議題と誰がその責任を取るかを明確にし、はっきりと理解される必要があります。何らかのアカウントビリティのシステムを導入し、締め切りなどを明確にするとやるべきことに対して常に進歩できます。

もし何かの問題に取り組むためにより多くの情報を収集する必要があるなら

ば、そのためにチームを作成します。そのグループが情報収集した後に長老グループにフィードバックをします。時間と知恵が限られているので、仕事をグループ以外の人にも分けることによって、あらゆる側面から問題解決に取り組むことができます。

決定事項に関して最も影響を受けるメンバーが、その決定についての思いなどを話す機会を与えられるべきです。決定するプロセスにおいて二つの大切な質問があります。一つ目は、全て意見を求めるべき方の話を聞いたか。二つ目は、全て話し合ったことが事実であるかどうか確認できているか。私たち全員が聞き上手になり、洞察力を増し、どんな人の意見でも聞ける人にならなければなりません。

コヘレト 12 : 13 では、ソロモンは知恵についてこのように語っています。
すべてに耳を傾けて得た結論。「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。

全ての人の話を丁寧に聞いた後、結論を出すことは正しいことであり、良いことです。

「エトロの原則」と「マトリックス」

過去の失敗を反省することによって、長老のグループは決定するプロセスのマトリックス（母体）を作成することになりました。

丁寧で秩序のあるコミュニケーションによって何か決定された時に、人が傷つくことを避けることができます。決定されたことを人々に伝える上で、決定したことを発表する時にどこまで話すか、どの順番で話すかなどについて前もって丁寧に考えるべきです。このような決定によってこのようなフォローアップの話が必要、など。

教会全体が影響される大きな決定事項： この場合は誰がこのプロセスを指導するか、そして誰に相談すべきか、そして最終決定権は誰にあるのかをきちんと決めておくことが重要です。教会全体が影響される変化を発表する時には、伝道者、長老、教師、女性ミニストリーリーダーや小グループリーダーに事前に報告されていて、そこに一致があることが最も重要です。

このようなコミュニケーションの例としては、数年前にボストンの長老たち

は、一人一人のニーズが十分に満たされるためには、全員が小グループに入ることを教会の決まりとして決定しました。長年ボストンの教会においては実践していたにも関わらず、改めて小グループの機能に対して心を注ぐ思いを決心し直す必要性を感じました。これを実施していく過程で長老、ミニストリースタッフ、そして小グループリーダーに話して、最終的に教会全員に発表しました。

教会のある部分にしか影響を及ぼさない、大きな決定事項： このような状況においては影響される教会の部分のリーダーシップで話し合い、その詳細は長老に報告することで十分でしょう。

大きな決定事項とは教会全体またはあるリージョンの方向転換を及ぼすもの、または人事の問題や予算やまたは教会からある人をメンバーシップから外す時です。

小さな決定事項： まず誰が決定事項に関わるか、話し合いに参加するか、そしてその過程を指導するかを話し合っ、丁寧に計画することが大事です。このような決定事項においては長老が報告されれば十分でしょう。もし小グループのレベルでより正確に判断して決めることができる決定事項に長老が関わりすぎてしまったら、小グループのリーダーは信頼されていないと感じ、苛立つでしょう。同時に必要以上に多くの問題に長老が関わりすぎることによって、疲れてしまいます。モーセの義理の父のエトロは人に任せる原則の大切さをモーセに教えました。長老はこの「エトロの原則」をしっかりと理解して応用できるようになるべきです。小さな決定事項の中には教会の方向性の転換や人事、予算、スタッフの問題や教会全体のイベントなどは含まれません。

予算、または予算外のお金に関係する事務的な決定事項も同じようにその決定事項の組織を丁寧に考えておくべきです。牧師ができるだけ、祈りと御言葉の奉仕と群れを牧会することに専念できるように、長老が事務的なことをなるべくサポートするべきです。ローマ 12：4-8 に書いてあるように、一人一人が神様からいただいている賜物を教会のために活かすことがどのミニストリーにおいても重要です。これは一人一人の弟子にとって重要であるだけでなく、教会が機能するために重要です。長老としてメンバーが自分の賜物を活かせる

機会を与えるべきです。

このような細かいことに注意を払うことによって、長老グループが適切なコミュニケーションをした後に、タイムリーで無駄の無い決定プロセスに至ることになりました。

全員の意見が一致しない中で、どのように長老グループの中の一致を保つか

昔、子供が小さかった頃、「どこに食べに行きたいか」と子どもに聞いた時のことを思い出せますか。おそらく、小さい家族であったにも関わらず、様々な異なる意見が出たのではないのでしょうか。人は違います。考え方は様々であり、それぞれ違う文化、生活の背景や見解を持っています。そのため、意見などはいつも一致しないでしょう。

同じように、長老のグループの中でも、聖書の中ではっきりとしない事項に関しては様々な異なる意見を持つようになるでしょう。ある見解について強い思いがある時があります。なぜ他の人は自分の意見に賛成できないのかが理解できないその時こそ、自分の見解が「正しい」と思っているでしょう。（聖書がはっきりと教えていないことに関しては兄弟姉妹の異なる意見を受け入れる大切さを思い出しましょう。）長老に欠かすことのできない資質を思い出してください。相手の見解を丁寧に聞き、自分が理解するよりも、相手の言っていることを理解することを目指すべきです。時には人を説得し、時には人に説得される立場になることが必要です。謙遜で柔和であることを目指しましょう。

（エフェソ 4：2）

説得し、説得される

使徒言行録において、祭司ガマリエルが議員たちに対してペテロと使徒達を処刑しないことを説得しました。パウロの言葉によって多くの人がイエスについていくように説得されました。リディアの説得力のある言葉によって、パウロと弟子達は旅の計画を変更して、彼女の家滞在することになりました。時には福音を敵対する者が群衆を説得し、人がイエスや弟子達に対して敵対するようになってしまいました。

人を説得すること自体は正しくもなく、間違ってもいません。説得することはただそのままのものです。説得しようとしている議題は、時には正しいか正しくないかという領域のものであり、時には人の意見の領域です。この違いを

区別することが重要です。

私たちの人生の模範と言葉は説得力のあるものです。何か教会に関係することに対して強い意見がある時には、自分の見解を理解してくれるように説得することがあります。しかし、これを行いながら、聖書に書かれているように謙遜と柔和を身につけて相手に愛と尊敬を持って話しましょう。私たちの理論や理解によって相手が説得される場合もあれば、そうはならない場合もあります。どのような結果となったとして平和な心を求めましょう。

説得しようとする時こそ、謙虚な心は重要です。そして人に説得される者になるためにも謙虚な心は大事です。もしほとんどの場合においても人に説得されることがないのであれば、おそらく私たちの謙虚さが足りないということの表れであり、より謙虚になる必要があります。

長老グループの中で説得し合っているながら、ほとんどの場合、決定事項は多数決で決めることはありません。ある方向に全員で一致して進むことが多いです。しかし時に意見が割れてしまうので、その時には投票します。

私たちの長老グループは投票を行う時には、多数決で物事を決めます。他のグループは異なる決め方があるかもしれません。どの方法を使用するかにおいても、その過程とルールは全員に明確に理解されることが必要です。自分の思い通りになった時、または思い通りにならない時に謙虚さと一致する心が大切です。自分の思い通りに決められなかったことによって、自分勝手に思うようにやってしまうことは間違っています。「一匹狼」や「ほら、みろ」と言うような人、または「自分対相手」と思ってしまう人によってグループの関係が破壊されます。

何かを長老グループとして決断した時には、団結してやります。自分の望んだ通りの決心に至らなくても、一致して前に進みます。後で「自分はみんなと違う考え」というようなことは絶対に言いません。投票で決めた時には、誰が何に投票したなどについてはグループ以外の人には公表しません。正直であることは大切ですが、グループの一致を守ることに注意を払います。

一人一人の長老は、全体に対して説明責任があります。まとめ役の人はグループが決めたルールに従って機能することを確認するべきです。もし一人の長老が他の人にとってイライラさせる存在となったら、その人に直接話して、い

ないところで話してはいけません。時にはグループ内で和解するための話し合いをすることがあります。これはミーティングの場以外の所で行い、和解できたらグループに報告すればいいです。

以前にゴードン・ファーガソンと私が書いた本である「リーダーシップの黄金律」の中で、伝道者、長老と教師が存在する成熟な教会リーダーシップグループにおいては協力し合って、全員の合意のもとで決定事項を実施するように勧めました。

決定事項は難しい

長老になる上で一つ大きな躓きとなることは、難しい決断をすることに対しての責任の重さと難しさです。長老に任命された人にとっても、何かを決定することの重さは辛い思いになることがあります。長老は教会を牧会し、一致を保たなければならないと同時に、摩擦的な関係または難しい決断から逃げてはいけません。時々、心が引き裂かれるような決断をしなければなりません。私自身は長老になってから、最も難しい決断として以下のようなものがあります。

*個人的な友達であり、教会のヒーロー的な存在だった人を教会の交わりから去らせたこと

*個人的な友達をクビにしたこと

*教会の分裂分派を対処したこと

*主任牧師を雇ったこと

*不満があり怒っている女性の問題に対処したこと

*不満があり怒っている男性の問題に対処したこと

*教会の財政難によって、いい心のスタッフをリストラしたこと

*将来を予測しなければならなかった時に大きな決断をしたこと

*自分の家族が直接的に影響を受けるような決断をしたこと

決定する過程やそれに伴う人間関係の問題などは、時には難しいですが、その中で生み出される一致は見ている人にとって素晴らしい模範にもなれます。神の御言葉に頼り、聖霊に頼ることから自信を持てます。長老グループの関係はダイナミックなものになれます。成長し、進歩し、関わっている人にとっては重荷ではなく、喜びになれます。

11章 群れを守る：長老と教会規律 (church discipline)

ジェリー・シュガーマン／ロン・ブラムリー

羊飼いは守ります。実際に夜分には、羊飼いは侵入者の侵入や迷子が外に出ることを防ぐために、ゲートの入り口にいることでしょう。それは「ポイントマン」ということにもなります。スティーブ・ファラーは、著書である「ポイントマン」において、夫と父親の役割をポイントマンの役割と比較しています。

「ポイントマンとは何か」と聞くかもしれません。ポイントマンとは、軍隊の先頭につく兵士のことです。その兵士は、危険を事前に察知することでその隊を守ろうとします。その役割にある兵士は、敵の陰謀やわなを認識する能力を持たなければなりません。彼らは敵の存在を示す、木の葉の間のわずかな光や植物の間の金属の光沢のような、小さなものでも見つけ出すトレーニングをします。同じように、長老は神の教会のための霊的なポイントマンになることを神に呼ばれています。彼らはサタンの「陰謀」を認識し、偽教師から教会を守り、群れの一致を保たなければなりません。特にそれは悪者が分裂や派閥によって群れを散り散りにさせようとする時に必要なのです。

偽教師に対する守り

この召命を心に留めて、長老は精力的に (vigorously)、積極的に (proactive) 群れを守らなければなりません。使徒 20：29-32 では、使徒パウロがエフェソの長老たちに、「真実を歪める」「残忍な狼たち」から群れを守ることを伝える、親密な場면을観察することができます。エフェソの教会は以下のことを対処していました：

- ・ 作り話、系図、空論の知性偏重、論争、種々の仰々しく無意味なもの (1 テモテ 1:4、6-7、6:20、テトス 3:9)
- ・ 禁欲主義：特別な掟の制定 (食物に対する掟、結婚を禁じる掟など)；多くのものを汚れたものとする (1 テモテ 4:1-5)
- ・ 自分の家族を世話しないこと (1 テモテ 5:8)
- ・ 貪欲と偽の教えによってお金を集めること (1 テモテ 6:5)
- ・ 復活がこれから起きることを否定する人々 (2 テモテ 2:18)
- ・ 口論 (2 テモテ 2:24-26)

- ・ だまされやすい女性を利用する男性たち (2 テモテ 3:6-9)
- ・ グノーシス主義：すべての物質は悪であり、霊のみ善であるという教え。それゆえ、肉体と霊は分けられるものである：「自分が不道徳であるなら、それは本当には自分がしているのではない、ただ自分の体がしているのだ」

しばしば、そのような歪曲は微妙なものです：霊的な真理が含まれた有毒な混合物は、隠れた嘘や利己的な動機に覆いをかけます。これは、長老が人のことを対処することに加えて、聖書に精通している必要があるということです。長老は正しい教義の擁護者である必要があります。これは、彼らが霊的な「交渉の余地なし」というものを信じているということです。

長老が信じて、教会に伝えるべき基礎的な教義は何でしょうか。

- ・ 聖書の靈感と権威 (2 テモテ 3:16-17)
- ・ 神の全知全能さ、偏在 (どこにでも存在する)、三位一体の性質 (詩編 147:6、マタイ 28:18-20)
- ・ キリストの神性 (フィリピ 2:6)
- ・ 罪のないイエスの人間性 (1 ペトロ 2:22)
- ・ イエスの身代わりの死 (1 ペトロ 2:24)
- ・ イエスの肉体を伴った復活、昇天、再臨 (使徒 1:9-11)
- ・ 信仰を通して恵みによる救い、同時にバプテスマは新生の始まりとして、回心のプロセスとして認識すること (エフェソ 2:8-9 ; 使徒 2:38)
- ・ すべての人々を伝道する普遍的召命とすべての人に弟子の基準の必要性 (マタイ 28:18-20)
- ・ 貧しい人々を覚える決心 (ガラテヤ 2:10)

教会メンバーが正当に意見を持ったり、表現したりする事柄は十二分にあります。しかしながら、基礎的で、中核的な教義の面で、長老は力強く、断固とした態度を持つように神に召されています。いつどのような状況で堅くあるか、自由であるか見極める知恵を要求されます。人があたかも中核的な信念かのように自分の意見を固く持つというような、自由な意見を言える場合にはより大きな知恵が要求されます。そのような状況では、監督者は人の意見を認めるというレッスンをメンバーの心に教えるように呼ばれています (ローマ 12:10)。聖句

を備えたあとには、三つの重要な分野で召されていることを認識します。

1. 偽の教えに従っているメンバーを正す
2. 罪の振る舞いを明らかにする
3. 世の文化の流れが教会に忍び寄らないようにする

これらのツールは一致を保ち、わがままなメンバーを正すことに用いられます。

偽の教えに従っているメンバーを正す

マタイ 7:15-16 が示すのは、羊の皮をまとった狼を見極めるには、彼らの実あるいは彼らの人生や教えの生み出す結果が明らかにするとあります。キリストの体における派閥や何かしらの不一致は望まない成果あるいは実です。テトス 3:10 では、交わりを持たないようにする前に、分裂を引き起こすメンバーに二度警告するように指示されています。

罪の振る舞いを明らかにする

罪を明らかにすることは、長老が監督すべき極めて真剣なステップです。これは実際には、マタイ 18:15-17 に示されている4つのステップの3ステップ目です。この聖句が教えているのは、罪を犯されたメンバーは、まず罪を犯した兄弟あるいは姉妹と個人的に対峙するということです。次に、最初のステップで一致が成されない場合には、一人か二人の他の弟子がその状況に関わるようにします。そこでも聞き入れない、理解がない、悔い改めがない、謙虚さがなければ、「教会」に知らされなければなりません。このステージは熟練した長老の手によって取りまとめられます。

「教会に伝える」という方法が不適切であったり、適切な前後関係で行われなかったりすることが、頻繁に起こります。このことはメンバーに対する罪の影響の大きさを常に熟慮されるべきです。影響が大きければ大きいほど、より多くの人に知らされるべきです。明らかにすることを、罪を犯した人の影響に応じてファミリーグループや個人々に制限することは、その事柄に関わっていない教会のメンバーや訪問者を守ることになるでしょう。それはまたメンバーの罪が不特定多数の公の目にさらされることで、イエスの御名が汚されることを防ぐことになるでしょう。

これらのすべての取り組みが成功しない場合、このプロセスの 4 つ目の最後のステップは、除外 (disfellowship) することです。しばしば、人は自分から教会を去る決心をする一方で、交わりからの益を好みながらキリストの体である教会で機能するために神の御言葉を尊重しない人もいます。聖句が教えているのは、そのような場合には、わたしたちはその罪を犯した人を、「徴税人」のように扱いなさいということです。この場合の徴税人とは、外の人々の益のために同胞を裏切る者という意味です。

世の文化の流れが教会に忍び寄らないようにする

文化的な道徳観や倫理観は衰退や退化を繰り返しながら、時々教会文化の中に気づかない間に流れ込んできています。クリスチャンの間でさえも、道徳観の低下がどれほど受け入れられているかは驚くべきことです。問題は、エンターテインメントにおける暴力、セックス、不敬に対しての、クリスチャンの感覚の喪失です。この分野において、人々は純潔さの欠如にますます慣れてきてしまっています。長老の感覚は、高貴なもの (フィリピ 4:8、ヘブライ 5:14) に関してその考えをトレーニングされた副産物であるべきです。それによって、会衆が模範として見る基準あるいは道徳的な砦として仕えることとなります。長老の人生と教えは、クリスチャンたちが純潔と最初の愛 (ヘブライ 13:4、黙示録 2:4-5) を取り戻すような明快な呼びかけとなるべきなのです。

ガードレールとしての教会規律

設計者は、車両が高速道路から外れてしまわないように、十分に注意して計算して、曲がりくねった山道にはガードレールを配置します。ほとんどの場合それらは必要とされません。しかし、まさにその存在が道行く者に安全をもたらすのです。同じように、教会における貴重な関係は、人々が狭い道から外れることを防ぐガードレールのようなものです。その群れの人生に関わっている長老は、最も効果的に教会を守り、メンバーが正しく人生を送れるように助けることができます。教会規律は、交わりという通貨を、罪を犯しているクリスチャンを悔い改めに導き、神様とその教会と和解させる力として用います。しかしながら、このことは歴史上痛々しいものとなり続けてきました。教会規律は、悔い改めた罪人を取り戻し、関係性のダメージを修復し、体の一致を保つために用いられるべきです。しかしながら、教会において、感傷的さから (臆病さからさえ)、実践の失敗が

頻繁に起こっています。反対に、傷付いた人が、罪を犯した人から「一ポンドの肉」（シェークスピア「ベニスの商人」で借金の代わりに一ポンドの体の肉を要求したもの。必要以上の要求を表す。）を奪い取ろうとすることもあります。恵みと真理は常に必要とされ、罪を犯した人々をキリストのように導くためには、多くの祈りが要求されます。

幸いなことに、使徒パウロのコリントへの手紙において、わたしたちは罪を犯した人が教会の適切な反応によって我に返った素晴らしい例を見ることができます。1 コリント 5:1-5、2 コリント 2:5-11、7:8-13 において、パウロは教会に指示を与えています。最初に、パウロは、コリントの教会メンバーの中にある深刻な罪を排除することを教会に厳しく戒めます。近親相姦（息子とその継母が姦淫の関係である）が許され、受け入れられさえしていました。

次に、パウロは教会メンバーの除外（*disfellowship*）の指示を与えています。その目的を伝えると同時に、それをどのように実践するかの概略を示しています。聖句がほのめかしているのは、パウロは1 コリントと2 コリントの間に、厳しく批判する手紙を書いたということです。それは戒めがさらに強くなり、十中八九感情が傷つく弟子たちもいました。パウロは教会に、罪を犯した者をサタンに引き渡すように伝えました。それはそれによってその人が交わりを失い、最終的に悔い改めるためでした。結果的に、コリントの教会への最後の手紙において、関わっていた人たちがすべて悔い改め、和解と一致が成し遂げられました。

これらの聖句から幾つかの鍵となる考えが出てきます。教会規律は罪を犯した者を信心へと導くために用いられるということです。それは罪人をひれ伏させる意図ではありません。この教会規律における一般的な誤りは、罪を許すところから、罪人を過剰に戒めるところまで、多岐に渡ります。重要な点は、交わりを失わせることは、悔い改めを促すためであるということです。そして、共同体と罪人が愛と一致によって共に成長できるということです。

この例から学べるもう一つの重要なコンセプトは、和解のためには必要不可欠な要因があるということです。悔い改める罪人は、神の御心に適った悲しみ（2 コリント 7:8-11）を持たなければなりません。神様の前で、そして彼らが傷つけたあるいは影響を与えた人々の前で、彼らは罪への悲しみを表現しなければなりません。このことは神様と教会の前で彼らとその悔い改めを言葉で表現するように導くべきです。つまり、悔い改めた罪人は自分で道筋を制御することを放棄して、その反応は傷つけられた人に委ねられます。傷つけられた人は赦さない

ことを選ぶかもしれませんが。しかしながら、それは神様の前でその人自身の罪になってしまいうでしょう。神の計画は、関わりがあるすべての人が、無条件の愛と赦しに明け渡していくことです。

パウロが書き記したように、コリントの人々は悔い改めに導かれ、熱心さ、誤りを犯した者を正すための弁明、憤り、恐れ、将来と現在の状況に対する熱意を示しました。悔い改めは、二度とこのことを起こさせないという確信から来るべきものです。賢明なリーダーは、罪を犯した人が確信を表現することと、悔い改めの決心を強める変化の計画を呼びかけます。それは決心の表明になります。神様にフォーカスし、畏れを持つことは、罪を犯した人が神様との関係において深い確信を得ていく助けとなります。

罪を犯した人と和解していくことは教会規律の重要で必要不可欠な要素となります。罪を犯した者の回復 (restoration) が最も大切なことである一方、教会メンバーとの関係の回復も非常に重要なことです。これはあらゆる賠償 (与えられたダメージに対する正し) を含み、最終的に交わりの喜びが回復します。これは、傷や感情的なダメージの量に左右されるために、難しいものとなりえます。長老は、使徒 9:26-28 においてバルナバがサウルのためにしたように、罪を犯した者が共同体に再び戻るための仲介をすることができます。このすべてのことが長老の役割の一部であるべきです。交わりの回復における態度と感情表現は放蕩息子のたとえに表現されています。それはわがままな息子の帰郷に対する溢れる喜びを表す父親の姿です。またわたしたちはヨセフからもこのことを学ぶことができます。彼はその兄弟たちを赦し、彼の兄弟たちに対する愛を再度確約することもしました (創世記 50:21)。

共同の知恵 (collective wisdom) の力

群れを守るために、長老は偽教師と対峙し、誤った教義に捕らわれているメンバーを正し、罪の行いを明らかにし、道徳観が流される時に正義を固く保ち、時々教会規律を実践しなければなりません。新約聖書において長老について言及するすべての箇所が複数形の「長老たち」となっていることは、驚くべきことではありません。わたしたちはお互いの知恵と援助を必要としています。このことはわたしたちと同様に教会を守ることとなります。旧約聖書において、「70人の長老たち」(出エジプト 24:9)、その後「預言者の仲間たち」(2列王 2) という記述があり、霊的なリーダーの特徴的な複数形を示しています。

使徒 20:17 において、パウロはエフェソの教会の長老たちに会うことを求めます。これはパウロが意図的にこれらのリーダーにかなりの時間を費やしたということの証拠です。常に宣教師であったパウロは、他のどの教会設立よりもエフェソ（3年間）に滞在しました。つまり、パウロが長老たちに群れを保護し、見守るように伝えた時、それが神様の計画であることの確信がありました。二人以上が教会を見守るところに知恵があるというのはもっともなことです。さらに、不完全である人々の群れに問題がある時に、神に仕えてきた年数を重ね合わせて活用できる、霊的な羊飼いたちによる共同の祈りや「シンクタンク」ほど安心を与えるものがあるのでしょうか。長老たちの群れの中で自分自身の歩みは普通である、あるいは間違いだらけのものであったとさえ考えることがあったとしても、神は彼の益と栄光のために我々の過去と間違いを活用する方法をお持ちです。そして、神はわたしたちがそのプロセスの中で知恵を得ることを助けてくれます（ローマ 8:26-32 ; 1 テモテ 1:12-14)。長老が共同の益として得られることとして感謝を表す多くは、素晴らしい実践や勝利の祝福の話と同様に、何をしないようにするかという話です。それはいかに長老の群れが教会を守るための神の計画を映し出したものであるかというところに表されています。

ここでの最後の考察は、神の民を警告すること（エゼキエル 33）の監督者への呼びかけです。もし長老たちが困難や反抗の時に堅く立つことを神に期待されているのであれば、その時、長老たちの群れは互いに力を守り合う神のサポートシステムです。神とその独り子は、人間の性質と我々の恐れる、ひるむ（ヘブライ 10:38-39）傾向をご存知です。それゆえ、神は伝道（マルコ 6:6-13）と牧会において「バディシステム」を設けたのです。我々の神は一貫しています。神の計画は驚くべきものです。そして、長老の役割は最も名誉なものなのです。

12章 一致のために熱心に努める

ダレン・ゴーチエ、イスラエル・エレオラ、ウィンダム・ショー

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

(エフェソ 4:1-6)

弟子は、すべてを尽くして一致を保つように努めていく者です。「熱心な努め every effort (新改訳)」は、時間や巡回するというような物理的なことだけでなく、私たちのキャラクターの成長の努めも含まれています。エフェソの4章において、パウロは一致のための不可欠な要素について言及しています。それは、謙虚さ、柔和さ、忍耐、愛です。一致を生み出し、保っていくために、長老はこれらの資質をプロセスし、成長していかなければなりません。そうでなければ、私たちは和解の使者になることはできず、一致を保つために熱心に努めることができません。

一致は甘美なものです。一致は喜ばしいものです。詩編 133:1 はそのことを私たちに覚えさせてくれます。「見よ、兄弟が共に座っている。なんといい恵み、なんといい喜び。」私たちはこの一致の美しさを体験してきましたし、同時に、間違いなく不一致の不快も味わってきました。それでは、私たちは一致を保つため熱心に、どのようにして努めていくことができるでしょうか。

一致を築くもの

一致は、他のものと同様に、偶然には起こりません。それは、私たちの家族と同様に、築き上げ、保たれていかなければなりません。私たちの家族の一致を建てる助けとなった実践はどのようなものでしょうか。私たちが学んできた最も

重要な実践は以下のようなものです。

共通の確信：聖書は私たちの確信の土台であるべきです。そうでなければ、心や思いの深い一致は保たれないでしょう。

共通のビジョン：私たちは家族としてどうなっていきたいでしょうか。どのような家族として知られたいでしょうか。そのためにどのように共に努めていけるでしょうか。私たちは心に私たちの目指していくものを建てていく必要があります。

祈り：「一緒に祈る家族は一緒にいる」ということわざには真理があります。祈りは、私たちの心を唯一の神様に、ひとつの目的に向けて一致させてくれます。祈りは私たちを神様とお互いにつなげてくれます。

脆弱さ：私たちは、自分の人生をお互いに開き合うことが、近さを築く唯一の道だと学んできました。オープンさがないと、お互いに交わっていても、本当の意味では、お互いについて知ることはできません。脆弱さは安心感を築きません。それは一致を造り上げるものです。

笑いとお涙：喜びと笑いを分かち合うことは、一致を築く助けとなります。喜びやお祝いの分かち合いがない時、満たされることはありません。同様に、悲しみ、悲嘆、涙も私たちをお互いに近づけます。一致は、私たちが感情を分かち合うために「姿を見せる **show up**」時に、もたらされます。

聴くこと：一致はお互いの考え、恐れ、質問、疑問、問題を、真摯に聞くことによって建てられます。一致は話された言葉、話されていない言葉を聴くことによって建てられます。

励まし：家族はお互いに励まし合う時に一致します。これがなければ、私たちは落胆、失望し、剥奪されます。

赦し: 家族は時々、必ずお互いを傷つけ合います。赦しは欠かせないものです。赦しが欠けると、苦々しさが一致を破壊します。

どのようにして、これらのことを教会に、お互いに、適用していけるでしょうか。私たちはこれらを実践していかなければなりません。模範を示していかなければなりません。これらにおいて成長していかなければなりません。教えていかなければなりません。私たちは一致を築いていくすべてのプロセスの進捗に対して、堅く立ち、真剣でなければなりません。

一致を壊すもの

もちろん、サタンは全力で不一致を生み出そうとします。私たちを分断することができれば、多くの闘いに勝つことができるとサタンは分かっています。同時に、神に従う者たちが一致する時に、不可能なことは何もないことも、サタンは分かっているでしょう（バベルの塔を考えてみて下さい）。サタンはいつも破壊することを求めているので、一致の継続を難しくさせるチャレンジは定期的に、継続的に、起こります。一致を壊していく障害物はどのようなものでしょうか。

一致を壊すものは以下のようなものです。

ためらい: 我々のほとんどは摩擦に取り組むことは好きではないし、不一致を取り扱うことをためらいます。長老は摩擦から遠ざかることのない勇気の人であるべきです。パウロは、一致が強調されるようにしました（彼自身はその場にいなくて解決できないにも関わらず）。教会内で愛する2人の姉妹（エボディアとシンティケ）の間で起こっていた問題が取り扱われるように主張しました。（フィリピ 4:2）

両サイドの話を聞かずに決めつけをする: 私たちは、一方の罪に応じて先走った結論を持つ誘惑にいつも遭います。すべてに努めるとは、私たちが時間を取り、摩擦の両サイドから話を聞くことです。（箴言 18:17）

議論の余地のある事柄に関して教義のように取り扱う：長老は、ある見方は正しいか間違いかの事柄ではなく、意見に関することであることを理解しなければなりません。私たちは多様性の中での一致を学ぶ必要があります。

解決をもたらさない：もし私たちが物事を未解決のままにするのであれば、しばらくは沈静化しても、時が来て再び燃え出すでしょう。ロン・スセクの素晴らしい著書『ファイヤーストーム：教会の摩擦を防ぎ、乗り越える』において、そのことが強調されています。解決とは、傷や間違っを行われたことを理解すること、謝罪し、赦しを求めること、そして将来的に問題が異なるものになることに献身することが含まれています。

偏愛と人種差別：これらのことは、伝統や文化、環境の影響の違いに対する不十分な理解や受け入れを含んでいます。長老は教会の問題に対して、えこひいきや偏愛なしに、指示していく責任があります（1テモテ 5:21）。長老は異なる背景から来た人々に対して、文化的影響や伝統の重要性など、喜んで学ぶものにならなければなりません。そして、自分たち以上に相手を敬う必要があります。（ローマ 12:10）

機能していないコミュニケーション：対話（書かれたものであろうが、話されたものであろうが）は、一致する場合もあるし、分断する場合があります。はっきり伝える前に質問をすること、温かい表現をする、決めつけない話し方をする（叱る場面ではない時）、そして共感することが役に立ちます。「私たちの言葉への熱心な努め」のセクションで、重要な会話において、一致を努めていくための方法をさらに分かち合います。

教会において苦々しさを許すもしくは赦さないことを残す：赦そうとしない者は、神様から赦しを受け取ることはできません。（マタイ 6:15）赦そうとしない人に悔い改めを呼びかけることはどれほど重要なことでしょうか。もし長老がそうしないのであれば、誰がするのでしょうか。神は赦しを緊急性のあ

るものとして見ています。(マタイ 5:23-24) もし苦い根が残り続けることを許すのであれば、それは大きくなり、多くの人を汚すこととなります。(ヘブライ 12:15)

プライドとお互いにへりくだらないこと：フィリピの 2 章では、私たち全員が持つべきイエスの態度が描かれています。もし私たちが理解することよりも正義であることを望むのであれば、私たちは一致を保つように努めてはいないでしょう。一致は謙虚さから始まります。私たちの謙虚さは他の人に明らかであるべきです。それは自分が間違ったときは喜んで(欲深くではなく)認め、あるいは謝罪していくことも含まれています。

これらすべてのことはミニストリーを脱線させ、教会の霊的健全と成長の妨げになっていきます。長老は解決に向けて取り組まなければなりません。

使徒 6:1-2 において、使徒たちは不一致を生み出す問題に出くわしました。ギリシア語を話すユダヤ人のやもめたちが、ヘブライ語を話すユダヤ人から軽んじられていました。12 人は、目の前の問題を強調して、独創的な解決を求めました。彼らはただシンプルな謝罪を持つことができたにも関わらず、目の前の問題を越えて、乗り越えていく手段を見つけました。

一致を築くものと壊すものは、教会の弟子だけに適用できるものではなく、リーダーシップの中の一致を生み出すためにも、必要不可欠なものです。

リーダーシップチームの一致

長老は、教会のリーダーシップの一致においても力強い役割を果たします。一致しているリーダーシップは、ひとつの目的のために集う教会全体をインスパイアすることができます。その一方で、不一致なリーダーシップは教会の健康と成長を行き詰らせ、失望させます。教会におけるリーダーシップは、聖書的確信と教会のビジョンにおいて、一致していなければなりません。意見の領域に関しては、他の人の見解を敬うことは不可欠なことです。もし私たちが自分の意見がいつも正しいものだと思っているならば、私たちは一致の妨げとなるでしょう。

リーダーたちの中で一致を築き、保っていくためには何が必要でしょうか。家

族や教会メンバーの中で一致を築いていくのと完全に同じ資質が、リーダーたちの中での一致を築いて、保っていくためにも必要とされます。

リーダーはエフェソ 4:12-13 で言及されているリーダーシップの共通のゴールを覚えていなくてはなりません。「こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」

もしリーダーが個人的な立場を心配したり、過剰に繊細であったり、他者の意見を敬えなかったりする場合、彼らは一致におけるサタンの攻撃に対して、とても危険な場所にいます。同時に、リーダーがあまりにも疲弊していたり、神様との親密さが欠けていたりする場合、彼ら（私たち）は、脆弱で、不一致の危険性にさらされています。

長老として、リーダーシップにおける働きの一つは、明確な役割の定義とそれらの役割において健全なアカウントビリティのための構造を作ることも含まれています。働く環境を一致させ、明確にすることは、良いことであり、喜ばしいことです。

「熱心な努め」の中に神様がいるようにすること

「熱心な努め Every effort」は受け身ではありません。しかし、努めることは、私たちの働き以上のものが含まれています。私たちがまず、すべての状況において神様を招くことが必要不可欠です。聖霊が私たちの内にいることを覚えることです。聖霊が最終的に一致を生み出す存在です。私たちは、働きにおける神様とのパートナーシップや祝福を見ずに、神様の元に行かずに、状況を「直す」誘惑があります。悔い改めをもたらすのは、神の聖霊です。(2テモテ 2:25) 私たちは、関係の中にまず、神様をもたらすことに熱心に努めなければなりません。そして私たちが関わる人たちも、同じようにするように呼びかけなければなりません。私たちの努めは、神様の働きの代わりにはなりえません。私たちは決して熱心な祈りと断食（マルコ 9:29）なしに、一致を保つために熱心に努めることはできて来ませんでした。

私たちの言葉への熱心な努め

ヤコブ 3:5-8 は舌の力を私たちに教えています。それは火となり、毒に満ちます。長老は卓越したコミュニケーションをする者になるように呼ばれています。

あなたが一般的な人であるなら、難しい会話に直面せずに一日が過ぎることはほとんどありません。それは代償が大きいものだったり、意見が異なったり、感情が強く込もっているものだったりするでしょう。以下はケリー・パターンソンとジョセフ・グレニーのベストセラー『重要な対話 Crucial Conversations』から引用した8つの助言です。重要な対話を力強い結果を生み出し、関係を築く経験にしていくためのものです。

助言は質問の形となっています。

1. いつ重要な対話が必要でしょうか

あなたが行き詰った時、仕事や個人的な関係がマンネリ化した時、あなたのチームや組織で結果を成し遂げる際に問題がある時、「自分を行き詰らせている自分が向き合っていない対話、もしくは十分には向き合っていない対話はあるか」問いかけてください。重要な対話は、両サイドにとって新しいレベルでの理解と献身のブレイクスルーの助けとなります。

2. 重要な対話中にどのようにしてフォーカスを保つことができるでしょうか

あなたが重要な対話に入っていく前に、「私は本当には自分に何を望んでいるか。私は本当には相手に何を望んでいるか。私は本当にはその関係に何を望んでいるか」と問いかけましょう。自分のゴールが明確であればあるほど、恐ろしくコントロールされなくなるでしょう。

3. 手遅れになる前に、どのように問題の警告のサインを掴むことができるでしょうか

相手が沈黙に向かうとき（身を引く、隠す、避ける）、もしくは暴力的になるとき（支配的、レッテルを貼る、言葉による攻撃）、それらは相手が安心を感じていないサインです。沈黙もしくは暴力的なもの、安心が危険にさらされて

いるサインを見つけることを学びましょう。重要な対話が酷いものとなる時、問題は率直すぎるのではなく、安心がほとんどないことです。十分な安心があれば、あなたはどんなことも話すことができます。

4. どのようにして、どんなことでも話せる安心した対話にすることができるでしょうか

人は、あなたが言う内容によって防御的にはなりません。人が防御的になるのは、彼らを感じ取るあなたの言葉の裏にある意図によるものです。相手が防御的になる時、問題について話すことを止めて、あなたの目的を明確にしてください。あなたがこの対話で、あなた自身に、相手に、その関係性に、本当には何を望んでいるかを分かち合って、あなたの動機を理解できるようにしてください。(＃2を参照)

5. どのようにして自分の感情を取り扱うことができるでしょうか

あなたの感情をその根本まで触れることによって、取り扱えるようにしてください。私たちは重要な対話の最中に、自分自身を悩ませることがあります。それはわたしたちが、①話し合っている問題の原因について、自分の責任を隠したり、無視したりする時、あるいは、②問題の原因を相手の考えられ得る最悪の動機のせいにして、相手の責任を誇張する時です。

自分自身に問いかけてください。①自分は、自分の責任に対し知らないふりをしていないか。そして、②分別があって、理性的で、真正面から向き合う人は、相手がしているようなことをするだろうか。

6. どのようにいら立たせずに、説得力を持つことができるでしょうか

事実から始めてください。感情から始めるのではなく、事実を分かち合うことによってスタートしてください。あなたを心配させた具体的で、客観的な経験（自分が思ったことではなく、相手が言ったこと、もしくはしたことです）を表現してください。

例えば「裏切り者のばかやろう。お前はあそこで提案をすべて自分の手柄にした」と感情から始めるのではなく「ミーティングで、あなたは提案を“自分の

アイデア”のように言及しました」のように話してください。

事実から始める時、分別があつて、理性的で、真正面から向き合う人は、あなたが感じたように、どのように考えたり、感じたりするかを、理解することを助けます。相手がそのような認識を持てると、あなたが伝えなければならない最も微妙なことでさえも、相手は防御的になりにくくなります。

7.どのようにして相手の見解を探索できるでしょうか

相手が、防御的になることを減らす最も簡単な方法は何でしょうか。それは聴くことです。あなたが自分自身のことを分かち合うことに時間を使うように、相手が問題をどのように見ているか探索する時間を取ってください。探索するとは、相手の見解に純粋な興味を持つという意味です。あなたのゴールは必ずしも相手の見解に賛同するというものではありません。その代わり、分別があつて、理性的で、真正面から向き合う人は、相手を感じるように、考えたり、感じたりするかを発見することです。あなたが興味を持てば持つほど、相手はより安心を感じ、あなたは相手の言ったことに引っ掛かりにくくなるでしょう。

8.どのようにしてよい終わりにすることができるでしょうか

明確な期待を持って終わるようにしてください。ただ良い対話を持ったということで満足しないでください。全員が、どのようにきつぱりと問題解決に至るかについて、完全に明確にしてから、次の行動に移ってください。誰が何をいつするかについて、具体的な同意を取ってください。そして、あなたと相手とその約束を守っているかどうか、いつフォローアップするか決めてください。明確な同意としっかりとしたアカウントビリティは、素晴らしい対話を素晴らしい結果に変えるものとなります。

個人的な仲たがいの解決に対する熱心な努め

弟子の間の個人的な仲たがいは、迅速な行動が求められます。最初の行動は聖書的解決のステップに則って、両者が向き合うようにします。もしそれが機能しないのであれば、聖句は外からの助けを得るよう指示しています。(マタイ

18:15-17) いずれにせよ、このような事柄は、うわさや間違っただ情報が広がる前に、最優先で取り扱われなければなりません。それは、メンバーの中の混乱と不和の原因となります。聖句は個人に明確な解決のプロセスを指示していますが、長老はこのプロセスが機能しているようにしなければなりません。解決は、個人間の話し合いや祈りを通して生み出されると、より素晴らしい機会になります。しかしながら、そのプロセスが機能しない時、長老はより進んだ話し合いがなされるように、その場において一致がもたらされるために、あらゆる努めがなされるようにする必要があります。

リーダーと弟子たちとの間での熱心な努め

時々、不一致はリーダーと彼らがリードしている弟子たちとの間で起こります。その解決には相当な労力と思慮深さが求められます。このような不和は、広範囲に及ぶ、ネガティブな影響を与える可能性があるからです。弟子たちからのリーダーたちへの信頼（そしてリーダーからの弟子たちの信頼）は健全な教会に不可欠です。このような関係の問題は繊細なもので、バランスのあるアプローチが求められます。

繰り返しますが、聖句は指示を与えています。そして両者がその御言葉に心から献身するように呼び掛けるのは、長老にかかっています。このような関係の難しさの一つに、実際そうしているか、もしくは言動がそのように認識されてしまっているかわかりませんが、えこひいきの可能性もあります。（1 テモテ 5:21）しかし、長老が努めて、群れを知ろうとし、群れに対して愛と憐れみを表現することによって、そのような可能性が起こることから守ることができます。最終的に、全員が和解し、教会内の一致を保とうとする機会は、神様からの祝福です。このことはフォローアップと継続的な監督が求められます。なぜなら、ゴールは完全な一致だからです。

リーダーたちの間での熱心な努め

長老は、聖書的役職を含め、すべてのレベルのリーダーシップ内の不一致を解決する責任があります。我々のゴールは、継続的な協力を手助けし、働きにおけ

る摩擦を取り除いていくことです。様々なレベルのリーダーシップにおける摩擦の幾つかは以下のようなものです。

- 1) 不健全で、競争的な環境
- 2) 否定的なことが強められること
- 3) えこひいき
- 4) 好ましくない行動
- 5) なおざりにすること
- 6) 個人的利益の追求

このような誘惑（その他のことも含め）のすべては、リーダーシップの関係の中で、長老が注意しているべき事柄です。すべての摩擦を回避することは不可能ですが、愛と良いコミュニケーションを促進する長老の努めによって、そのような摩擦に陥る緊張と可能性は、驚くべき程減らすことができます。一致は、ビジョンを行動に変え、信頼と安心によって教会全体を祝福する力なのです。

スタッフと責任役員の間での熱心な努め

小さな教会は、ミニストリースタッフと責任役員との摩擦の危険性がより高いです。その第一の理由は大きな教会には長老がいることが多いからでしょう。小さな教会において、本来長老が果たすべき役割が、責任役員の手によって為されます。そのメンバーは、たいてい、教会内でよい模範であり、メンバーから尊敬されている兄弟姉妹です。

彼らのインプットや知恵は、価値あるものである一方、役員の仕事は聖書的な役割よりも、法律的な側面の方が大きいです。長老の機能がない教会のリーダーシップは、長老がいる教会とつながっていくことは賢いことでしょう。そのことによって、すべての人が境界線を持った中で働くことができ、具体的な機能に対しての明確さと尊重を通して、一致が促進されていきます。

長老が、そのようなビジョンを持って、教会に話し合いやトレーニングを提供することは、賢明なことです。そのことによって、長老の必要性をすべての教会が感じるでしょう。そしてその必要性を満たそうとする熱心な努めは、我々の姉妹教会すべてで一致を促すものとなります。

長老が立てられている教会においても、摩擦は起こりえます。予防のための教えは、このような不一致の罅に対抗するための、団結した文化を生み出すことに必要不可欠です。明文化された、聖書を基礎とした会則の創作と順守は必要なものですが、先ほど述べた権威と役割の明確さと理解は、一致を保つための予防の測りとなります。長老は、コミュニケーションを最大限に生かすために、責任役員と密に働くことは賢明なことです。スタッフと責任役員の間摩擦が生み出す不一致によって、隙をつかれないようにしていきましょう。

教会ファミリー間での熱心な努め

地域の教会（Regional Family of Churches：例えばSEAリージョンに属するそれぞれの教会）を構成する教会の長老たちは、共通のゴールに向かって共に働く協力作用を発展させていく必要があります。

地域の教会に属する各教会は、教会間での機能に対して、健全で一致した理解を発展させていきます。彼らの共通した考えは明文化されたり、各教会に受け入れられたりしていきます。このようなことは、霊的な献身や通例の礼拝実践に関して、すべての所属する教会に適用できるものとして、各教会の枠組みとなります。そのような核心的な信仰は、世界中の教会全体の目指すべき目的と確信に沿うものであるべきです。

より力のある教会が小さな教会を「養子にする」ことが考えられるかもしれませんが。その目的は、定期的な訪問、教え、財政的または管理的サポートを通して、お互いに成熟していくための、健全で、尊敬のある交流です。協力関係の規定には、リーダーシップの専門分野の共有や、その地域における戦略的な教会を建てる計画も書かれるかもしれません。地域の教会の長老たちによる一致した努めは、その地域の将来的な長老を見つけ、進展させる機会を生み出すことができます。アイデア、実践、時には試練の共有は、一致の絆を構築し、それは神を喜ばせ、すべての弟子たちの益となります。

兄弟愛における熱心な努め

兄弟愛のフォーカスは、マタイ 28:18-20 で主イエスがすべての弟子たちに与えた命令である「行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子

と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」を元にするべきです。

一致のために熱心に努めることはネガティブなことにフォーカスしがちですが、愛は多くの罪を覆うことを私たちは覚えるべきです。長老は教会における愛の文化を作る最前線にいるべきです。一致に努めるひとつの方法は、批判的なことに早いことよりもむしろ、善いことに早く気が付いていくことです。お互いの賜物を理解し、感謝を表現し、尊敬を示しお互いを高め合うことに、早くなっていきましょう。

ヨハネ 13:34 でイエスは私たちに命令しています。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」

この偉大な掟への従順から一致は始まります。失われた世を救っていく私たちの努めが増していくのと同様に、救われた魂を牧会し、リーダーたちが成長していくための努めを増していきましょう。リスクは高いです。平和による絆で結ばれて、霊による一致を保つように「熱心に努めていく」ことができますように。

13章 平和を実現する者としての長老：摩擦の解決

ウォルター・エバンス

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ 5:9)

「我々はただ聖書の中にある教会のようになろうとしている。」これは、伝統的な教会を出て、聖書的なキリスト教の活発な信仰を見出した、我々の交わりの多くの人々が言う共通の反応です。しかしながら、教会の中に摩擦があったり、信仰を同じくする兄弟姉妹の間に緊張感があったりする時には、それが失望や不安定な混乱になります。「なぜこのようなことが起きたのか。」「我々は聖書に生きている、一世紀の教会のようになろうとしていると思っていた」という言葉があります。わたしは何度も「聖書を読んだことありますか。」と反応したくなる誘惑にあってきました。しかし、わたしは思いとどまり、誰も摩擦は好きではないこと、そしてすべての人は、教会は問題がないこと、「上手くやっていくこと」を期待していることを認識してきました。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ 16:33) というイエスの言葉を読む時、わたしたちはこの言葉が意味するのは、わたしたちがキリストのために世を去った時、わたしたちは反対、誤解、違い、強い意見、強すぎる性格からも去ったと考えがちです。

摩擦は新しいものではない

どのような訳を開こうとも、どのようなあなたの好みのものでも、神の聖なる書物の中には、この世の摩擦が溢れています。個人間の摩擦、グループ間の摩擦、その素晴らしい行いによって神に用いられてきた高名な霊的リーダーたちの間にさえ摩擦はあります。ため息をついて、「最低、天国に行ったら、平和になる」と言う人もいるかもしれません。わたしも確かにそう願っていますし、そのつもりでもありますが、残念ながら、かつて天国にさえ戦いがありました(黙示録 12:7)。わたしたちのここでの期待は、教会の中から摩擦をなくすことでも、すべてを禁止にしたり、互いに反対意見を出す教会メンバーをだまらせたり(もっと悪いことは、教会リーダーに反対するメンバーに対して)するような、硬い組織を作ることでもありません。わたしたちのゴールは、神様の方法で摩擦を解

決することであり、それは聖書的教会の長老制が、このゴールを成し遂げる神様の仕組み（mechanism）になるということです。対立に対して霊的な仲介がもたらされる時、神の栄光は現れ、平和的解決と和解が成し遂げられるのです。このような結果がもたらされる時、わたしたちの周りの世の中でさえ、「神様がまさにこの場にいる」と言うことになるでしょう。

摩擦は良いものになりうるのか。

中々認め難いことですが、すべての摩擦が悪いものというわけではありません。その定義によると、摩擦（対立）とは「競争あるいは両立しないものへの反対する行為：拮抗している状態あるいは作用（異なるアイディア、興味、性格など）メリアム・ウェブスター辞書」ということです。この定義によると、わたしたちはお互いに一致していない問題の様々な面を見出すことができます。摩擦が進むと、問題がもっと具体化されていきます。そうすると、全体像がより明確になり、より定義できるようになります。これはしばしば痛みの伴うプロセスですが、わたしたちは摩擦からそれらのことを学ぶことができます。その結果として多くの場合、わたしたちは詳細な情報を得た上での決断をすることができます。これは摩擦時に噴出する罪や罪の振る舞いに言い訳を作るということでは一切ありません（このことは後述します）。これはわたしたちが先に進むための気づきや情報を得るということです。さらに注目すべきことは、摩擦はキャラクターの成長を生み出すということです。目の前の問題に対する態度を変えない中で、強い反対意見を持った場合にも罪的な反応をしないようにする弟子は、多くの人の模範となり、キリストのキャラクターに同調する立場を取ることになります。さらには、摩擦はしばしば、もし真実の和解が成し遂げられるためには、出される必要のある根深い罪を明らかにします。「問題」が実は本当の問題でないことが頻繁に起こります。より深い傷が示されるためには難しい話し合いによってのみ可能になり、よりよい和解の道と真実の赦しが成し遂げられます。

神様の計画は完全です。そしてその計画において、神は「あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆」（黙示録 7:9）の男女を天に集めるようにお選びになります。この最終的な多様な集まりの一部となることで、わたしたちは一致について確信を持たなければなりません。イエスはその地上での最後の時に、わたしたちが「完全に一つ（complete unity）」になり、それによって、「世が知るようになる」（ヨハネ 17:23）ための

祈りをささげました。イエスは一致を保つことは激闘の戦いであることをご存知でした。わたしたちが摩擦に対処することに献身し、摩擦の解決に価値を置くことがなければ、真実の一致を持つことはできません。わたしたちは個々の教会内に、教会間にさえ存在する問題を無視してはなりません。わたしたちの確信が霊の家族における神様の解決に焦点がなければ、わたしたちはすべての神の民の最終的な栄光の集まりに到達することはできません。

救助する長老

摩擦に対処する必要性は、教会や長老に限ったことではありません。日々の人生は、困難な状況や行き詰まった人々の中にある一見小さな問題に対する種々の対立に溢れています。これらの問題が解決され、人が前進する時もあります。しかし、しばしば、問題が「行き詰まり」、未解決のまま残り、さらに悪化すると、激しい対立になります。

教会内外の数え切れない男女が、摩擦を避ける者であり、口に出さず不満のままに人生を歩み、沈黙したまま苦難を被っています。黙っていない者は、立件し、闘うための支持者のグループを作ります。このような波だった水面を舵取りできる外部の力を探すことは難しいことであり、解決のためにサービスを提供するプロの専門家もいます。しかし、グッドニュースは、神様は摩擦の時にクリスチャンが適用できる聖書的な方法を定められました。神はさらに長老を与えられました。彼らはプロセスの中で対立する者を導く特別な資格が与えられています。

1 ペトロ 5:1-4、テトス 1:6-9、1 テモテ 3:1-7 を観察しながら、摩擦の対処に必要なとされる長老の資質を見ていきます。長老の資質を特定し、それらをいかに摩擦の解決に適応していくかを見ていきましょう。

- ・ 人生経験 - 一人の妻の夫であり、その子供たちも信者であって、自分の家庭をよく治め、子供たちを従順な者に育て、群れの模範であり、非難される点がなく、教会以外の人々からも良い評判を得ている

これらのすべては、人生の難しいものを切り抜けるために労苦してきた人が持つ資質です。その人は自身の夫婦関係や家族を建ててきたと同時に、教会の外の人々に影響を与えてきました。反対者や摩擦の対処の仕方を知ることなしに、人生のそのような部分を通り過ぎて、成功していくことはできません。今ではお

なじみの保険のコマーシャルの引用です。「彼はよく知っている、彼はそれを見てきたから」。

- ・ バランスの取れた気性 - 献身的に、すぐに怒らず、分別があり、正しく、**節制し、寛容で、争いを好まない**

これらのキャラクターは長老になるための前提条件であり、不安定な状況に飛び込み、自身の感情がその妨げにならないようにする能力を確かなものにしていきます。長老はどちらかに偏ることがなく、対立する双方から信頼を得ます。そして、そのバランスの取れたアプローチを通して、妥協点を見いだすことができます。それは双方の益のために聖地をあきらめるということです。長老は最終的にヒーローになる必要はありません。しばしば、その役割がよく果たされると、ほとんどの人たち、摩擦に関わりがなかった人たちは、摩擦が起こっていたことさえ認識がないかもしれません。

- ・ 尊敬されるリーダー - 牧者、自ら進んで、非難される点がなく、神の家を管理する**監督者、客を親切にもてなし、自分を制し、勧め、健全な教えを教え、非のうちどころがなく、礼儀正しく、信仰に入って間もない人ではなく、忠実である**

いつも目立って、注目を集める人がリーダーであるとわたしたちは見がちですが、長老はごく普通の生活の中での信仰深い生き方によって導きます。それはその人生や家族に示されます。反対者は時々長老の見方に反対するかもしれませんが、彼らは長老の人生や神様が長老を通して行っていることには反論できません。長老は建てる者でもあります。彼らが神の力によって建ててきたものは、困難の最中に必要な信頼性を与えるものです。

忍耐、そしてもっと忍耐

長老に関する聖書的な資質に加えて、忍耐は羊飼いににとっての傑出したキャラクターであることは言うまでもないことです。この必要不可欠な霊の実は、派閥争いが教会に不一致を起こしている時に特に重要になります。わたしたちの手っ取り早い解決の文化においては、一回の大きな話し合いですべての問題が解決することを望みます。この「一度きり」のアプローチは、長く続く摩擦にはほとんど効き目がありません。たいていは、数ヶ月と言わないまでも、必要な情

報を集め、双方が聞いてもらえたとするには、数週間を要します。多くの話し合いが持たれる必要があるかもしれません。解決したと思ったところに、予期しない妨げがあったりします。時々、摩擦を外から見ている人に見くびられた視線を送られたり、「まだその問題は続いているの。」と言われてたりします。目の前の問題にフラストレーションを感じたり、疲弊したりすることによって、長老が他の人が信仰を失う原因になってしまう時もあります。確かに解決がもたらされる時は来ますが、たいていの場合考えられるよりも長くかかるものです。長老はそこに長期間関わる者になる必要があります。

具体的な実践

長老はこれらの聖書的な資質を持っている必要がありますが、これは外部からの助けやさらなるトレーニングを受けることができないという意味ではありません。数え切れないほどの助けとなる本と同時に、仲介や摩擦の解決についての有益なコースがたくさんあります。わたしたちの教会にも、この分野でトレーニングされ、より難しい状況に対して大きな助けとなるクラスを教えることのできる兄弟がいます。学術的支援もとてつもなく大きな付加となります。しかし、わたしたちの解決の基礎は、様々な関係の仲介の考えから出た最新のアイデアではなく、常に聖書に基づくものであるべきです。

摩擦の解決のスキルを持つ長老を教会内に持てることは大きな祝福です。しかし、たとえ熟練した長老がいるとしても、わたしたちは、問題が起きた時に早まって、教会メンバーがすぐに長老の元に行くようなことをしないように常に注意すべきです。彼らはまず自分たちで問題に取り組むべきです。たとえ羊飼いが羊に心があり、傷つけ合っていることを助けたいとしても、双方がまず自分たちで解決のための努力をしていない時には、長老も自制し、対立に入らないようにする必要があります。マタイ 18:15-17 が、双方を向き合わせるために有益で、必要ではない時に他の人が一方を支持することを避ける助けとなる、基本の枠組みとなります。あまりにも頻繁に、それは教会の最も成熟した人々においても、多すぎる外の人に関わりすぎていたり、対立している一方がもう一方を無視して、直接長老に問題を持ち出したりしています。わたしたちが認識しなければいけないことは、罪を犯された人がまず兄弟姉妹のところに行くことは勇気が必要ですが、神の知恵は、その方法がほとんどの問題を軽いものとし、悪化していくことを防ぐことを幾度となく証明してきたということです。

時に長老が摩擦から身を引かなければならない場合もあります。それは、長老がその状況に近すぎる人で、客観的になることができず、関わっている人たちに個人的に反応してしまうかもしれないからです。使徒 15 章において、わたしはちょっとした皮肉を見つけることができます。それはパウロとバルナバが（エルサレムの教会リーダーたちと共に）、初期教会において最も厄介な問題であった、異邦人の兄弟たちの割礼という問題を、見事に対処するという場面です。これは素晴らしい摩擦の解決の学びであり、わたしは初期教会にとって強固な基準となった、バランスの取れた解決に至るまでの規律とプロセスの仕方を称賛します。皮肉は、その章の終わりに、パウロとバルナバが個人的な事柄（家族対ミニストリー）で対立し、結果的に別々になってしまうことです。大きな問題で勝利を得たこの 2 人の偉大な信仰者が、結局それよりも全然小さなことで解散してしまうことは、彼らの対立は個人的なものであったということを経験するまで、困惑させられることです。わたしたちはいつも自分の個人的な偏りを見えているわけではないことを認識していなければなりません。そのことによって、わたしたちは問題を複雑にし、和解のプロセスを遅らせてしまうことさえあるのです。確かにこのことこそ、神が常に長老を複数形で話している理由のひとつです。その摩擦は自分にとって痛々しすぎるものでしょうか。それでは別の長老に担ってもらいましょう。

教会における摩擦の種類

教会におけるほとんどの摩擦は、後のステージになって、長老たちによって解決されるかもしれませんが。それは時間が取られ、情報が集まり、双方が聞いてもらい（聞いてもらったと感じ）、聖句が適用された場合においてであり、判断を急いではなりません。繰り返しになりますが、対立する個人が、自分たちができることを取り組むすべての努力が行われていなければならないのと、マタイ 18 章に忠実でなければなりません。長老たちは以下の様々な問題を監督する準備をされているべきです：

- ・ 離婚が考えられている難しい夫婦関係
- ・ 性格の違いによるメンバーの不一致
- ・ リーダーあるいはフルタイムスタッフが原因のメンバーの不調和
- ・ 分裂と考えられるメンバーの不和

- ・ リーダーシップによって決められた基準や期待に対するメンバーの反応
- ・ スタッフ間の不一致
- ・ 礼拝、デーティング、お金などに関する強い意見

リストは長く続きます。これは、特に新しい長老にとっては、圧倒されるものかもしれません。しかし、長老が時間を取り、聖書にとどまれば、ほとんどの状況において、(聖霊の助けによって) 摩擦は解決されるのです。

極端な状況

より注意を払う必要のある状況は常にあることでしょう。それは、リーダーシップが極度に用心し、多くの祈りが必要とされる状況です。このようなことは頻繁には起こらないかもしれませんが、時々対立にあるメンバーが異例のステップを踏み、外部の法的支援を入れたり、法的処置をしたりする時もあります。このような状況は、離婚、親権問題、子供への虐待、性的虐待、その他の深刻な問題です。各教会リーダーシップは、どのようにこのような極端なケースを対処するか判断しなければなりません。状況に応じて、十分に注意して双方をサポートすると同時に、双方を保護し、自分たちで結論が出せるように専門家に頼ることも賢明なことかもしれません。法的な判断に従い、そこからの決断は教会に与える影響に応じてなされるでしょう。とてつもない忍耐と自制が必要とされ、このようなケースは何年とは言わずとも数ヶ月続くものとなるでしょう。このような状況はしばしば心が引き裂かれるようなものを含む問題です。公になることで教会が分裂する方向に行ったり、各々が意見を持ち、どちらか一方の支持をしようとしたりします。このような極端な状況の場合、長老は、別の長老あるいは教会内の専門的な兄弟姉妹にカウンセリングを求めるでしょう。このような試練の時に、長老たちは一致し、お互いにサポートし合うことも必要不可欠なことです。

地域教会を越えた摩擦

ヨシュア 22 章において、トランスヨルダン (ヨルダン側の東側) の部族が誤解と推測によって危うく戦争になりかけた場面を読むことができます。残念なことに、キリスト教の歴史はそれほど明るいものではありません。それはひとつのグループが別のグループに分かれたり、別々の教派 (一般のメンバーはその違

いを理解さえしていない時もある)を形成したりする分裂に溢れています。我々の教会の流れである、単立という旗さえも揺り動かされ続けています。それはしばしば教会運営 (governance) という重大な問題に関してではなく、あるグループが別のグループと上手くいかないというような小さな問題に関することです。そこから、同じ信仰の教義を保持しながらも、彼らは別々となり、互いに話さなくなります。一世紀の教会において、長老は自分の教会にのみ権威を持つように任命されたことは非常に明確ですが、その一方でたくさんの教会を越えたコミュニケーションがあり、教会間をつなぐ兄弟愛がありました。わたしたちは決して教会間の摩擦を避けるために、単立という仮面に隠れるべきではありません。このような分離は、強いリーダー間での衝突が原因でよく起こります。そのような時、誰もその助けに入れていません。このような種の摩擦は解決されるべきであり、その和解と一致を推し進める必要があるのは長老なのです。確かに、個々の教会には、それぞれのスタイル、性格、意見の違いがあるでしょう。そしてもちろん、文化や地域は常に考慮されるべき要因です。わたしたちは多様でありながら、それでもなお一致を持つことができます。しかし、そのためには、多くの努力と一致と解決にとどまる強い思いが必要です。それは単立と呼ばれることもある簡単な道を選ぶことを拒絶することなのです。

この文章を書いている時点で、わたしたちの教会は世界で34の地域に分かれています。わたしたちは、会議の度に共に集まり、神の力を目撃し、共に神を賛美してきました。わたしたちは、すべて一致しながらもそれぞれの地域性の違いで分かれている、世界中から集まった兄弟姉妹と交わりを持ってきました。過去には、教会間で、地域間でさえも摩擦がありました。自分たちの仕えている教会以外に長老はいかなる権威も持っていませんが、ICOCの長老サービスチームは、それらの教会あるいは地域に呼ばれた時に、そのような摩擦の解決に努めてきました。そのような問題が起きた時に、長老たちは御国においてどのように一致を保ち、摩擦に対処していくかを話し合うため、時に応じて集まってきました。今でも、わたしたちはどのように教会間や、地域レベルでの摩擦を解決すべきかを話し合い続けています。誰もひとつのグループに大きすぎる権威を与えることを望みませんが、同時に誰も未解決の困難による教会の分離を見ることも望みません。サタンの最も強い武器は常に分裂であり、わたしたちは自分たちが持つことのできるすべての霊的な力を持って、不和と闘う決心をする必要があります。

長老制は、教会内の摩擦に対処する神の最も偉大な手段のひとつです。そして、教会間が一致を保つための手段ともなります。わたしたちは世界中に強い長老制を建て続け、教会内でも、世界中の教会間においてでも、摩擦が起きる時に、その対処のために、長老は聖書的に準備され、トレーニングされていくことを見ていく必要があります。

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。（エフェソ 4:1-3）

14章 カウンセラーとしての長老：いつ専門家の治療を勧めるか

マイク・シャピロ

ローマの信徒への手紙 15 章 14 節では、クリスチャンはカウンセリングができるように、と書かれています。具体的な内容は、他人を励まし、助言を与え、神様から与えられた教会のリーダーシップの間にある霊的な問題に対してカウンセリングを提供することです。(テトス 1:9) しかし、もしあなたが 10 年以上教会のリーダーの役割を担っていたら、やり始めた途端に（個人や多数にカウンセリングをする時に）このような声が間違いなく頭に響いてくるでしょう。「もう收拾が付かなくなっている。私のどうにかできる範疇ではない」というような囁きです。その声をどのように呼ぶかは自由ですが、命懸けでそのような声を無視してください。経験のあるリーダーはミニストリーで時間をかけて、そのような声に耳を傾けない資質を磨いていく必要がある、と私は信じています。その声は、あなたの失敗・弱さ・能力のなさの目印ではないことに注意してください。実際はその反対なのです。賢く、能力のあるカウンセラーこそが、自分の経験や能力の範囲を越えていることを認められるのです。

深みにはならない方法

教会コミュニティ外のメンタルヘルスのリソースと境界線を引く前に、教会リーダーが深みにはまるのを防ぎ、不健全な声を静かにしていくためにも、まず「地雷」に目を向けていきましょう。最初の地雷は役割と関係があります。もちろん、長老はカウンセリングの役割があります。私の知り合いの長老たちは、聖書に堪能で、謙虚で、自分の判断に頼らない（箴言 3:5）ため、霊的なカウンセリングに優れています。しかし、長老は何が自分の範囲を越えてしまっているかを明確に知る必要があります。長老として、はっきりさせるべきことは、あなたはその人の心理学者でも、精神科医でも、セラピストでもない、ということです。むしろ、あなたは教会の羊飼いです。あなたには教会員を霊的に助ける個人的な責任がある一方で、あなたには守るべき教会（そしてあなたの評判）もあります。あなたが助けられる限界をはっきりと明確にしてください。そうすることで、誤解と潜在的な問題を防ぐことができます。

次の地雷は転移と呼ばれる概念に関わるものです。転移は心理学の専門における最も有名な先駆者であるシグ蒙德・フロイトによる造語です。彼は、彼の患者（その多くはお金持ち）を診察する中で、感情やニーズを彼にぶついたり、投影する傾向があることに気付きました。父親像や憐れみ深い愛人を求めている人たちにとって、彼は愛着の対象になりました。また男性に虐待された人にとって、彼は典型的かつ虐待的な父親や夫になりました。

同様に、重要で人間的な好感の力（弟子の忠誠心、尊敬、友情、称賛、愛情、評価承認欲求によって影響を与えるリーダーの能力）を持つ教会のリーダーとして、あなたは常に転移の対象となる可能性があります。つまり、時に精神的もしくは情緒的な問題を抱えている人々は、あなたにばかり気を配ってしまうがために、最終的に彼らが直面している苦難をあなたのせいにします。

説教やレッスンの後に、不機嫌な弟子から感情的な厳しい非難を浴びた経験がありますか。あなたが言ったことは何でも彼らの過去の記憶や抑圧された感情に触れてしまい、その結果、転移を引き起こします。教会の父親像として、あなたはその人の過去から来る、虐待的な父親、アルコール依存症の夫、不誠実な彼氏になってしまうかもしれません。それらを個人的に取らないでください。しかし同時に、転移を引き起こすような立ち位置に自分を置かないようにしてください。繰り返しますが、あなたの役割と境界線を明確にし続けてください。

ちなみに、これは私の個人的な見解ですが、男性に情緒的に傷つけられた女性は教会にたくさんいるので、他の女性が一人も入らずに、男性が女性にする一対一のカウンセリングはとても大きな危険を伴います。なぜなら、ポジティブ面での転移（例えば、女性が「理想」の男性を求めてしまう）や、ネガティブな面での転移（例えば、不信の問題のある女性が善意の長老に不信を投影してしまう）の両方が起こりうるからです。さらに当惑させられるのは、そのような状況で逆転移の可能性があるからです。逆転移は、リーダー、セラピスト、そして影響力を持つ権威者が自分のニーズを弟子に投影してしまいます。リーダーシップに招かれている私たちの多くにも「必要とされたいニーズ」があります。これは大惨事の原因になります。弟子が自分のニーズを長老に転移し、（必要とされたいニーズのために）長老が「ヒーロー」や理想の男性を必要とする女性のニーズを満たすために努力し、報いようとする時に、これらは起こります。このようにし

て、不健全かつ不適切な関係（時に婚外の性的関係）が生まれてしまいます。

どのように、いつ専門家の助けを勧めるのか？

あなたが教会員にカウンセリングや霊的な助言をする際に、これまでの内容が、あなたの限界を知る機会になるよう願います。もし前述の患者の「声」が大きくなる中で、自分の限界、役割、そして専門知識を越えた問題として捉え、専門家の助けを求めるように勧める必要があると確信を持ったら、どのように進めていけば良いでしょうか。どのようにメンタルヘルスの問題を抱えている人に、専門家の助けをもらうように賢く勧めますか。これは神様と聖書について、確信があるかないかわからない人に弟子を任せることなのでしょうか。

初めに言わせてください。心理学者として 35 年間の経験によって、聖書には全ての答えがあるという確信が強くなるばかりです。私はキリストの弟子になる約 5 年前から心理学者であり、初めて聖書を読んだ時、多くの現代の心理療法は既に聖書に書かれていたことに驚きました。神様は心理学について熟知しているようです。

例えば近年、とても有名な「認知行動療法 (CBT)」と呼ばれる治療技法があります。それは 1950 年代に「発明され」、当初は論理療法と呼ばれていました。認知行動療法の論理は、人の考えが感情を決定し、その逆ではない、というものです。従って、認知行動療法のゴールは個人のネガティブな、もしくは間違った考えを認識し、変えられるように訓練することで、感情面でポジティブな変化を引き起こすことです。治療技法を「発明すること」になると、私たち心理学者は実績に誇りを持つのですが、神様が 2000 年も前から心理学の先を行っていることを認識するためには、第二コリントへの手紙 10 章 5 節「*神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち倒し、あらゆる思惑をとりこにしてキリストに従わせ*」、もしくはフィリピの信徒への手紙 4 章 8 節「*終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい*」を読むだけで十分です。

他の例を挙げると、マインドフルネス療法があります。これはとても有益な技法で、効果的かつ短期的な治療技法として、科学文献でもかなり多くの支持

があります。マインドフルネス療法は、どのように立ち止まり、心を鎮め、今を大切に、現在に注目し、誰かの過去（過去を変えることはできませんが）や将来への心配事に動揺しないようにするか、を教えてください。しかし、神様がこのやり方を既に教えてくれています。詩篇 46 篇 11 節では「力を捨てよ、知れ わたしは神」、またマタイによる福音書 6 章 34 節では「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である」と言っています。これらは短く、助けになる聖句であり、マインドフルネス療法の真髄です。

お分かりのように、真に効果的な心理療法の原則は、聖句にその土台があるのです。時に、メンタルヘルスの問題がある人々は、その原則の適応の仕方を学ぶための助けが必要なだけなのです。時に、心理療法から治療を得る前に、薬によって抑うつや心配の症状を安定させる必要があるだけなのです。これらを理解した上で、どのように専門家の助けを求める時を長老は判断するのでしょうか。

もちろん個人個人は異なり、状況もいつも異なります。特にメンタルヘルスの世界では、全てを解決できるやり方は存在しません。だからこそ、クリスチャンとして他のクリスチャンを助ける時、まず知恵と分別のために祈る必要があります。また、長年のミニストリー経験によって研ぎ澄まされた感覚を元に、最良の判断を下せるように努めます。再び伝えますが、直感によるものもあるでしょう。もしあなたや教会ができる範囲を超えた助けが必要だと感じたら、ほとんどの場合、あなたは正しいでしょう。専門家の助けを求めるように伝える際に、考慮すべき一般的なガイドラインがいくつかあります。

最初に伝えたいことは、精神医学の世界において「通常の」社会的かつ職業的な活動に害がない限り、それは「通常の」問題に過ぎません。つまり、時に抑うつになり、心配になります。しかし多くの場合、抑うつや心配は一時的であり、最終的にそれらは無くなり、仕事や社会的適応や学校などに害が無くなります。もし心配や抑うつによって、朝ベッドから出られなくなっていたら、専門家を勧める時かもしれません。もし解雇されそうになるまで仕事での業績が下がってしまったら、専門家を勧める時かもしれません。最後に、もし抑うつ的な考えや心配事があまりにも酷くて、聖書を読んだり、祈ったり、教会に

参加したり、交わることすら難しくなるなら、専門家を勧める時かもしれません。

これらのガイドラインは適切な時に適応されるべき、と私は伝えます。繰り返しますが、ほとんど全ての人は何らかの時に、それらの症状を経験します。しかし、精神医学と心理学の世界では、通常、3ヶ月以上症状が続かない限り、診断はされません（精神障害の診断・統計マニュアル第5版による）。これはメンタルヘルス専門家の診断ミスを防ぐためであり、実際、愛する人の死からくる悲しみの反応は数ヶ月から数年に至って、抑うつと心配の症状が出るのが極めて当たり前だからです。

自殺願望に対処する

ここで、自殺願望と強迫観念の問題について触れていきます。それらは最も緊急性が高い「危険信号」であり、メンタルヘルス専門家を紹介する必要性を長老に警告するものです。前置きとして、精神医学の世界では一般的に自殺願望と呼ばれていますが、その中でも様々な程度に分けられることを知る必要があります。

時間の経過と共に、程度はどうであれ、ほとんどの人は自殺の考えを心に抱きます。家族面、経済面、身体面における長期的な危機の中で、多くの方は「私なんて生まれてこなければよかった」「もうここにはいたくない」「このような人生が今後も続くなら、今ここで終わらせたい」という一時的な考えを抱くでしょう。そのような状況下において、通常と思われるこの種の嘆きは、消極的自殺願望と呼ばれます。最も霊的な神様の預言者たちも似たような考えを抱いたことを知るのほどこか心が落ち着かせてくれます。例えば、モーセのストレスへの反応（民数記 11:10-15）や、エリヤがイゼベルから逃げる時の絶望（列王記上 19:1-5）の場面です。

深刻さで言えば、最も悩ましい自殺願望の種類は、自殺の計画と意志に関わる問題です。死がもたらす開放を一時的に考えることと、実際に自殺を計画する「積極的」願望には大きな違いがあります。このどちらかを判断するために、メンタルヘルス専門家である私たちは、軽い質問から徹底的な質問を通して、患者

が真剣に自らに危害を加えることを考えているかどうか、に常に徹底した注意を払います。もし真剣に考えていたら、どのような手段でしょうか。その人は計画を実行する手段を入手できますか。

誰も人の心を読めませんが、多くの場合は自殺意志からくる内面の混乱を現す（友達と家族にははっきりとわかる）、気がかりな行動があります。例えば、ある人はせわしなく「身辺整理」をしたり、突然仕事を辞めたり、思いがけず個人財産を譲ったりします。また習慣的に異常な速度での運転、誰にも告げずに家出をする、自傷行為（この行動については触れるにはこの章だけではなく一冊の本が必要です）という生を脅かすような行動をします。問題を抱えた弟子に対処する長老は、そのような行動に注意すべきです。しかし、メンタルヘルス専門家の間では、特に自殺に関して「最も優れた将来の予測は、過去の行動である」という諺のようなものがあります。だから自殺企図歴や自傷行為経験のある人は、将来的にそのような行動を繰り返す可能性は極めて高いと考えるべきです。

自殺願望の深刻さとその程度に拘わらず、自殺願望を決して見過ごすべきではありません。しかし、それは同時に専門知識のない長老の範疇を越えていると考えるべきです。つまり、消極的であれ積極的であれ、自殺願望やそのための行動には最大限の注意を払うべきであり、その人たちは資格を持つメンタルヘルス専門家に診てもらうべきです。では、どのようにして診てもらえば良いでしょうか。

「良くなりたいか？」

最初に、長老の方に覚えておいていただきたいことは、究極的には、助けをもらうのは本人の責任であり、私たちの責任ではない、ということです。もし本人が助けをもらう根本的な一歩を踏み出す十分な動機がない場合（予約の電話をする、担当臨床医の資格を調べる等）、助ける努力は実らないでしょう。イエスは麻痺した人の献身性を見極めるために、「良くなりたいか？」（ヨハネ 5:6）と尋ねた、と私は思います。もし本人が治療を求めるために必死で、良くなりたくない意志があるなら、私たちにできる最善のことは、その人を適切な人材に紹介することです。

弟子の情緒的健康について非常に心配している教会リーダーから電話やメールを受け取る時に、私は当惑する時があります。優れた教会リーダーは具体的な状況を与えてくれ、その人と会うアポを取るようお願いしてきます。そのような場合、私は教会リーダーに弟子がおんぶにだっこになっていることが心配になります。つまり、リーダーが物事をほとんどやってくれるので、弟子が自分自身を助けるための労力をほとんど使わないのです。私の経験から言うと、そのような人々にはあまり良い見通しが立てられません。彼らは自分の助けのために他人には動いて欲しいのに、結局自分で良くなるために努力をする気はないのです。

助けを求める人は、少なくとも予約は自分すべきであり、私にとってはそれこそが助けを求める意欲がある証拠です。長老として、導いたり、助言をしたり、医師やセラピストを見つける助けができます。必要なら、本人を車で予約の場所まで連れていくこともできます。しかし、明確にすべきことは、弟子が少なくとも自分の治療に対しては自分で責任を取ることです。意欲がない人は、高い確率でアポを逃したり、直前でキャンセルしたり、そうすることで治療が始まる前から治療を自分で「妨害」します。

本人が助けを求める意欲があるなら、それは担当医を探しに行く時です。資格を持つメンタルヘルス専門家の弟子たちが世の中に無数にいるため、信頼に値し、同じ価値観を持つ担当医を簡単に選べたら、それはどれだけ素晴らしいでしょうか。現実はそのようなものではありません。しかし、神様は御自分の子供を助けるためにクリスチャンでない人たちを通して働かれる、という事実にはぜひ安心してください。しかし、「世の中」で治療を探す時は、「買い主に用心させよ」という用語が当てはまります。つまり、私たちはどのような助けが必要かについてよく知っている必要があります。

どうしたら適切な専門家に紹介できる？

最初に、誰かがメンタルヘルスの助けを求めているなら、異なる能力レベル・異なる専門で、様々なメンタルヘルス専門家がいることをまず知るべきです。まずは医師から分類を試みましょう。

精神科医と心理学者の違いを知っていますか。時給にすると約 80 ドル違うの

です（いつの時代でも色褪せない冗談です）。真面目な話に戻りますが、メンタルヘルス専門家の世界で「医師」と呼ばれるのは、精神科医か心理学者のどちらかです。精神科医は医師であり、医科大学に通い、投薬療法を扱う訓練を受けています。彼らは、どのように向精神薬が人体に影響を与えるか、また他の薬との関わりについての専門家です。通常の場合、彼らはメンタルヘルス専門家と一緒に治療に当たります。例えば、彼らが患者の薬を管理し、心理学者か専門カウンセラーがセラピーを受け持ちます。

心理学の領域では、哲学・教育学・心理学の博士号を持つ人たちがいます。これら三つの博士号は異なるように思われますが、彼ら全員が臨床心理士として患者に直接治療を行う資格を持っています。多くの心理学者は心理療法における厳しい訓練を受けています。彼らは精神的な病気を適切に診断するために、心理検査を行うこともできます。受けた訓練にもよりますが、彼らは患者に学習障害・発達遅延・自閉症・注意欠陥障害のような発達障害の診断をすることもできます。

最後に、修士号のレベルでも資格を持つメンタルヘルス専門家が多くいます。このレベルでは、アルファベットが多く並んだ名称の専門家がいます。認定専門カウンセラー（LPC）、認定結婚・家族療法士（LMFT）、そして認定臨床ソーシャルワーカー（LCSW）などです。これらのカウンセラーや療法士は癒しや自己改善のための技法を教えるのに長けています。先程触れたマインドフルネス療法や認知行動療法がこれらに当たります。

繰り返しますが、これら三つの専門家は共に働く場合が多くあります。例えば、ある患者は精神科医から検査評価のために心理学者を紹介され、その後心理学者からセラピーのために専門カウンセラーを紹介されます。一見不便に思うかも知れませんが、多くの病気に対処するには莫大な知識が必要とされるため、一人のメンタルヘルス専門家が「全てをやる」ことはできないのです。

様々なレベルで子供の治療に特化した臨床医がいることも伝えなければなりません。これは覚えておくべき大切なことですが、若い人を治療するのは全く別世界なのです。多くの精神的な病気（例えば、抑うつ）は大人と子供では症状が全く異なります。同様に、治療の技法はもちろん、診断のための検査も、薬も大人と子供では異なります。従って、もし誰かが子供の助けを求めてきたら、専門

家も子供を専門に治療する訓練を受けている人であることを確認する必要があります。

最も適任なのは誰か？

メンタルヘルス専門家の種類について知ることができましたが、どのようにして治療に適任な専門家を見つけるのでしょうか。もし教会内で良い臨床医の口コミが広まっていないなら、かかりつけ医（家族開業医や小児科）から始めるのがおすすめです。なぜなら、かかりつけ医の仕事の一部は、必要ならば、患者を資格のある専門家に紹介することであり、大抵の場合、彼らは、誰が評判が良く、能力があり、資格を持っているかを知っています。

しかし、一旦紹介をされたら、助けを求めている本人が紹介された専門家を調べる責任があります。私は彼らの博士号や学位を怖がらないように助言します。精神科医・心理学者・カウンセラーに電話してください。自分の特定の問題を治療する訓練を受けているか尋ねてください。彼らの学歴や開業認可について尋ねてください。あなたを治療する人について、知る必要があることは遠慮せずに何でも尋ねてください。メンタルヘルス専門家との関係は夫婦関係のようです。もし関係において「化学反応（ケミストリー）」がよくなかったら、きつとうまくいかないでしょう。もし臨床医が「面接」されることや彼らが受けた訓練について質問されることに抵抗を感じているようなら、（個人的な意見ですが）これは高慢のサインであり、次の人に行くべきです。私自身も臨床医として、将来の患者からのいかなる質問にも答える機会をいつも歓迎しています。

確信に固く留まる

最後に、クリスチャンでないメンタルヘルス専門家に助けを求める際の大切なことを伝えます。全州の専門免許委員会の倫理と全ての専門（例えば、アメリカ精神医学会・アメリカ心理学会・アメリカ結婚・家族療法士会）の理事会の倫理規定は、メンタルヘルス治療供給者が、彼らの「世界観」を患者に押し付けることは非倫理的であると一様に宣言しています。

つまり、たとえ供給者がノンクリスチャン、無神学者、異教者であれ、彼らは患者の聖書についての思いや意見を尊重しなければならないということです。従って、治療関係が始める段階で、弟子が供給者にクリスチャンであること、助

言と助けを求めにきたこと、聖書に反することは一切する気はないことを伝えることは賢いことです。例えば、同性に魅力を感じる葛藤がある場合、あるセラピストは同性愛に「ふける」ように、もしくは同性愛を「探求する」ように助言をするかもしれませんが、それはまさにクリスチャンが避けるべきことです。いずれの倫理的な供給者も、そのような警告を喜んで受け入れ、患者の希望を尊重してくれます。しかし、クリスチャンが治療の初めに自ら伝えない限り、供給者は境界線がわかりません。

35年にわたる経験と29年にわたるクリスチャン人生を通して、私にとって明らかになっているのは、熱心に祈りを捧げ、忠実な人々を癒すために、主は医師や薬を通して働かれるということです。一度メンタルヘルス治療の道に進んだとしても、忠実であり続け、聖書を読み、継続的に祈り、勧められた治療法に従う責任が弟子たちにはあります。もし長老としてそのようにクリスチャンを助けるなら、「神の国を宣べ伝え、病人をいやす」ために遣わされた十二使徒の足跡に続いてください。神様の恵みによって、私たちは弟子が必要な助けを受けられるように賢く導くことができます。

15章 学び続けるリーダーとしての長老

ウィンドハム・ショー

長老になることを望み、この本を読んでいるとしたら、もしかすると今あなたはこのような思っているかもしれません。「これらすべては私にはできない」と。それはみんなが経験する感情です。

グッドニュースは、神様は恵みと真理に溢れている方なので、私たちを成長させ、学ばせてくださいます。実際、弱さの中で神様に頼る時、神様の力が私たちを通して働くでしょう。(第二コリント人への手紙 12:7-10) あなたは長年の人生経験によって、自分が思っている以上に、既に多くのことを知っていますし、最も大切なことは、聖霊があなたと共にいることです。

神様が私たちを神の本性に預らせてくださり、栄光から栄光へと成長させてくださることに感謝しましょう。(2ペトロの手紙 1:4、第二コリント人への手紙 3:18) 神様は御言葉・約束された知恵・霊の力・知恵をくれる関係を通して、私たちに必要なものを与え、私たちの直感が正しいかどうかを確認して下さいます。

私たちは間違えることがあります、学びの中で、それらは減っていきます。私たちは謙虚であることによって、学び続けるリーダーであるのです。もしあなたが「全てをわかっている」と感じたら、謙虚さに欠けています。

私が兄弟に長老になる提案をするとき、最初の反応は不安、もしくは恐れがほとんどです。これには多くの理由がありますが、とりわけ大きいのは、神様はリーダーシップを、良い仕事と見られていることへの認識と確信がないためです。(1テモテへの手紙 3:1) パウロは、兄弟たちが長老の職を求めることを望んでいると、自分の言葉で書いています。パウロは時に人々が正しい動機や誤った動機で福音に反応することに気付いていますが、リーダーになることを求める必要性については疑いを全く持っていません。

信心深い人格の持ち主であるけど自信がない人もいれば、自信はあるけど信心深い人格の持ち主でない人もいます。目標はその両方の側面を持つことです。信心深い行動の源は、原則に基づく優れた判断力と自制、またそれらを実行する情緒的な知性です。そのためには、人格、思考能力、そして御心と一致して行動

する面での成長が求められます。大胆かつ謙虚なリーダーシップが不可欠であり、そのためには他人の模範に倣い、厳しい学びを経験し、たえず祈る必要があります。私たちは自分の経験からも他人の経験からも学ぶことができますが、そのためにも良い学び手でなければなりません。

人を賢くするのは、年齢ではなく、経験からの学びです。「長老」は年齢の側面を含みますが、長老とは学び手の精神を意味しているのです。弟子とは、生徒であり、学び手です。長老はその精神の示す生きた証でなければなりません。私たちは意図的に学ぶ強い決意をする必要があります。

私たちが下す決断も、知恵を得る学習曲線に影響を与えます。長老は全ての決断、特に結果的にうまくいかなかったものから得た学びを正確に伝えられるようにすべきです。

私の記憶にあるのは、2001年の教会リーダーシップの危機であり、そこからの学びを振り返るのはとても助けになりました。私は祈り、よく考え、聖句を読み、他人に相談し、多くの本を読みました。

2010年に私たち長老はもう一つの学習曲線を経験しましたが、それは2001年から2003年での学びとは異なるものでした。過去にうまくいかなかった決断からの学びを元に、多くの有益なやり方を実行しました。このような決断からの学びのほとんどは、決断のプロセスで誰に関わってもらうべきだったか、どのような決断が下される必要があったか、いつ・どのように決断が教会に伝えられるのがベストか、に関するものです。私たちが学んだ他の教訓は、教会が大きく揺れてしまい、教会が神様に完全にコミットする心を失い、教会内での罪を増長してしまったことです。私たちはそのような状況にどのように対処するのかを学ばなければなりませんでした。

パウロはテモテに対してリーダーシップの成長の原則を教えています。成長には私たちの勤勉さと完全に献げる心が必要です。

これらのことに努めなさい。そこから離れてはなりません。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。自分自身と教えとに気を配りなさい。以上のことをしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは自分自身

と、あなたの言葉を聞く人々とを救うこととなります。(1 テモテへの手紙 4:15-16)

聖句が教えているように、私たちは、聖書の朗読、教えること、御言葉を語ること、成長の追求心によって成長するのです。

私たちの進歩は明らかになります。私たち自身にも他人にも私たちの成長の様子が明らかになるべきです。私たちが成長する必要がある部分に取り組む時、私たちはより成長します。

以下のリストは長年にわたって私が成長した部分であると同時に、今も取り組んでいる部分です。

- ・怒りとイライラしたトーンではなく、柔和に話す
- ・人との衝突の恐れ、特に他のリーダーの成長を促す恐れを乗り越える
- ・八方美人にならずに賛成する
- ・説得力を持ち、自分もオープンマインドを持つ
- ・温かく近寄りやすいリーダーになる
- ・脆弱になり、弱さを分かち合う
- ・良い聞き手になる
- ・失敗する恐れを乗り越える
- ・リーダーと意思決定をしっかりと査察する
- ・経験の少ないリーダーを支え、助け、励ます面で成長する
- ・難しく喜ばれない決断をする勇気を持つ

私たち自身や他人に明らかになるのは、進歩であり、あなたの完璧さではないことを覚えてください。私たちも羊の一匹にすぎないですが、私たちは囲いの周りに少し長くいる羊だからこそ、他の羊を助ける経験や知恵を持っています。聖句が教えているように、学ぶことの重要性は非常に大きいです。教えをしっかりと守り、霊的に成長することによって、あなたは自分自身と、他人とを救うこととなります。

何年前か前、シンガポールのカンファレンスに出席した際、ジーニーと私はホテ

ルの部屋の窓から大きな建設現場を見ていました。シンガポールの歴史は進歩の働きについてのインスピレーションとビジョンを与えてくれます。50年前、シンガポールの都市は貧困、混沌、そして痛みで満ちていました。「祖国」から追い出され、シンガポールは自給自足の生活を強いられました。リー・クアン・ユー首相は貧困し、見捨てられ、孤立した都市を目の当たりにして、彼の愛と情熱から、一致、力、美しさ、卓越さに満ちた国を作るビジョンを持ちました。50年後、シンガポールはそれらとそれ以上のものに満ちた都市に成長しました。今は、活気、繁栄、美しさに満ちた都市です。

時に、私たちは個人的な弱さや神様の教会の欠点に目を向け、がっかりし、軽蔑さえしたくなる誘惑があるかもしれません。あなたは欠点にすぐに目がいきやすいですか。もしそうなら長老として、進歩に必要なビジョンを持ち、ビジョンに留まり続ける愛と忍耐を持つことは極めて大切です。

私たちが進歩の作品であることを覚え、ずっと学び続け、いつも成長しましょう。神様の愛する教会への神様のビジョンを決して失わないようにしましょう。

もし物理的な都市が人間のリーダーシップと意欲ある働き手によって建てられるのであれば、私たちが協力して地上に神様の国を建てる時、私たちが完成まで成長させてくださる聖霊を通して、神様はどのようなことを成し遂げてくださるでしょうか。

わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。（フィリピの信徒への手紙 1:3-6)

16章 羊飼いは失われた羊を捜す

ウィンダム・ショー

5年前の出来事ですが、私が住んでいる家の直径160キロ以内に住んでいる人は全員「スナッピー」という名前を知っていました。スナッピーはある家族が飼っていたワイマラナーという種類の犬であり、迷子になっていました。飼い主は必死にスナッピーを捜し、街中に何百のビラを貼りました。隣の州から迷子の犬を見つける専門家まで雇いました。「スナッピーを見つけましょう」というFacebookのページを作成し、そのページに人は情報を投稿することができました。(今でも妻はスナッピーが見つかったかどうかを確認するために、そのページを時々確認します)今でも捜し続けられています。電信柱に貼ったビラは今ボロボロになった状態になったにも関わらず。

私たちはこの家族が迷子になった犬を捜すような必死さと忍耐を持って主から離れた迷った羊を捜していますか。羊飼いは迷子になった羊を捜します。

(ルカ 15:1-7) 神様は離れた子供が戻ってくることを望んでいます。彼らは家族です。守られていなければ、危険にさらされて、多くのものの餌食となります。

迷った羊を連れ戻す必死さ

私たちが自分の子供を片時も忘れられないように、神様も自分の子供を決して忘れません。それどころか、神様は私たちの思いをはるかに超えるくらいの思いです。神様にとって、迷った弟子が神の体に戻ってくることは教会の活動にとっても、愛し合う関係においても中心的なものです。(ガラテア 6:1-2、ヤコブ 5:19-20)

弟子が迷う時、多くのリスクがあります。悔い改めない罪を犯し続けてしまい、信仰を失うことによって神様との関係をすぐにでも失う可能性があります。彼らは神様との関係、そして霊的な家族との関係を修復する必要があります。(イザヤ 59:1-2、ローマ 1:16-17、ヘブライ 11:6) 大きなリスクを抱えているので、関係の修復を緊急に行う必要があります。そうでなければ神様に裁かれて永遠に神様と離れた硬い心を持つことになってしまいます。(ヘブライ

2:1-3、3:6-14)

サタンは人を騙し、人を滅ぼします。サタンは弱い者と若者を狙います。
(第一ペテロ 5:8-9、第二テモテ 2:22-26) それと同時にサタンは「強い」信仰を持った弟子の信仰を奪う機会を狙っています。神様から離れた人は自分の責任で離れたので、自分の責任で神様との関係を立て直す必要があります。(エゼキエル 18:30-32) 神様に戻れるように手助けをする羊飼ひも必要です。放蕩息子の話しを読んで分かるように、愛に溢れた天のお父さんは裁くことではなく、許して関係を修復することを望んでいます。(ルカ 15:11-32) 私たちも神様が持っているそのような心を持つべきです。

聖書的な再献身（修復）の特徴

再献身のプロセスは失われた交わりの二つの側面を修復することがあります。最初にその人が神様との関係を修復するように助けます。もう一つはその人の他の弟子との関係を修復することです。(第一ヨハネ 1:1-7) この二つの側面をどのように修復していくか、またはどちらをより強調するかなどは関わる人の判断が必要となります。聖書がはっきりと教えていることとは、人は神様の前で正しくあるためには、神様との関係も弟子との関係も両方修復する必要があります。

再献身する必要性は誰にでも訪れる可能性があるものなので、離れた人たちを再献身する時には柔和さと謙虚さを持って行いましょう。(ガラテア 6:1-2) 離れた時の人の心の中には二つの極端なものがあります。ある人は頑なな心になっています。ある人は罪悪感と恥でいっぱいです。(ある人は両方が混ざっていることもあります) この両極端の心は再献身を難しくします。成熟さを持ってしっかりと判断しましょう。その両極端の心を見極めて、それぞれに対して必要に応じて助けましょう。

多くの場合、人が霊的にずれてしまい、霊的に成熟できないことによって少しずつ離れてしまいます。(ヘブライ 2:1-3、ヤコブ 5:19-20) どのような形で離れたとしても、神様との関係や霊的な家族との関係が修復されていないままでは危険です。

全ての弟子が離れた人が戻れるように助けたい心を持つべきですが、全ての

弟子が再献身のプロセスを助ける適任であるかどうかは別問題です。できれば長老が関わり、豊富な経験を持った成熟した弟子が特に関わった方がいいでしょう。(ヤコブ 5:19、ガラテア 6:1-2) 再献身に関連するプロセスや解決しないといけない問題が複雑であることが多いので、繊細なコミュニケーションと丁寧な行動が必要とされます。助けていく中で、甘すぎるか、きつ過ぎるかの両極端に走りやすくなります。全ての状況が異なるものであるため、正確な判断が必要であり、その人の罪や過去のことを把握した上ですすめていく必要があります。

再献身に必要なのは最終的に悔い改め、赦し、受け入れ、そして関わっている人の合意が必要です。再献身する人は、神様や教会から離れることにつながった罪を悔い改める必要があります。主は赦したい方なので、霊的な家族も神様と同じように恵みを施し、恥と罪悪感を感じている人を赦してあげる必要があります。(イザヤ 1:18-19) 助けている兄弟姉妹たちが安心感を与えて、受け入れてあげることによって再献身している人が、恐れ、恥と罪悪感から解放されるようになります。それによって「元通りになれた」と感じるでしょう。神様は人に猶予を与えることもなく、いつまでも人の罪を引きずりません。(創世記 50:15-21、ルカ 15:25-32、第二コリント 2:5-10)

人が再献身した時には大きな喜びがあります。このプロセスによってその人にとっても教会にとっても成長するきっかけになります。(ルカ 15、ヤコブ 5:19-20) イエスの心を見倣い、このように「和解のミニストリー」に関わる時に神様の栄光を表します。教会の中ではバプテスマも再献身も同じほど大切です。場合によってバプテスマよりも再献身の方が大きな喜びをもたらすことがあります。その理由は、羊が離れた時には、その人と繋がりがあつた多くの人たちの中で悲しみがあるからです。しかし、その人が戻ってきたことには大きな喜びがあります。

どのようにやればいいですか？

スナッピーの飼い主は必死で諦めなかったです。私たちは迷ってしまった魂に対してより必死であるべきではないでしょうか？

私と妻はいい思いで終わるだけでなく、実践するために以下のことをやっ

てきました。

- ・離れてしまった人に連絡をして、会って話せるようにお願いします。
- ・特に若い時に教会でバプテスマを受けて、大人になって離れた人に連絡をして、教会から去った後でも愛していることを伝えます。
- ・毎週、ある夜を特別に空けて、離れてしまっ人たちを家に招待します。この予定は数週間前から設定します。一緒に食事しながら、素晴らしい会話ができた後に人の心が開かれて、一緒に聖書を読みながら更に深く話すきっかけが与えられたこともあります。このように継続的に人を招待すると決心することによって数多くの人々が再献身することにつながりました。

再献身ミニストリーのための具体的な知恵

知恵は、聖書を読むこと、聖霊の導きによって、経験を積み重ねてトレーニングされること、他の人から多くの助言をもらうことによって増します。離れた人には深い井戸のように様々な悩みがあり、その心の思いを汲み出すためには知恵が必要です。(箴言 20:5)

その人がなぜ教会を離れた理由を聞いてください。またどうして神様から離れた理由を聞いてください。彼らのその答えに注目して聞いてください。その人が教会から離れただけではなく、主からも離れたとと思っているかどうかを判断してください。知恵を持って二つの問題に取り組む必要があります。

- 1.教会の誰かによって躓いた時。
- 2.教会と和解していない人は、神様と正しく和解していないことを理解してもらおう。

この二つの問題は関連しているけど、正しく理解されていないかもしれません。人間関係でがっかりし、難しさを感じたとしても、神様との約束を守ることを期待されています。(ローマ 2:5) この教えは神様を正しく理解する上では難しい教えであると同時に重要であります。

人は、指導者や他の弟子によって霊的に躓くことがあります。躓かせてしまった人の責任は神様が最終的に裁きます。(エゼキエル 34:10、ルカ 17:1-5) 神様にとって赦すことは重要であると同時に、人は和解した後、かつて難しかった関係から距離を置いて、違うミニストリーに移ることができます。そのようにしても神様には忠実であります。しかし、教会から断絶した状態で神様に忠実であることはできません。

人と人の間の摩擦について話しを聞く時に、必ず箴言 18:7 を守り、両側の話しを聞かなければなりません。何が正しく、何が間違っていたと判断する前にバランスが取れた情報収集することが大事です。

神様に対して忠実に生きるために人は、正しい教義と正しい生き方を両方備える必要があるという確信を手放してはいけません。その人が信じる教義と生き方を中心に再献身に関係する会話をしてください。過去に傷つき、嫌な経験をした人は間違った教義に心が惹かれてしまうことがあります。私たちが傷き、試練にあったことによって神様は救いの条件を変えません。熱心に神様の言葉を読み続けなければ、神様の言葉の代わりに自分の思いを優先してしまう恐れがあります。(第二テモテ 4:1-5)

再献身をする時のフォーカスをその人とイエスの関係に置いてください。離れた人が元々所属していたグループ(小グループ、教会、地域リージョン)に戻ることは絶対的ではありません。正しい教義と生き方に置いてイエスとつながり、教会とつながっていることは必要です。

離れた人が戻れるように助けることへの必死さは常に持っているべきですが、再献身のタイミングはその人個人の信仰、心とその人の意思によって決まります。(第二コリント 6:1-3、11-13、ローマ 15:2-3) その人が個人的な決心ができるようになるほどの信仰を取り戻す必要があります。

再献身のプロセスには常に聖書の勉強と祈りを中心にするべきです。それは共同作業としても、その人個人としても。(ローマ 10:17、第一コリント 3:6-7)

その人が再献身をしたいという意思表示をしたら、その人と一緒に人生で明らかな悔い改めの実について話してください。(ルカ 3:7-15) 具体的に悔い改めとはどのような形のものであることを理解するために助けが必要な時があり

ます。イエスは人に悔い改めについて語りながら、そのことを理解できるように助けました。弟子とし継続的に悔い改め続けることと、再献身する上で悔い改めることの区別をしてください。

喜ぶ時

人が離れた時に辛い思いをすると同時に、迷子になった羊が戻って来た時は大いに喜ぶ時であることを聖書は教えています。弟子として生きていく上で悲しみも喜びも両方経験します。その感情をプロセスできる霊的なキャパが与えられように神様に祈りましょう。たゆまず善を行うように命じられています。(ガラテア 6:9) それができるのは、聖霊の力と神様から与えられる愛によってできます。一人一人の改心も再献身もユニークなものです。誰に対してもイエスは恵みを持って救いたい気持ちに溢れています。私たちも主イエスの心を見倣いましょう。

最後に

「和解のミニストリー」とは福音を述べ伝えて、新しい人が救われ続けることと、離れたしまった人が再献身することの両方が含まれています。時に教会が大きくなった時や年数が経た時に重要になります。人が改心されていく面でも牧会される面でも成功もあれば失敗もあります。忍耐してイエスについて行き、続けて信仰を保ちながら、イエスの心と霊を見倣い続けましょう。

多くの人が神様の元に帰れるように助けられますように。神様の栄光が現れますように。

「言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

(ルカ 15:7)